

上富良野町 教育振興基本計画 (改訂版)



上富良野町教育委員会

はじめに

近年の社会情勢は、グローバル化や高度情報化の進展、少子高齢化など社会の急激な変化にともない、高度化・複雑化する数多くの課題への対応が必要になり、多様な方向性や視点など交錯する変化が激しく先行きが不透明な社会へと移行しつつあります。

こうした中、「人と人との支え合い」や「ふるさとを愛する心」、「子どもたちの自主的な行動」、「優しく人を思いやる心」などは、教育がめざす原点です。

町づくりは、人づくりと地域の教育によって支えられ、活性化されるものであります。その主体となって次代を担う人材を育むために、教育の果たす役割はますます重要になっています。

このために、教育における不易と流行を見極め、幼児期から高齢期まで、ライフステージに応じた学習の機会を提供するとともに、何より、町民一人一人が自ら進んで学ぶことに生きがいや喜びを感じ、「笑顔」があふれる教育行政に取り組んでいきます。

これからも町民憲章を踏まえ、「上富良野町教育振興基本計画」並びに「教育目標」を基本として、十勝岳の自然豊かな地域素材や人材を生かし、家庭・学校・地域が一体となった教育活動を大切に「次代を担う豊かな人づくり」を推進していきます。

上富良野町教育委員会

教育長 服部 久和

目 次

《第1章 序 論》

1	教育振興基本計画（改訂版）の策定について	1
2	教育振興基本計画の構造について	2
3	教育振興基本計画の期間について	2
4	教育を取り巻く状況について	3

《第2章 教育目標》

1	教育目標	7
---	------	---

《第3章 学校教育》

1	学校教育基本方針について	8
2	学校教育推進目標について	9
3	学校教育における基本施策の重点について	10
4	学校教育体系図	16

《第4章 社会教育》

1	社会教育基本方針について	18
2	社会教育推進目標について	19
3	第8次社会教育中期計画の概要について	20
4	社会教育の現状と課題について	22
5	第8次社会教育中期計画について	32
6	第8次社会教育中期計画の評価指数について	37
7	第8次社会教育中期計画体系図	38
8	社会教育関係資料	40

《第5章 資 料》

1	町の人口数、学校数・学級数・児童生徒数の現況	114
2	第5次総合計画町民アンケート結果（教育関連項目）	115
3	用語の説明	116
4	教育振興基本計画の作成に係った関係機関及び関係者	122



上富良野町章

解 説

まん中の「富」を囲んで「力」が三つ集まっています。
「力」「三」「富」これでまず町名「かみふ」と読みます。
次に「力」はちからを指し、3字集まって協力の「協」を表わし、それが全体の輪（和）によって中心「富」を生むのです。

町の人々のあたたかい願いを込めた町のシンボルマークです。

(昭和32年9月5日制定)

上 富 良 野 町 民 憲 章

わたくしたちは、雄峰、十勝岳のふもと富良野平原の母なる地、上富良野町民であることに誇りをもち、この憲章をかかげて先人の偉業を継ぎ、明るく豊かな郷土をつくることにつとめましょう。

- 一 正しい心と健やかな体で、希望に生きましょう。
- 一 いたわりあって、楽しい家庭をつくりましょう。
- 一 きまりを守り、明るい社会をつくりましょう。
- 一 文化を高め、豊かな郷土をつくりましょう。
- 一 勤労をよろこび、自然の恵みに感謝しましょう。

(昭和42年6月26日制定)

《第1章 序 論》

1 教育振興基本計画（改訂版）の策定について

昭和22年に制定されてから約60年ぶりに教育基本法が改正（平成18年12月）され、それに基づき、国はもとより各地方公共団体においても、教育振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため「教育振興基本計画」を策定することになりました。

教育委員会では、平成21年度からの上富良野町第5次総合計画にあわせ「上富良野町教育振興基本計画」の策定を行いました。

これまでは、町民憲章の理念を基に昭和53年に教育目標、学校教育基本方針、社会教育基本方針を定め、社会教育においてはこの年に第1次社会教育中期計画を策定し、5カ年ごとに見直しを行い、町の教育を計画的に推進してきました。

本計画は、平成21年度から平成30年度までの10年間を計画期間として教育目標、学校教育基本方針、社会教育基本方針の見直し、学校教育推進目標、社会教育推進目標を新たに定め、第7次社会教育中期計画の策定を行い推進してきました。今回の期間は、平成30年度までとしてきましたが、教育の現状や今日の社会状況を踏まえ、今後5カ年間を見通した計画（改訂版）とともに、第8次社会教育中期計画を策定しました。

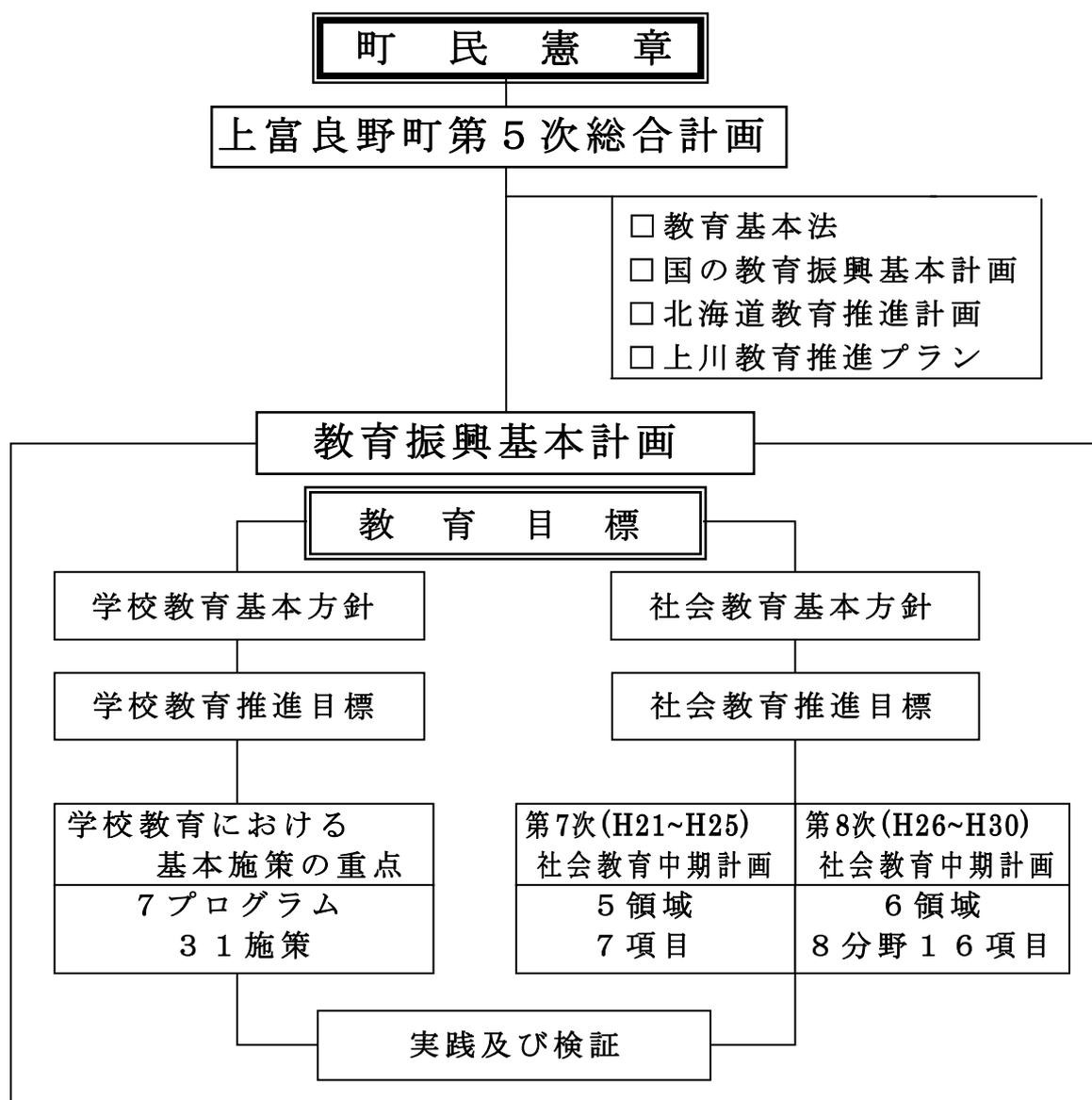
学校教育は、教育目標、学校教育基本方針を受けた学校教育目標を具現化するため、その施策の重点を「プログラム」として推進してきましたが、今後の5年間について、「7プログラムと31施策」に整理・修正等見直しを行い策定しました。

社会教育は、教育目標、社会教育方針、社会教育推進目標を具現化するため、第7次社会教育中期計画において5項目の領域と7項目の推進項目を策定してきましたが、第8次社会教育中期計画策定にあたり、その進捗状況に応じ検証を進め、目標達成のための重点として「6領域と8分野16推進項目」に見直しを行い策定しました。

今後5年間を見据える「上富良野町教育振興基本計画」がその礎となり、家庭・地域・学校・行政がともに連携・協力し、課題に向き合った教育の推進ができるよう取り組むものです。

この策定については、教育基本法はもとより、国の教育振興基本計画、北海道教育推進計画、上川教育推進プランそして上富良野町町民憲章及び第5次総合計画などの理念を踏まえ作成しました。

2 教育振興基本計画の構造について

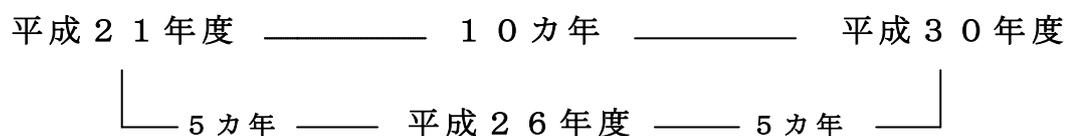


3 教育振興基本計画の期間について

この計画は、町の第5次総合計画と同じく平成21年度を初年度とし推進してきました。

平成25年度は、中間年にあたり一部修正・見直しを図り平成30年度を見据えて、今後5年間で計画推進の期間とします。

なお、教育をめぐる環境の変化などに応じ適宜計画の見直しを行うこととします。



4 教育を取り巻く状況について

(1) 全国的な状況

□社会の状況

近年、我が国では社会経済の発展とともに、価値観と生活様式の多様化が特に進んできたと考えられます。その流れが、核家族化や少子高齢化を招くとともに、国際化や高度情報化が急速に進む中、急激な社会変化が起こり、知識基盤社会の時代になってきています。このことが、家庭・地域の教育力や規範意識・道徳心の低下を招いたと考えられ、大きな課題となっています。

また、家庭や地域社会における子ども同士、人と人との関わりの希薄さを思わせる事件・事故など、毎日のように報道されています。

いじめ、不登校、体罰、家庭崩壊、自殺、読書や活字離れ、ネット等による犯罪など、物質的な豊かさと利便さを追い求める中で「心」や「不易な価値観」、「社会性」という大切なものが失われてきています。

また、経済発展を支えてきた大量生産・大量消費の経済システムは、地球規模での環境問題を深刻なものにしています。自然や物を大切にすることなど環境保全への取組も大きな課題となっています。

□子どもの状況

大人社会の夜型ライフスタイルへの変化などにより、睡眠時間の減少や栄養が偏った食事など不健康な生活をおくる子どもたちが増えています。

また、急速に発達したゲーム機器やインターネット、携帯電話等の普及によって疑似体験や間接体験が多くなり、逆に自然体験や勤労・生活体験が不足する傾向にあります。そのことが外で元気に遊ぶ子どもが少なくなり、塾や習いごとが増加し、家庭での団らんの時間や地域との関わりあう機会も減少する中で、人と人との「ふれあい」が少なくなってきました。これらがともすれば自己中心的な人間をつくりあげ、人に対する「思いやり・いたわり」、「感謝の気持ち」などを希薄にさせ、規範意識や道徳心の低下を招いていると考えられます。

さらに、子どもの学力は低下傾向にあり、何かが欠けどこかにひずみが生じていると考えなければなりません。

身長・体重等の体格は、衣食住の生活環境の改善から良くなってきていますが、その反面、肥満の増加や視力低下など健康面で課題が生じています。

また、体力・運動能力においても、低下傾向が指摘されていることは、幼少期からの体を使っての遊びが少なくなっていることも一因と考えられます。

□家庭や地域・学校の状況

「人はひとりでは生きていけない」という言葉があるように、家庭を基盤として、地域や保育所(園)・幼稚園・学校を通してコミュニケーションや倫理観・道徳心が養われ、協調・協働・連帯という社会性が培われてきました。

しかし、核家族化の進行は、年長者の知恵・経験・技を学ぶ機会や会話の機会を少なくし、近隣地域との交流も少なくさせています。それは、大人にとって、子育てへの不安や対人関係の構築を難しいものにし、虐待することや危険なこと、悪いことを見て見ぬふりをするなど、家庭や地域の教育力の低下を招いていると考えられます。

これからの学校では、急激な社会の変化に主体的に対応できる子どもたちを育成することが求められています。そのためには、子どもたち一人一人に基礎・基本を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を育成するとともに、知・徳・体のバランスの取れた教育を行う必要があります。

□社会教育の状況

すべての住民が豊かでゆとりある人生をおくるために、子どもから高齢者まで様々な教育活動や社会体験活動、文化芸術活動を通して、生涯にわたって主体的に学び続けることができるような教育環境を整えていくことが求められています。

また、ふるさとの自然や文化に誇りと愛着がもてるよう、地域の歴史や文化財などに親しめる機会を充実させていく必要があります。

さらに、高齢化社会を迎え、健康で活力に満ちた生活を送るためには、スポーツ・レクリエーションに親しめる機会をつくり、健康の保持増進、体力づくりの推進に努めていくことが不可欠です。

(2) 上富良野町の状況

□学校教育の状況

諸調査から、「朝食をしっかりとること」や「規則正しい起床・就寝」と「十分な睡眠時間の確保」、「家庭で学校の出来事を話す」など家庭での基本的生活習慣が定着しています。

また、不審者などの対策には「児童生徒の登下校時のパトロール隊」をいち早く組織し、実行している地域住民会の方々の存在や「青少年健全育成をすすめる会」に各層からの積



極的な参加体制が取られていることなどから、家庭や地域の教育環境は整いつつあります。

「全国学力・学習状況調査」から、子どもたちは、規範意識が高く、道徳的な考え方や行動も望ましい傾向にあります。

また、学校での授業や生活に安定した様子が見られるとともに、課外活動での熱心な取組から、全道大会・全国大会へと駒を進める活躍をしています。



学力においては、国語・算数数学が「好き」、「授業内容はわかる」という子どもたちが多く、学力の向上が見られます。しかし、テレビ視聴やコンピュータ・携帯ゲーム等に費やす時間が多く、家庭での学習時間が少ない傾向があります。

このような様子から、町としては、全体が落ち着いた良い環境にあるのは、保護者・地域・学校・各層の方々の連携や協力支援によると考えられます。しかし、つくりあげることの難しさもありますが、それを維持し、さらに向上させることはもっと難しいとされていますので、油断をすることなく検証評価し、改善を進めていきます。

□社会教育の状況

第7次社会教育中期計画（平成21年度～25年度）の進捗状況を検証し、子どもから高齢者のすべての世代において、「豊かな心と健やかな体を育み、潤いある地域づくりをめざす生涯学習」の推進にむけて取り組んでいます。

家庭教育は、「家庭」を基本とし基本的な生活習慣の定着と親子や家族の絆を深めることができるよう「家庭教育力の向上」をめざし研修会を開催しています。

青少年教育は、次代を担う子どもたちの育成として、歴史・文化・スポーツ等様々な体験を通して、心豊かな人材育成に努めています。

また、安心・安全な子どもの放課後活動について、地域住民の支援により推進しています。

成人・高齢者教育は、住民自らの学習活動を持続するとともに、知識や経験を生かせるよう生涯学習活動を支援しています。

文化芸術の振興は、町民の心の豊かさを育むため、芸術鑑賞の機会の充実と文化活動の持続について支援しています。

読書普及活動の推進は、特に、子どもたちの読書環境の充実を図るため、第1次子ども読書推進計画に基づき、図書館、町内の幼稚園・保育園、小・中・高等学校、ボランティア団体等関係機関と連携し、いつでも・どこでも・だれもが読書できる環境を構築しています。



郷土に関わる歴史については、郷土館・開拓記念館において継承し、学習・調査・研修等を推進しています。

スポーツの振興は、体力の向上と健康づくりの推進、スポーツ活動の持続について支援しています。

社会教育に関わる各委員の活動の充実と社会教育の担当職員の資質向上をめざし、各種研修会等に積極的に参加しています。

社会教育施設整備は、町総合計画並びに教育振興基本計画に基づき計画的な維持管理に努めています。各施設とも建設時から年数を経ており、今後も適正な管理が必要です。

21世紀は、我が国ばかりでなく国際社会としてもこれらの多くの課題と向き合い、積極的に対応し、解決・努力を図る時代といえるかもしれません。そのために、様々な状況や変化にしっかりと対応できる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」をもった人づくり・社会づくりをさらに推進させなければなりません。



本町では、学校教育と社会教育を両輪とする生涯学習社会づくりを通して、未来を担う「人づくり」を推進していきます。

《第2章 教育目標》

1 教育目標

上富良野町の教育は、郷土を愛し、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人づくりをめざします。

町民が生涯にわたって学び、家庭・地域・学校が互いに協力し、「生きる力」を育むよう次の目標を定めます。

(1) 知性を高め、一人一人の良さを伸ばし育てる

「幼児からお年寄りまで、町民一人一人が生涯にわたって学習を続け、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく課題解決する力（知性）を高めるとともに、それぞれが培った個性（良さ）を自他共に大切にし、様々な場面でそれを十分に発揮できるようにすることをめざす。」を意味しています。

(2) 豊かな心と健やかな体を養い、感性を豊かに支えあう意識を育てる

「自らを律し、責任感・規範意識をもって、思いやる心や感動する心などの人間性をさらに高めること」「基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはんなど）の確立とスポーツ等の振興をもって健康な体・たくましい体をつくること」「人間の情感（感性）を理解しあいながら、協調・協力して勤労・奉仕に努めること」をもとに、安心と活力ある社会づくりをめざすことを意味しています。

(3) 自然や文化を大切にし、郷土を愛する心を育てる

「我が町の自然や文化を知り、国や他都府県・他市町村、強いては諸外国の自然や文化も理解することにより、我が町の風土や伝統芸能、観光資源や産業などの良さをより深く理解し、それらをさらに発展させることをめざす。それが、郷土を愛する心にもつながる。」ことを意味しています。

《第3章 学校教育》

1 学校教育基本方針について

町の教育目標達成をめざし、学校教育の分野では、その具現化に向けてどのような方策をもって上富っ子たちの教育を推進していくか、その基本的な方向性を示します。

学校教育基本方針

～夢ひろげ、たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成～

1 確かな学力と豊かな心やたくましい体の育成を図る

子どもの育ちを「確かな学力・豊かな心・たくましい体」の三つの観点で表しています。

「確かな学力」の育成は、知識とそれを活用して思考力・判断力・表現力を向上させ、自ら学び自ら考える力を育成することです。

「豊かな心」の育成は、人の気持ちを理解し、思いやりの心や規範意識、感動する心を育成することにあります。

「たくましい体」の育成は、正しい生活習慣と健康管理の理解と定着を促し、運動する機会を増やして体格・体力の増進を図ることです。

これらをもって、「知・徳・体」のバランスのとれた子どもたちの健やかな育ちをめざします。

2 開かれた学校運営に努め、学校・家庭・地域の連帯を深め、 信頼される学校づくりを推進する

子どもたちのよりよい育成をめざす学校教育を進める上で、学校を側面的に支える家庭や地域の協力がなくてはならないものとなっています。学校が中心となり、学校・家庭・地域三者の連携を深めることにより相互に理解と信頼を築き、子どもたちの健やかな「育ち」の促進をめざします。

3 子どもを愛し、たえず自らの人間力を磨く教師を育成する

子どもたちのよりよい育成に正面から取り組んでいくのは学校であり、その学校を担い、直接的に子どもと関わっていくのは教師です。豊かな人間力（知性、人間性、実践力、コミュニケーション力、指導力など）が教師に求められており、その育成に積極的に取り組みます。

4 創意に富む教育の実現に努め、教育条件の整備充実を図る

「子どもたちの知・徳・体」「学校・家庭・地域の連携」「教師の人間力」という大きな方針を支える土台として、より効果的な教育条件整備をめざします。

2 学校教育推進目標について

町の教育目標や学校教育基本方針を受けて、それらを具現化するために各学校が取り組む具体的な方策や計画を立てる上での共通な視点を示します。

学校教育推進目標

1 確かな学力の向上と、生きる知恵を育てる

「自ら学び行動する力（判断力・表現力・課題解決力など）を向上させること」や「基礎基本の定着とそれを活用する応用力・コミュニケーション能力を向上させること」を主眼におき、計画・実践することを意図しています。

2 心の教育を充実させ、望ましい勤労観や社会性を育てる

「自律心・規範意識・道徳的実践力の向上、体験活動・キャリア教育の充実、生徒指導・教育相談の充実、読書活動の推進」を主眼に、道徳の時間を要として学校の全教育活動を通して計画・実践することを意図しています。

3 健康・安全への意識を高め、たくましい心と体づくりに努める

「体力・運動能力の向上、基本的な生活習慣の定着、安全を守るための知識や実践力の定着、食育の推進」などを主眼において健康・安全教育を計画・実践することを意図しています。

4 地域の教育力を、積極的・計画的に活用する

「地域の人材・素材の活用、外部評価の活用、学校種間の連携、ふるさと教育・環境教育の充実」を主眼において計画・実践することを意図しています。

5 教職員一人一人の専門性を高める研修活動の充実に努める

教師個々の人間性・社会性・指導力の向上を図るため「研修の充実、学校評価の活用、教員評価の活用」を主眼において計画・実践することを意図しています。

6 一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実に努める

「障がいのある子どもたちを支援するシステムづくり、個に応じた指導方法や指導計画、関係機関との連携」を主眼において特別支援教育を計画・実践することを意図しています。

7 安全で安心な質の高い教育環境の条件整備・充実に努める

「安全を留意した学校施設設備の充実、教材教具の整備充実、学校給食の充実、芸術・文化活動への支援、関係機関や地域との連携強化、特色ある学校教育活動への支援、読書環境の充実」を主眼におき計画・実践することを意図しています。

3 学校教育における基本施策の重点について

教育目標・学校教育基本方針を受けた学校教育推進目標を具現化するため、その施策の重点を「プログラム」として次のように示します。

(1) 確かな学力の育成プログラム

プログラム

1 「確かな学力の育成プラン」による学力の向上

- ① 「全国学力・学習状況調査」などを継続し、結果の分析を基に指導の改善充実を図ります。
- ② 各学校の指導計画等を整備し、学習指導の改善充実を図ります。
 - ・ 個に応じた指導の改善充実
 - ・ 学年や発達段階に応じ、基礎基本の反復と応用への取組
- ③ 各学校で「標準学力検査」を実施し、経年変化から指導の充実を図ります。



2 授業の改善に生かす評価の充実

- ① 授業評価を通して、指導の成果や課題を検証し、指導内容や方法の工夫改善に生かします。
- ② 児童生徒や保護者・地域へのアンケート等を活用し、授業評価に生かします。



3 学習習慣を含む望ましい生活習慣の定着

- ① 「全国学力・学習状況調査」による実態から家庭学習の習慣化に向けた啓発を進めます。
- ② 宿題など家庭における学習の確立に努めます。
 - ・ 進んで学ぶ上富っ子「家庭学習のすすめ」の改訂

4 外国語教育の充実

- ① 積極的にコミュニケーションを図る態度や能力を育てます。
- ② 「外国語指導助手（ALT）」の効果的な指導の支援を進めます。

(2) 豊かな心の育成プログラム

プログラム

5 地域の教育環境を生かした学習活動の推進

- ① 社会科副読本「かみふらの」を活用し、郷土学習の充実を図ります。
- ② 総合的な学習の時間や特別活動において、伝統文化の伝承や自然体験・職場体験など多様な体験活動の促進を図ります。



6 規範意識や基本的な倫理観の育成

- ① 道徳の時間を要とし、学校教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図ります。
 - ・ 道徳教育の全体計画の確立と計画的な指導
 - ・ 子どもの実態を踏まえた効果的な指導方法の研究

7 生徒指導・教育相談体制の充実

- ① 各学校の指導体制など、計画的な取組と児童生徒理解や指導方法の研修を促進します。
- ② 心の相談員やスクールカウンセラー、学校教育アドバイザーを活用し、学校や保護者のニーズに応じ、子どもの悩みや諸課題の解決を図ります。
 - ・ いじめ、不登校等の早期発見や対応と、児童生徒、保護者への相談体制の充実
- ③ 社会教育と連携し、子育て支援などの家庭教育の推進や放課後プランでの子どもの居場所づくりなど、さらなる充実を図ります。

8 感性や表現力などを高める読書活動の推進

- ① 学校での読書時間の確保と読書習慣の確立に努めるとともに、学校図書館の充実を図ります。
- ② 家庭・地域からの支援を促し、読み聞かせ活動などの充実を図ります。
- ③ 町立図書館との連携を図り、児童生徒はもとより、家庭や地域での読書活動への関心を高めるよう工夫します。

(3) 健やかな体の育成プログラム

プログラム

9 健康の保持増進指導の充実

- ① 基本的な生活習慣の育成に関し、家庭・地域と課題を共有し、連携した取組を進めます。
- ② 「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進します。
- ③ 給食センター栄養職員などを活用し、食事のマナーや食べ物などへの感謝の心を育てる「食にかかわる教育(食育)」を進めます。
- ④ 感染症・アレルギー・心の健康問題など、増加する健康課題に対応し、学校や関係機関と一層の連携を図り、予防・対応に努めます。

10 学校・家庭・地域が連携した体力づくりの推進

- ① 学校の教育活動全体に地域の教育資源を積極的に活用するなど、運動に親しむ環境づくりに努めます。
- ② 社会教育と連携し、親子でスポーツを楽しめる機会や場所の提供に努め、運動の習慣化を促進します。
- ③ 少年団活動や中学校の部活動などへの支援に努め、より多くの子どもたちが運動に参加できる体制づくりを推進します。
- ④ 「全国体力運動能力、運動習慣調査」などから、子どもたちの実態を把握し、運動に親しむ取組を学校と連携して推進します。



11 学校・家庭・地域と連携した安全教育の充実

- ① 学校の全教育活動の中で、安全確保に必要な知識や危険予測・危険回避能力などの指導を推進します。
 - ・ 交通安全教室や防犯教室の実施内容及び方法の工夫改善
 - ・ 学校安全計画や危機管理マニュアルに基づく危機管理体制の充実
- ② 子どもを守るネットワークとして、関係機関との連携を密にし、素早い対応のとれる体制づくりをさらに充実します。
 - ・ 地域安全マップなどを活用した啓発活動
 - ・ 登下校時の見守りパトロールなどのさらなる充実
 - ・ 防災無線の活用やメール配信など、迅速な情報伝達の体制づくりと、地域を含めた安全意識の啓発



1 2 自然災害などへの防災減災意識の啓発

- ① 過去の災害を忘れることなく、各学校での避難訓練などにより防災の意識を高めます。
 - ・ 防災計画の点検と改善
 - ・ 砂防ダム見学会など、積極的な啓発活動
 - ・ 安全に関わる指導方法の工夫改善

(4) 開かれ信頼される学校の推進プログラム

プログラム

1 3 保護者・地域と連携した学校づくりの推進

- ① 日常の教育活動を公開する場を積極的に設け、子どもや学校の様子についての理解を図ります。
 - ・ 授業参観、懇談会、学校だより、学級通信、ホームページ、学校行事、PTA活動
- ② 外部評価の機能も含めた学校評価の充実を図り、教育活動の工夫改善や課題解決に生かします。
- ③ PTA活動の活性化を図り、学校を起点とした保護者の自主的な活動の支援に努めます。
- ④ 学校評議員や学校関係者評価委員による客観的な視点を学校教育活動に生かします。



1 4 特色ある教育活動と魅力ある学校づくりの推進

- ① 地域の特性や教育資源の積極的な活用を促します。
 - ・ 専門的な知識や技能を有する人材、自然環境の活用
- ② 子どもや保護者・地域の思いやニーズをもとに、教育内容の工夫改善に努めます。
- ③ 地域の特色を生かす「教育課程」の編成に努めます。



1 5 自然環境や地域の伝統・特色を生かしたへき地・複式教育の充実とともに、「特認校」の推進

- ① 小規模校の特性を生かし、地域社会と一体となった特色ある教育活動の推進を図ります。
- ② 少人数指導を望む児童・保護者に対して、「特認校」について情報提供の充実を図ります。

1 6 幼・小・中・高の連携や支援の充実

- ① 幼・小・中・高の連携に配慮し、発達段階の連携を踏まえた教育の充実に努めます。

(5) 教職員の資質能力の向上プログラム

プログラム

- 1 7 教師一人一人の授業力・児童生徒理解力などの向上
- ① 各学校における校内研修の充実を促すとともに、校外研修への積極的な参加や個人研究の促進に努めます。
 - ・ ライフステージに応じた研修内容の充実
 - ・ 教職員のモラルの向上と服務規律の徹底
 - ② 上富良野町教育研究会の充実に向けた支援に努めます。
 - ③ 学校職員評価の実施とその活用を促進し、職務に対する意欲の向上と学校の活性化を図ります。
- 1 8 心身ともに健康な職場環境づくりの促進
- ① 悩みを一人で抱え込まないように、教職員のメンタルヘルスへの支援に努めます。
 - ② 教職員の福利・厚生や健康管理の充実に努めます。
- 1 9 幼稚園教員の研修活動への支援
- ① 教育充実のために研修などの支援を行います。

(6) 特別支援教育の充実プログラム

プログラム

- 2 0 一人一人への指導の充実
- ① 保護者等との情報交換・教育相談をもとに、個別の指導計画の作成とその指導の工夫改善を図ります。
 - ② 関係する機関との必要に応じた連携や研修をもとに、より効果的な指導方法の研究に努めます
 - ③ 「すくらむかみふ」の活用を各機関と連携して行います。
- 2 1 「特別支援教育指導助手」を配置した指導の充実
- ① 児童生徒のニーズに応じたきめ細かな指導や支援を行います。
- 2 2 専門性を身に付ける研修活動の推進
- ① 校内研修・校外研修の充実を図り、その活用と還流化の支援に努めます。
- 2 3 特別支援教育等の指導体制の充実
- ① 上富良野町特別支援教育連絡協議会の充実を図り、情報の還流化や



専門的な知識と指導方法の向上をめざした研修を推進します。

- ② 幼稚園における特別支援の指導体制を支援します。

2.4 保健福祉課との連携と支援

- ① 関係機関とケース会議などで早期の支援体制をつくります。

(7) 教育環境の整備・充実プログラム

プログラム

2.5 教材・教具と周辺機器などの整備充実

- ① 学習指導要領の内容に則した整備を図ります。
- ② 学校の実情に配慮しながら学校予算の効果的配分・活用方法に努めます。

2.6 老朽化・耐震化等、施設設備の整備

- ① 安全な施設整備を図るとともに、予防的補修点検体制を構築します。

2.7 通学状況に対応するスクールバスの運行

- ① 遠距離通学児童生徒のニーズの把握とともに、安全な登下校の運行に努めます。

2.8 富良野広域連合でのおいしい給食の維持・向上

- ① 地場産品の活用を積極的に行います。
- ② 食の安全に向けて、その体制づくりを支援します。

2.9 学校支援地域本部による学校支援ボランティア活動の推進

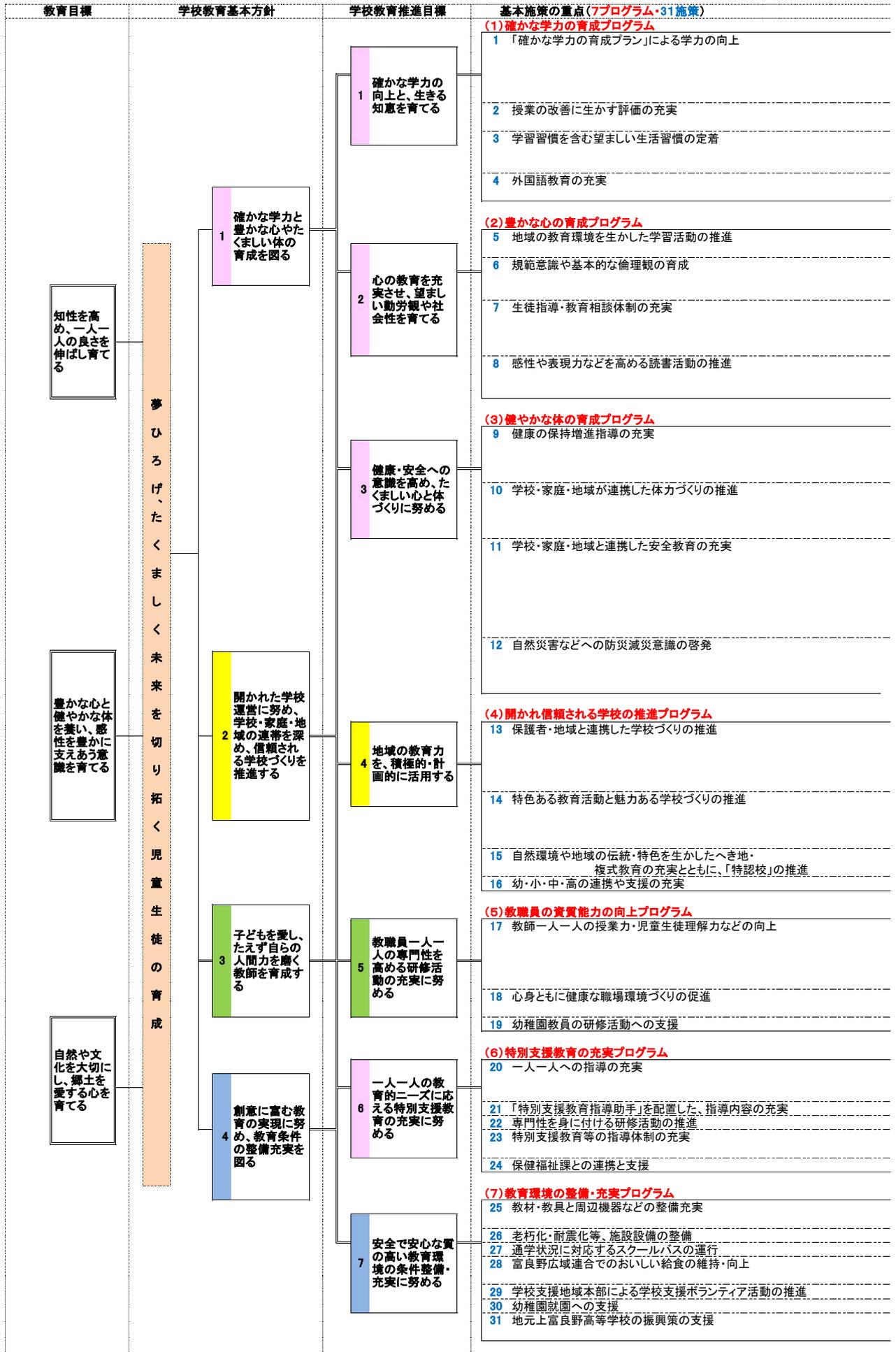
- ① 学校のニーズに応じた指導者の拡充に努めます。

3.0 幼稚園就園への支援

- ① 家庭の負担軽減のために入園料や保育料の補助を行います。

3.1 地元上富良野高等学校の振興策の支援

- ① 「上富良野高等学校教育振興会」及び「上富良野高等学校サポーターズクラブ」との連携を図ります。
- ② 通学交通費や下宿代、就学支援金の助成や資格取得、進路に向けて家庭への支援などを行います。



見直し・修正はしない

- ①「全国学力学習状況調査」などを継続し、結果の分析を基に指導の改善充実を図ります。
- ②各学校の指導計画等を整備し、学習指導の改善充実を図ります。
 - ・個に応じた指導の改善充実
 - ・学年や発達段階に応じ、基礎基本の反復と応用への取組
- ③各学校で「標準学力検査」を実施し、経年変化から指導の充実を図ります。
- ④授業評価を通して、指導の成果や課題を検証し、指導内容や方法の工夫改善に生かします。
- ②児童生徒や保護者・地域へのアンケート等を活用し、授業評価に生かします。
- ①「全国学力学習状況調査」による実態から家庭学習の習慣化に向けた啓発を進めます。
- ②宿題など家庭における学習の確立に努めます。
 - ・進んで学ぶ上富っ子「家庭学習のすすめ」の改訂
- ①積極的にコミュニケーションを図る態度や能力を育てます。
- ②「外国語指導助手(ALT)」の効果的な指導の支援を進めます。

- ①社会科副読本「かみふらの」を活用し、郷土学習の充実を図ります。
- ②総合的な学習の時間や特別活動において、伝統文化の伝承や自然体験・職場体験など多様な体験活動の促進を図ります。
- ①道徳の時間を要し、学校教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図ります。
 - ・道徳教育の全体計画の確立と計画的な指導
 - ・子どもの実態を踏まえた効果的な指導方法の研究
- ①各学校の指導体制など、計画的な取組と児童生徒理解や指導方法の研修を促進します。
- ②心の相談員やスクールカウンセラー、学校教育アドバイザーを活用し、学校や保護者のニーズに応じ、子どもの悩みや諸課題の解決を図ります。
 - ・いじめ、不登校等の早期発見や対応と、児童生徒、保護者への相談体制の充実
- ③社会教育と連携し、子育て支援などの家庭教育の推進や放課後プランでの子どもの居場所づくりなど、さらなる充実を図ります。
- ①学校での読書時間の確保と読書習慣の確立に努めるとともに、学校図書の実践を図ります。
- ②家庭・地域からの支援を促し、読み聞かせ活動などの充実を図ります。
- ③町立図書館との連携を図り、児童生徒はもとより、家庭や地域での読書活動への関心を高めるよう工夫します。

- ①基本的な生活習慣の育成に関し、家庭・地域と課題を共有し、連携した取組を進めます。
- ②「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進します。
- ③給食センター栄養職員などを活用し、食事のマナーや食べ物などへの感謝の心を育てる「食にかかわる教育(食育)」を進めます。
- ④感染症・アレルギー・心の健康問題など、増加する健康課題に対応し、学校や関係機関と一層の連携を図り、予防・対応に努めます。
- ①学校の教育活動全体に地域の教育資源を積極的に活用するなど、運動に親しみ環境づくりに努めます。
- ②社会教育と連携し、親子でスポーツを楽しめる機会や場所の提供に努め、運動の習慣化を促進します。
- ③少年団活動や中学校の部活動などへの支援に努め、より多くの子どもたちが運動に参加できる体制づくりを推進します。
- ④「全国体力運動能力、運動習慣調査」などから、子どもたちの実態を把握し、運動に親しみ取組を学校と連携して推進します。
- ①学校の全教育活動の中で、安全確保に必要な知識や危険予測・危険回避能力などの指導を推進します。
 - ・交通安全教室や防犯教室の実施内容及び方法の工夫改善
 - ・学校安全計画や危機管理マニュアルに基づく危機管理体制の充実
- ②子どもを守るネットワークとして、関係機関との連携を密にし、素早い対応のとれる体制づくりをさらに充実します。
 - ・地域安全マップなどを活用した啓発活動
 - ・登下校時の見守りパトロールなどのさらなる充実
 - ・防災無線の活用やメール配信など、迅速な情報伝達の体制づくりと、地域を含めた安全意識の啓発
- ①過去の災害を忘れることなく、各学校での避難訓練などにより防災の意識を高めます。
 - ・防災計画の点検と改善
 - ・砂防ダム見学会など、積極的な啓発活動
 - ・安全に関わる指導方法の工夫改善

- ①日常の教育活動を公開する場を積極的に設け、子どもや学校の様子についての理解を図ります。
 - ・授業参観、懇談会、学校だより、学級通信、ホームページ、学校行事、PTA活動
- ②外部評価の機能も含めた学校評価の充実を図り、教育活動の工夫改善や課題解決に生かします。
- ③PTA活動の活性化を図り、学校を起点とした保護者の自主的な活動の支援に努めます。
- ④学校評議員や学校関係者評価委員による客観的な視点を学校教育活動に生かします。
- ①地域の特性や教育資源の積極的な活用を促します。
 - ・専門的な知識や技能を有する人材、自然環境の活用
- ②子どもや保護者・地域の思いやニーズをもとに、教育内容の工夫改善に努めます。
- ③地域の特色を生かす「教育課程」の編成に努めます。
- ①小規模校の特性を生かし、地域社会と一体となった特色ある教育活動の推進を図ります。
- ②少人数指導を望む児童・保護者に対して、「特認校」について情報提供の充実を図ります。
- ①幼・小・中・高の連携に配慮し、発達段階の連携を踏まえた教育の充実を図ります。

- ①各学校における校内研修の充実を促すとともに、校外研修への積極的な参加や個人研究の促進に努めます。
 - ・ライフステージに応じた研修内容の充実
 - ・教職員のモラルの向上と服務規律の徹底
- ②上富良野町教育研究会の充実に向けた支援に努めます。
- ③学校職員評価の実施とその活用を促進し、職務に対する意欲の向上と学校の活性化を図ります。
- ①悩みを一人で抱え込まないように、教職員のメンタルヘルスへの支援に努めます。
- ②教職員の福利・厚生や健康管理の充実を図ります。
- ①教育充実のために研修などの支援を行います。

- ①保護者等との情報交換・教育相談をもとに、個別の指導計画の作成とその指導の工夫改善を図ります。
- ②関係する機関との必要に応じた連携や研修をもとに、より効果的な指導方法の研究に努めます。
- ③「すくらむかみふ」の活用を各機関と連携して行います。
- ①児童生徒のニーズに応じたきめ細かな指導や支援を行います。
- ①校内研修・校外研修の充実を図り、その活用と遠流化の支援に努めます。
- ①上富良野町特別支援教育連絡協議会の充実を図り、情報の遠流化や専門的な知識と指導方法の向上をめざした研修を推進します。
- ②幼稚園における特別支援の指導体制を支援します。
- ①関係機関とケース会議などで早期の支援体制をつくります。

- ①学習指導要領の内容に則した整備を図ります。
- ②学校の実情に配慮しながら学校予算の効果的配分・活用方法に努めます。
- ①安全な施設整備を図るとともに、予防的補修点検体制を構築します。
- ①遠距離通学児童生徒のニーズの把握とともに、安全な登下校の運行に努めます。
- ①地場産品の活用を積極的に行います。
- ②食の安全に向けて、その体制づくりを支援します。
- ①学校のニーズに応じた指導者の拡充に努めます。
- ①家庭の負担軽減のために入園料や保育料の補助を行います。
- ①「上富良野高等学校教育振興会」及び「上富良野高等学校サポーターズクラブ」の連携を図ります。
- ②通学交通費や下宿代、就学支援金の助成や資格取得、進路に向けて家庭への支援などを行います。

《第4章 社会教育》

1 社会教育基本方針について

町の教育目標達成をめざし、社会教育の分野では、その具現化にむけてどのような方策をもって生涯学習を推進していくのか、その基本的な方向性を示しています。

社会教育基本方針

～豊かな心と健やかな体を育み、
うるおいのある地域づくりをめざす生涯学習の推進～

1 地域全体で人を育む環境づくりを推進する

教育目標（１）、（２）、（３）に向けて、人の「育ち(知・徳・体)」への環境整備の充実をめざします。

2 生涯にわたる学習活動を推進する

上記１の実現に向け、生涯各期での学習活動の継続と更なる活性化をめざします。

3 健康づくりのためのスポーツ活動を推進する

上記１の実現に向け、健康づくりに向けたスポーツ活動の継続と活性化をめざします。

4 心の豊かさを育む文化・芸術活動を推進する

教育目標（３）に向けて、文化・芸術活動の継続と活性化をめざします。

2 社会教育推進目標について

町の教育目標や社会教育基本方針を受けて、それらを具現化するために社会教育が取り組む具体的方策や計画を立てる上での共通な視点を示しています。

社会教育推進目標

1 家庭と地域の教育力の向上を図り、青少年の健全育成を推進する

「家庭と地域の教育力の向上」「青少年の健全育成の推進」を主眼におき計画・実践することをめざします。

2 生きがいのある生活と社会参画をめざす地域づくりを推進する

「生きがいのある生活と地域づくりの推進」を主眼において計画・実践することをめざします。

3 豊かな心と健やかな体を育むスポーツ活動を推進する

「健康な体とスポーツ活動の向上」を主眼において計画・実践することをめざします。

4 郷土を愛し、豊かな情操と創造を育む文化活動を推進する

「郷土資料や文化財の保護」「郷土学習への取組み」「文化・芸術活動の持続」を主眼におき計画・実践することをめざします。

5 生涯学習社会の実現をめざし、学習環境づくりを推進する

「各世代での学習活動の持続と充実」「社会教育施設の活用と充実」「関係機関との連携と充実」を主眼におき計画・実践することをめざします。

3 第8次社会教育中期計画の概要について

(1) 計画の意義

上富良野町の社会教育は、生涯学習の推進にむけて、社会教育の充実を図るため、家庭・学校・地域社会の持つ教育機能の充実や連携・融合を図るとともに、教育にかかる今日的課題などを踏まえ、今後の社会教育の推進を町の第5次総合計画に基づき策定しました。

(2) 計画の期間

計画の期間は、平成26年度～平成30年度の5カ年とし、年次数は第8次とします。

(3) 計画の構成

本計画は、国及び道、第5次上富良野町総合計画と、町民憲章、教育目標、社会教育基本方針、社会教育推進目標に基づき、第4次北海道教育長期総合計画にかかる上川教育推進プランと整合性を図るため、第7次中期計画で定めた5項目の領域と7項目の推進項目の構成を、「6領域と8分野16項目」に見直しします。

- [領域]
1. 家庭の教育力向上
 2. 地域の教育力向上
 3. 生涯学習活動の推進
 4. スポーツの振興
 5. 文化の振興
 6. 社会教育の基盤整備

[領域・分野・項目]

- 1 - (1) 家庭の教育力向上と子育て支援の推進
 - ① 家庭教育の学習機会・情報提供、相談体制の充実
 - ② 各関係機関との連携

- 2 - (1) 地域の教育力の向上と安心・安全な体制づくりの推進
 - ① 地域の教育資源を生かし、自然体験や社会体験の学習機会の充実
 - ② 地域ぐるみで安心・安全を確保する体制づくりの推進

- 3 - (1) 生涯学習活動の推進
 - ① 各世代の学習活動の推進（幼児、少年、青年、成人、高齢者）
 - ② 各関係機関との連携

- 4 - (1) 生涯スポーツの推進
 - ① スポーツ活動の充実と健康づくりの奨励
 - ② スポーツ環境の充実

- 5 - (1) 文化・芸術活動の推進
 - ① 文化活動への参加機会と文化芸術鑑賞機会の充実
 - ② 文化・芸術環境の充実

- 5 - (2) 郷土資料・文化財の活用
 - ① 郷土資料の学習活用
 - ② 文化財の保存

- 6 - (1) 社会教育活動の推進
 - ① 学習機会・情報の提供、相談体制の充実
 - ② 住民の参画や協働による社会教育活動の推進

- 6 - (2) 社会教育推進のための基盤整備
 - ① 社会教育指導員等の人材育成
 - ② 社会教育施設の充実



4 社会教育の現状と課題について

第7次（平成21年度～25年度）社会教育中期計画の検証

社会教育委員兼公民館運営審議会の会議において、現状、課題、評価、今後の方向性について協議しました。

なお、評価は4区分で表記しました。

- A 実践が進み成果をあげている。
- B 実践が進んでいる。
- C 実践に努めている。
- D 努力を要する。

① 家庭教育

現状	<p>1 毎月第3日曜日「道民家庭の日」を、町広報誌及び青少年健全育成をすすめる会機関誌等で周知し、家族で過ごすよう周知している。</p> <p>2 家庭教育学級を高田幼稚園に開設し、年間計画を基に講演会、研修会、親子ふれあい活動等を実施している。</p> <p>3 保健福祉課子育て支援センターと連携し、子育てしている保護者に対して、芸術鑑賞の機会や学習情報等を提供している。</p> <p>4 わくわく合宿や放課後プラン事業において保護者を対象に「家庭教育研修会」を開催し、児童の自立性を育成している。</p> <p>5 妊娠期から子育てにかかる期間を通じて、親子で読書を楽しむ環境をつくるため、図書案内ガイド(ブックスタート、えほんのもり、学齢期ごとの推薦図書)を作成し配布している。</p>
課題	<p>1 家庭教育支援事業の中で、一部の家庭での教育力の低下がみられる。</p> <p>2 幼児・小学生・中学生・高校生等の保護者の意識を高めるために、家庭教育にかかわる一貫性のある研修の機会が必要である。</p>
評価	B 実践が進んでいる。
今後の方向性	<p>1 家庭の教育力向上にむけて、PTA等の関係機関と連携し研修会等を開催していく。</p> <p>2 真に望まれている課題を整理し、支援や活動を実施していく。</p>

② 青少年教育

現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校の空きスペースを活用し、安心・安全な子どもの居場所として、放課後子どもプラン事業(放課後クラブ、放課後スクール、みんなで遊ぼう)を実施している。 2 学校支援地域本部事業のボランティア(9団体65名)による支援、学社融合による社会体験学習活動等を地域住民から支援いただくことで、地域の教育力を高めている。 3 青少年健全育成をすすめる会は、青少年の健やかな成長のため、子どもたちが町づくりに参画する「なかよしサミット」の開催や広報活動、巡回活動などを実施している。 4 子ども会育成協議会は、町内会ごとに組織されている子ども会が、28団体594名が加盟し、子ども相互の交流事業を中心に実施している。 5 父母と先生の会連合会は、5団体854名が加盟し、研修会の開催等に積極的に参加している。 6 町の歴史について学習する機会として、友好都市三重県津市に3年ごと青少年国内交流事業として派遣しており、事前研修会において町内の郷土研究会から講師により学習機会を設けている。 7 姉妹都市、カナダ・カムローズ市との国際交流事業の継続により、学習を通じて国際的感覚を養う機会として青少年派遣を実施している。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 参加者の事業目的や趣旨の認識が不足している。 2 一部事業参加者の減少傾向がみられる。
評価	B 実践が進んでいる。
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 多岐にわたる支援ボランティア員を募集し活動を継続していく。 2 学校教育との連携により支援していく。 3 学校と地域との世代をこえた交流を深めていく。



③ 成人教育

<p>現状</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人期は、健康で豊かな人生を送るため、公民館講座やスポーツ教室などに参加するとともに、指導者として身に付けている知識や技能を生かす機会として各団体等の活動も活発である。 2 公民館講座のマイプラン・マイスタディ講座や自主企画芸術鑑賞事業は、町民参画により自主的な企画運営が実施されている。 3 スポーツ教室は、体育協会加盟団体が中心となり、活動を実施している。 4 生涯にわたり学習活動や文化活動、スポーツ活動など積極的に参加している。 5 人のつながりによって、「誘い合う」ことでその輪が広がっている活動もある。 6 青少年団体協議会（28名）について、創立50周年を迎え活動について知ることができたが、活動はあまり知られていない。 7 女性連絡協議会（586名）を通じて、女性を対象とした活動支援が行われている。
<p>課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人期は社会的な仕事の役割も大きく、余暇活動への参加が減少している。文化・スポーツを含め団体活動の内容、連絡先等が分かりづらい。 2 特定の方が多くの活動に参加しており、今後一人でも多くの方が活動していただけることが課題である。 3 行政主導型に慣れてしまい、住民主導型に移行していくことが難しく、リーダーの養成が課題である。 4 会員・役員が高齢になり、一部では活動が滞る団体もあり、役員改選や運営等においても課題となっている。
<p>評価</p>	<p>B 実践が進んでいる。</p>
<p>今後の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民への情報提供が必要である。 2 住民が求める活動などニーズの把握が必要である。 3 リーダー養成について、具体的方策を検討する必要がある。



④ 高齢者教育

現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期においても、生涯学習活動や文化活動、スポーツ活動に積極的に参加している。 2 高齢者を対象とした学習活動であるいしずえ大学（10学年117名）、並びに社会福祉協議会が推進する老人クラブ連合会及び各老人会活動等に、積極的な活動に取り組んでいる。 3 新しいスポーツ競技（フロアカーリング）による団体を組織化し、積極的な活動をしており、高齢者が指導者となり指導者を養成している。 4 高齢期になってから学習や活動をスタートする方も多く、仲間を通じて生きがいづくりにつながっている。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 今後も高齢者の学習等、活動に対するニーズを把握し、リーダー養成を継続していく必要がある。 2 高齢者の社会参画を推進していかなければならない。
評価	A 実践が進み成果をあげている。
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の学習活動を継続・支援し、地域リーダーとして養成していくことが必要である。 2 健康づくりを支援するとともに、豊かな経験等を生かし、社会参画を推進していくことが必要である。



⑤ スポーツ振興

現状	<ol style="list-style-type: none">1 概ねメニューが用意されており、生涯にわたり個人・団体ともにスポーツ活動に積極的に参加している。2 新しいスポーツ競技（フロアカーリング）による団体を組織化し、積極的に活動している。3 スポーツ推進委員（15名）により、スポーツの行事又は事業の企画立案と運営を実施している。4 地域スポーツ推進委員により、地域住民によるスポーツ活動を奨励するとともに、各団体等との連絡調整を図り地域内への周知活動を実施している。5 スポーツ賞等の表彰は、スポーツ活動・振興に寄与された方を各団体等の推薦により表彰している。6 青少年スポーツ大会選手派遣報奨事業は、上富良野町に住所を有する小・中・高校生が各地区の予選を勝抜き全道・全国大会に出場する際に激励の意を込めて支出している。7 町民ふれあいスポーツ大会は、住民のスポーツ活動の推進を目的とし、11事業（内、5事業はスポーツ推進委員事業）を実施している。8 山間部に位置する本町にはプールは必要であり、安全対策・事故防止に努めている。9 子ども水泳教室は、小学1年生を対象に水に対する恐怖心を解消し、水泳の楽しさを学ぶために実施している。10 親子水泳教室は、就学前の子どもを対象に水に対する恐怖心を取り除きながら、親子のふれあいを深めるために実施している。11 水泳技能認定会は、B & G海洋センター事業である水泳技能認定をすることにより、水泳の練習と技術向上を図るため実施している。12 児童水泳記録会は、青少年の健全育成とスポーツの普及・発展に努めるとともに、小・中学生の水泳競技の拡大と技術の向上を図るため実施している。13 学校開放事業は、社会体育・スポーツ普及のために学校教育に支障のない範囲で、学校の施設を利用し実施している。14 さわやかラジオ体操への支援は、住民の健康・スポーツ活動の推進のため、自ら参集し継続することで健康増進が図られている。
----	--

	<p>15 スポーツフェスタ(道北スポーツ協議会)は、住民のスポーツ活動の推進のため、富良野圏域の交流も図りながら各市町村で種目を検討し実施している。</p> <p>16 総合型地域スポーツクラブの育成(道北スポーツ協議会)は、平成21年度に設立し誰もが親しめるスポーツ教室等の開催を実施している。</p> <p>17 指導者の養成は、住民のスポーツ活動の推進にかかる指導者の育成を実施している。</p> <p>18 スポーツ教室は、住民のスポーツ活動の推進・競技人口の拡大を図るため実施している。</p> <p>19 体育協会・女性スポーツ協議会・スポーツ少年団は、スポーツ団体の組織運営や研修等を円滑に推進し、スポーツ推進や発展を図りながら、住民の健康づくりを目的とし補助金を交付している。</p>
課題	<p>1 町民の心身を育むスポーツ活動を充実するため、更なる町民のニーズを踏まえたスポーツ活動を推進することが必要である。</p> <p>2 各組織・指導者が高齢化しているため若返りと人材養成が必要である。</p> <p>3 ホームページ・町広報誌による、年間行事や施設利用の案内など情報提供とPR手段の多様化を図ることが必要である。</p> <p>4 人との繋がりが希薄なため、組織づくりが難しくなっている。</p>
評価	B 実践が進んでいる
今後の方向性	1 子育て世代層のスポーツ活動への参画を促す施策が必要である。



⑥ 文化振興

<p>現状</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯にわたり、個人・団体ともに文化活動に積極的に参加している。 2 町民の文化・芸術に対する関心を高めるため、町民自らが企画運営するマイプラン・マイスタディ講座や自主企画芸術鑑賞事業を実施している。 3 公民館講座は、英会話教室、天体観望会、外国文化を知る講座（イースター及びハローウィン）のみの開設に至っている。 4 文化連盟加盟者が高齢化しており、団体数（38団体）及び会員数（389名）も年々減少しているが、積極的に活動している。 5 文化連盟50周年記念事業実施にあたり、会員以外の方にもサポートしていただき、人のつながりが重要である。 6 現在活動している団体について住民に知っていただきたく、社会教育総合センター掲示板等に周知している。 7 指定文化財等については、平成24年度総合文化祭特別展示において企画展示した。現地等を見学する機会がないため、子どもから大人も含め町民へ周知する機会となった。 8 青少年国内交流事業において、3年ごとに小学4～6年生を対象に三重県津市を訪問し、上富良野開拓の歴史について学習している。 9 開基100年以降の歴史について、平成9年～平成24年までの15年間を追記し、「かみふらの115年歴史年表」を、郷土をさぐる会が編集を担当し発刊した。 10 文化財・遺跡・石碑の台帳を作成するとともに、維持管理をしている。
<p>課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 習い事は自分が必要だと思えば投資するが、反面必要としないことには投資しない。また、経費がかからない活動は誘いやすいが、道具等経費がかかる活動（絵画・書道・茶道・華道等）は、誘いづらいなど課題がある。 2 住民の学習活動の充実と人とのつながりを導くためには、現在実施している公民館講座だけでは不足している。 3 文化・芸術の活動者の高齢化に伴い、会員数も減少するなど、少年・青年・成人者の活動の推進が課題である。 4 郷土・歴史にかかる学習機会の持続が必要である。 5 文化財・遺跡・石碑の保存のため、適切な管理が必要である。

評価	B 実践が進んでいる。
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化・芸術活動にかかる個人・団体の自主活動を推進するとともに、新規加入者への周知を強化する。 2 公民館活動の重要施策として、集う・学ぶ・つなぐことを目標に、公民館講座等の事業を拡充していく必要がある。 3 地域文化、伝統文化を継承するための、人材を育成していくことが必要である。 4 郷土・歴史にかかる学習機会の持続について、小・中学校と連携し、郷土歴史サークル等の方々に講師を担っていただき、授業の実施等を検討する。 5 郷土歴史については、町民が学習できるよう環境を整備する。 6 文化財・遺跡・石碑の保存のため、適切な管理を継続する。



⑦ 社会教育基盤整備

<p>現状</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習社会を推進するため、学習情報の提供は、広報誌・ホームページ・防災無線を活用するとともに、公共施設内にポスター掲示やパンフレットを適時配置している。 町民は情報を得るために、町広報誌を読んでおり、防災無線も傾聴している。 2 社会教育施設の活用のため、各施設の定期利用に際し会議を開催するなど、町民の利用意向を伺い対応している。 3 各施設の維持・保全については、計画的に取り組んでおり、簡易な修繕は、住民（団体）協力を得て実施している。富原テニスコートは、主に中学校ソフトテニス部等が使用しているが老朽化している。 4 各社会教育関係団体は、設立から十数年経過しており、活動は活発に継続されている。 5 社会教育の推進は、各関係委員の活動が積極的に実施され、住民参画による委員の活動が継続されている。 6 有資格職員の養成・適正配置により、事業の計画・運営・評価を実施している。
<p>課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習を推進するため、社会教育事業等情報提供は必要である。 2 社会教育施設は、建設年度から経過している建物も多く、年次計画を立て改修等整備を継続していかなければならない。 特に、富原テニスコートは全天候型テニスコートへの転換整備について要望がある。 3 課題等について、各社会教育関係団体と相互の情報交換を実施し支援施策について協議していくことが求められている。
<p>評価</p>	<p>B 実践が進んでいる。</p>
<p>今後の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習を推進するため、社会教育事業等情報提供は随時実施していく。 2 社会教育施設は、年次計画をたて改修等整備を継続していく。 簡易な修繕内容等については、住民支援による作業を検討していく。 3 社会教育施設の利用にあたっては、利用者（団体）の声を聴き利用推進を図っていく。

- 4 各社会教育関係団体とは、課題等について相互の情報交換を実施し、引き続き支援していく。
- 5 各関係委員を中心に、町民参画による活動を継続していく必要がある。
- 6 有資格職員の養成と適正配置に努めていく。



5 第8次社会教育中期計画について

第8次社会教育中期計画は、目標達成のための重点として、6領域、8分野、16項目に基づき、具体的な施策81項目を定めました。

	領域	分野	項目	具体的な施策
目標達成のための重点	1. 家庭の教育力向上	1. 家庭の教育力向上と子育て支援の推進	1. 家庭教育の学習機会・情報提供、相談体制の充実 2. 各関係機関との連携	① 道民家庭の日及び早寝早起き・朝ごはん等生活リズムの普及 ② 妊娠期～就学前における読書普及活動の継続 ③ 家庭教育学級及び家庭教育研修会の実施 ④ 子育てサークルへの支援 ⑤ 幼稚園・保育園（所）、子どもセンター等関係機関との連携
	2. 地域の教育力向上	1. 地域の教育力向上と安心・安全な体制づくりの推進	1. 地域の教育資源を生かし、自然体験や社会体験の学習機会の充実 2. 地域ぐるみで安心・安全を確保する体制づくりの推進	① 放課後子どもプラン事業の実施 ② 学校地域支援本部事業及び学社融合事業の継続 ③ 青少年健全育成をすすめる会活動の継続 ④ 子ども会育成協議会事業との連携 ⑤ 父母と先生の会連合会

	領域	分野	項目	具体的な施策
目標達成のための重点	3.生涯学習活動の推進	1.生涯学習活動の推進	1.各世代の学習活動の推進 (幼児、少年、青年、成人、高齢者) 2.各関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 公民館運営審議会委員活動及び公民館講座の開設 ② マイプラン・マイスタディ講座の開設 ③ 公民館分館活動（11分館）への支援 ④ わくわく合宿の開催 ⑤ 発明くふう展の募集 ⑥ 少年の主張への参加 ⑦ ウィンターサーカスへの支援（シーニックバイウェイ北海道） ⑧ ジュニアリーダーの養成 ⑨ 青少年国内外交流事業への実施 ⑩ 成人式の開催 ⑪ 青少年団体協議会活動への支援 ⑫ 女性学級の開設 ⑬ 女性連絡協議会活動への支援 ⑭ いしずえ大学の開設 ⑮ いしずえ大学自治会活動への支援 ⑯ 道民カレッジ連携講座の開設 ⑰ 読書コンクール作品募集 ⑱ 朝読書、推薦図書等読書普及活動 ⑲ 図書館まつりの開催 ⑳ 視聴覚教育（富良野地区教育圏振興協議会）

	領域	分野	項目	具体的な施策
目標達成のための重点	4. スポーツの振興	1. 生涯スポーツの推進	1. スポーツ活動の充実と健康づくりの奨励	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ推進委員活動 ② 地域スポーツ推進員活動 ③ スポーツ賞等の表彰 ④ 青少年スポーツ大会選手派遣報奨事業 ⑤ 町民ふれあいスポーツ大会 ⑥ 子ども水泳教室 ⑦ 親子水泳教室 ⑧ 水泳技能認定会 ⑨ 児童水泳記録会 ⑩ 学校開放事業 ⑪ さわやかラジオ体操への支援 ⑫ スポーツフェスタ（道北スポーツ協議会）開催
			2. スポーツ環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導者の育成 ② スポーツ教室 ③ 体育協会活動への支援 ④ 女性スポーツ協議会活動への支援 ⑤ スポーツ少年団活動への支援 ⑥ 総合型地域スポーツクラブの育成（道北スポーツ協議会）

	領域	分野	項目	具体的な施策
目標達成のための重点	5.文化の振興	1.文化・芸術活動の推進	1.文化活動への参加機会と文化芸術鑑賞機会の充実 2.文化・芸術環境の充実	① 文化賞等表彰 ② 自主企画芸術鑑賞事業の開催 ③ 小さな美術館の開催 ④ 町民芸術劇場鑑賞の開催 ⑤ 総合文化祭の開催 ⑥ 北海道舞台塾ふらの事業の開催 ⑦ 文化連盟活動への支援 ⑧ 富良野地区文化団体交流会（富良野地区教育圏振興協議会）の開催
		2.郷土資料・文化財の活用	1.郷土資料の学習活用 2.文化財の保存	① 文化財保護委員会活動 ② かみふらの10大ニュースの募集 ③ 郷土館特別展示の開催 ④ 指定文化財等の保存 ⑤ 郷土をさぐる会活動への支援

	領域	分野	項目	具体的な施策
目標達成のための重点	6. 社会教育の基盤整備	1. 社会教育活動の推進	1. 学習機会・情報提供、相談体制の充実 2. 住民の参画や協働による社会教育活動の推進	① 学習情報等の提供と相談体制の充実
		2. 社会教育推進のための基盤整備	1. 社会教育指導者等の人材育成	① 社会教育委員活動 ② ボランティア団体の養成 ③ 社会教育関係職員の研修と養成
			2. 社会教育施設の充実	① 公民館 ② 公民館分館 ③ 図書館 ④ セントラルプラザ（学習等共用施設） ⑤ コミュニティ広場 ⑥ 郷土館 ⑦ 開拓記念館 ⑧ 多世代交流センター ⑨ 社会教育総合センター ⑩ 武道館 ⑪ B & G 海洋センター ⑫ 富原運動公園 ⑬ 島津球場 ⑭ ゲートボール場 ⑮ 日の出スキー場 ⑯ パークゴルフ場

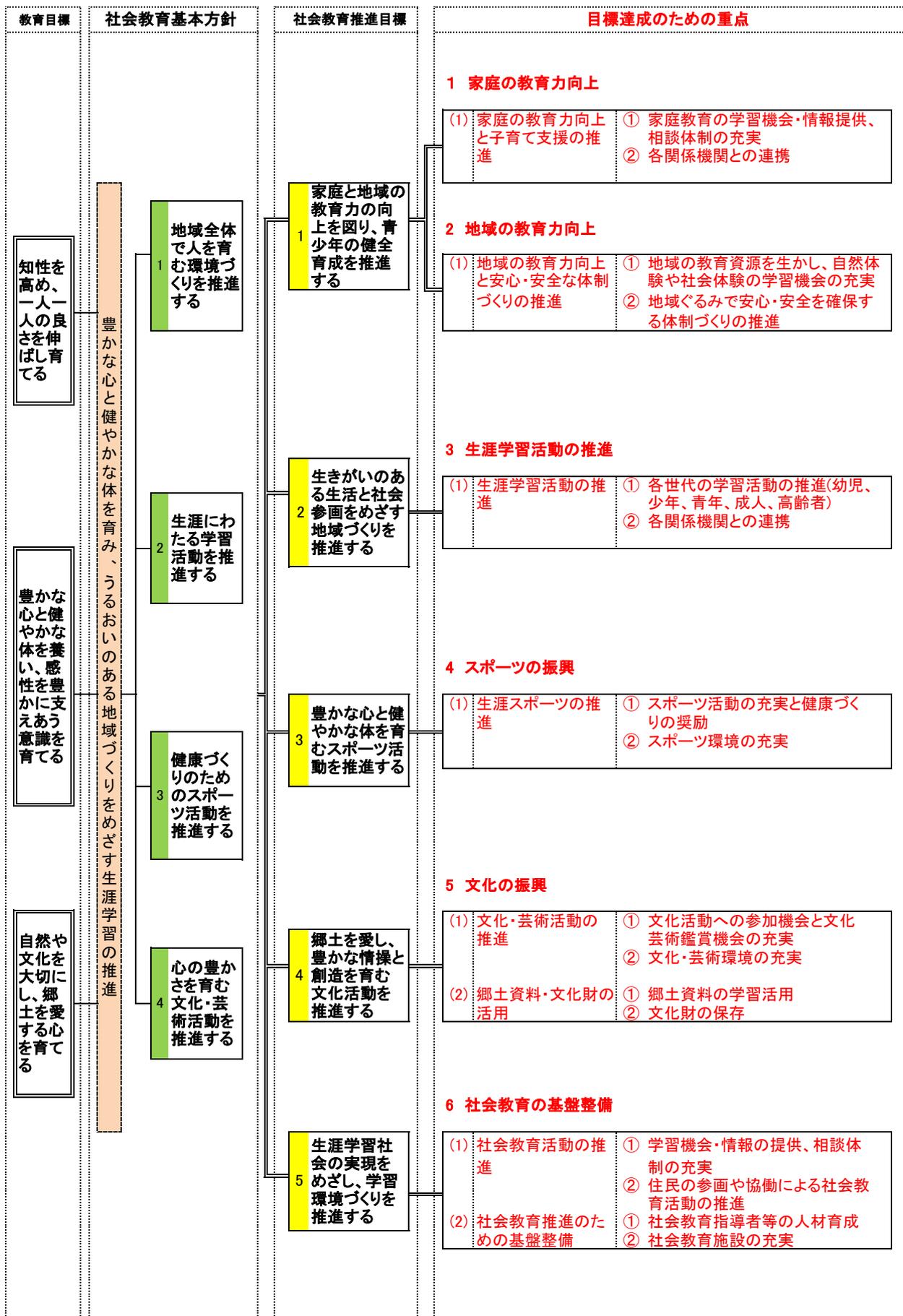
6 第8次社会教育中期計画の評価指数について

社会教育委員兼公民館運営審議会の会議において、領域ごとに評価指数を設けた。

領 域	評価指数	平成24年度実績	平成30年度計画
1. 家庭の教育力向上	① 各種研修会の開催数	6 回	6 回
	② 情報提供の実績数	1 6 回	1 6 回
2. 地域の教育力向上	学校支援ボランティア登録者数	個人 6 5 団体 9	個人 7 0 団体 1 0
	学校支援実施数	7 事業	1 0 事業
3. 生涯学習活動の推進	各講座開催数	1 9 回	2 0 回
	各講座への参加者数	4 , 6 3 7 人	4 , 7 0 0 人
4. スポーツの振興	スポーツ活動団体数	7 6 団体	7 6 団体
	スポーツ活動者数	2 , 2 9 3 人	2 , 3 0 0 人
5. 文化の振興	文化活動団体数	4 4 団体	4 5 団体
	文化活動者数	7 6 8 人	8 0 0 人
6. 社会教育の基盤整備	社会教育施設利用回数（住民1人当たり）	2 7 6 , 4 5 5 回 (23.86回)	2 4 回
	図書館蔵書の貸出冊数（住民1人当たり）	6 5 , 8 8 1 冊 (5.7冊)	6 . 0 冊

《参考》

※上富良野町人口11,586人（平成25年3月31日現在）



※第8次策定で見直し(重点項目を、6領域、8分野、16項目)

具体的な施策等		施策数	数値目標	
			H24年度実績	H30年度計画
①道民家庭の日及び早寝・早起き・朝ごはん等生活リズムの普及 ②妊娠期～就学前における読書普及活動の継続 ③家庭教育学級及び家庭教育研修会の実施 ④子育てサークルへの支援 ⑤幼稚園・保育園(所)・子どもセンター等関係機関との連携		5	①各種研修会の開催数 6回	6回
①放課後子どもプラン事業の実施 ②学校地域支援本部事業及び学社融合事業の継続 ③青少年健全育成をすすめる会活動継続 ④子ども会育成協議会事業との連携 ⑤父母と先生の会連合会		5	①学校支援ボランティア登録者数 個人65、団体9	個人70、団体10
①公民館運営審議会委員活動及び公民館講座の開設(町民講座を含む) ②マイプラン・マイスタディ講座の開設 ③公民館分館活動(11分館)の支援 ④わくわく合宿の開催 ⑤発明くふう展の募集 ⑥少年の主張への参加 ⑦ウインターサーカスへの支援(シーニックバイウェイ北海道) ⑧ジュニアリーダーの養成 ⑨青少年国内外交流事業の実施 ⑩成人式の開催 ⑪青少年団体協議会活動への支援 ⑫女性学級の開設		20	①各講座開催数 19回	20回
①スポーツ推進委員活動 ②地域スポーツ推進員活動 ③スポーツ賞等の表彰 ④青少年スポーツ大会選手派遣報奨事業 ⑤町民ふれあいスポーツ大会 ⑥子ども水泳教室 ⑦親子水泳教室 ⑧水泳技能認定会 ⑨児童水泳記録会		18	①各講座開催数 19回	20回
①文化賞等表彰 ②自主企画芸術鑑賞事業の開催 ③小さな美術館の開催 ④町民芸術劇場鑑賞の開催 ⑤総合文化祭の開催 ⑥北海道舞台塾ふらのの事業の開催 ⑦文化連盟活動への支援 ⑧富良野地区文化団体交流会(富良野地区教育圏振興協議会)の開催		13	①各講座開催数 19回	20回
①社会教育委員活動 ②ボランティア団体の養成 ③社会教育関係職員の研修と養成		20	①各講座開催数 19回	20回
④学習情報等の提供と相談体制の充実 ⑤公民館 ⑥公民館分館 ⑦図書館 ⑧セントラルプラザ(学習等共用施設) ⑨コミュニティ広場 ⑩郷土館 ⑪開拓記念館 ⑫多世代交流センター		20	①各講座開催数 19回	20回
⑬社会教育総合センター ⑭武道館 ⑮B&G海洋センター ⑯富原運動公園 ⑰島津球場 ⑱ゲートボール場 ⑲日の出スキー場 ⑳パークゴルフ場		20	①各講座開催数 19回	20回
			①各種研修会の開催数 6回	6回
			②情報提供の開催数 16回	16回
			①学校支援ボランティア登録者数 個人65、団体9	個人70、団体10
			②学校支援実施数 7事業	10事業
			①各講座開催数 19回	20回
			②各講座等への参加者数 4,637人	4,700人
			①スポーツ活動団体数 76団体	76団体
			②スポーツ活動者数 2,293人	2,300人
			①文化活動団体数 44団体	45団体
			②文化活動者数 768人	800人
			①住民1人当たりの社会教育施設利用回数 23.86回	24回
			②住民1人当たりの図書貸出冊数 5.7冊	6冊
			【参考指数】 人口11,586人	人口を基準

8 社会教育関係資料

- ① 第8次社会教育中期計画策定にかかる諮問及び答申
P 4 1 ~ 4 2
- ② 社会教育委員等名簿
P 4 3 ~ 4 4
- ③ 第8次社会教育中期計画策定会議の経過
P 4 5
- ④ 第7次社会教育中期計画の検証
P 4 6 ~ 1 0 7
- ⑤ 指定文化財、文化財保護委員会委員名簿
P 1 0 8 ~ 1 0 9
- ⑥ 社会教育施設一覧
P 1 1 0 ~ 1 1 1
- ⑦ 社会教育関係団体、社会教育関係機関
P 1 1 2 ~ 1 1 3

① 第8次社会教育中期計画策定にかかる諮問及び答申

平成24年4月23日

上富良野町社会教育委員の会議
委員長 本田 邦光 様

上富良野町教育委員会
教育委員長 増田 修一

上富良野町第8次社会教育中期計画(平成26年度～平成30年度)の
策定について (諮問)

このことについて、下記のとおり計画期間及び理由を付して諮問しますので答申くださいようお願いいたします。

- 1 答申期限 平成25年12月30日
- 2 計画期間 5カ年間
自 平成26年4月 1日
至 平成31年3月31日

3 諮問理由

上富良野町は平成21年度から平成30年度まで10カ年間の第5次総合計画を「四季彩のまち・かみふらの ― 風土に映える暮らしのデザイン」の実現に向けて「5つの暮らし」を目標とし策定しています。

教育委員会も総合計画に合わせて上富良野町教育振興基本計画（平成21～30年度）を策定し、教育目標に基づき学校教育・社会教育の基本方針及び推進目標を定め、社会教育においては本計画に第7次社会教育中期計画(平成21～25年度)を包含し策定し推進しております。

第7次社会教育中期計画策定後3年を経過したことにより、次期第8次社会教育中期計画(平成26～30年度)策定にむけて、上富良野町の社会教育の推進が住民学習の充実に繋がるとともに、生涯学習の観点に基づく社会教育の振興方策が求められております。

今後、上富良野町の社会教育の推進に向けて、町民の意向を踏まえ課題解決のための具体的な推進方策について策定いただけますようお願いいたします。

平成25年12月27日

上富良野町教育委員会
教育委員長 菅野博和様

上富良野町社会教育委員の会議
委員長 本田邦光

上富良野町第8次社会教育中期計画（平成26年度～平成30年度）
の策定について（答申）

平成24年4月23日付けをもって上富良野町社会教育委員の会議に諮問のありました「上富良野町第8次社会教育中期計画」について、当委員会は全体会議及び3専門部会を通じて、本町の社会教育行政推進の全般にわたり、今後のあり方について審議を重ね、その結果を本答申としてまとめました。

本答申は、本町の町民憲章に基づき上富良野町教育振興基本計画のなかで示されている生涯学習の概念により、社会教育の充実を図り、学校・家庭・地域社会のもつ教育機能の充実や連携・融合を図ると共に、町行政や教育行政の今日的課題などを踏まえ、第7次上富良野町総合計画との整合性を図りながら策定したところであります。

本答申が、本町の社会教育推進の指針として、今後行政施策に十分反映され、心豊かな人づくりとうるおいのあるまちづくりに役立てられることを期待します。

② 社会教育委員等名簿

社会教育委員

No.	氏名	選出区分	部会	役職	備考
1	本田邦光	学識経験	第2部会	委員長	
2	稲毛保夫	家庭教育	第1部会	副委員長	
3	若林弘士	学校教育	第1部会	副部会長	
4	小岩正敏	学校教育	第2部会		平成25年3月任期満了
	長谷弘之	学校教育	第2部会		平成25年4月就任
5	佐々木克	学校教育	第3部会	部会長	
6	仲島義博	家庭教育	第1部会	部会長	
7	新屋雅己	家庭教育	第1部会		平成25年3月任期満了
	瀬川道一	家庭教育	第1部会		平成25年4月就任
8	立松幸恵	社会教育	第1部会		平成25年3月任期満了
	須藤セツ子	社会教育	第1部会		平成25年4月就任
9	安西英雄	社会教育	第2部会	部会長	
10	大西邑子	学識経験	第2部会	副部会長	
11	佐藤良二	学識経験	第2部会		平成25年3月任期満了
	本田友彦	学識経験	第2部会		平成25年4月就任
12	渡辺雄介	学識経験	第3部会	部会長	
13	福本利則	社会教育	第3部会		
14	小田島久尚	学識経験	第3部会		
15	佐々木麗子	学識経験	第3部会		

教育委員会事務局職員

No.	氏名	部会	役職	備考
1	服部久和	—	事務局総括 (教育振興課長)	～平成24年9月人事異動
	野崎孝信	—	事務局総括 (教育振興課長)	平成24年10月～人事異動
2	鈴木真弓	—	事務局副総括 (社会教育班主幹)	
3	林下里志	第1部会	事務局専門員 (社会教育班主査、 社会教育主事)	～平成25年3月人事異動
	川久保 明	第1部会 (平成24年度 第2部会)	事務局専門員 (社会教育班主査、 社会教育主事)	平成25年4月～人事異動 により部会変更
4	高橋慎也	第3部会	事務局員 (社会教育班主査)	
5	飯村友香	第1部会	事務局員 (社会教育班主任)	
6	小野正人	第2部会	事務局員 (社会教育班主任、 社会教育主事)	
7	田中悠翔	第3部会	事務局員 (社会教育班主事)	
8	小田島亮悟	第2部会	事務局員 (社会教育班主事)	平成25年度～人事配置

③ 第8次社会教育中期計画策定会議の経過

	概 要	
平成24年 4月23日	教育委員会から第8次社会教育中期計画策定について諮問	
平成24年 7月24日	第8次社会教育中期計画策定のスケジュール	
平成24年 9月25日	第7次社会教育中期計画の検証	
平成24年11月20日	第7次社会教育中期計画の検証	
平成25年 3月26日	第7次社会教育中期計画の検証	
平成25年 4月23日	第7次社会教育中期計画の評価	
平成25年 5月21日	第7次社会教育中期計画の評価	
平成25年 6月27日	第8次社会教育中期計画の体系	
平成25年 7月23日	第8次社会教育中期計画の体系	
平成25年 8月27日	第8次社会教育中期計画の策定	
平成25年 9月17日	第8次社会教育中期計画の策定	
平成25年11月18日	第8次社会教育中期計画原案策定	
平成25年12月17日	第8次社会教育中期計画原案策定	
平成25年12月27日	教育委員会に第8次社会教育中期計画策定について答申	

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
家庭教育	①家庭教育の学習機会・情報提供、相談体制の充実	①異なる世代との交流活動の促進 ②地域行事に関する情報提供と体験活動の充実	①地域の教育資源を生かし、自然体験や社会体験の学習機会の充実 ②子どもの活動拠点づくりの促進 ③地域ぐるみの安全体制づくりの充実	①遊びを通じたスポーツ活動の充実 ②幼稚園、保育所、各学校との連携による体力の向上 ③スポーツ活動への参加促進	①遊びを通じた文化活動の充実 ②幼稚園、保育所、各学校との連携による芸術鑑賞等の充実 ③文化活動への参加促進	1・2	家庭教育学級の開設	親子のきずなを深めると共に、家庭と幼稚園、保育所(園)の連携を図りながら、親としての心構えを養う
						1・2	町民芸術劇場鑑賞(幼児の部)	町文化の発展と町民の芸術文化普及のために各関係機関が協調し、芸術文化の鑑賞機会を提供する
						1・2	読書普及活動(ブックスタート)	親子が本を通じてゆっくりふれあう機会、子育て情報を伝える

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	高田幼稚園の保護者と教諭が役割を担い、年間5回の学習・活動を計画		幼児期の親子に対しての家庭教育の機会充実として継続	学級の継続
H22	6/11講演会 150人、7/10親子ウォークラリー雨天中止、9/14手作り体験 15人、12/4スポーツ交流会 50人、1/29レクリエーション 570人			学級の継続
H23	6/9すこやか子育てセミナー 155人、7/9親子ウォークラリー 350人、9/27おやつ作り 20人、12/3スポーツ交流 35人、レクリエーション 560人		家庭教育の支援を継続していただきたい	学級の継続
H24	6/4開講式及び講演会 158人、7/4-5講演(食育) 114人、9/25後藤純男美術館見学 13人、12/1スポーツ交流 38人、2/2親子レクリエーション 500人		高田幼稚園だけでは不十分ではないか。小学生の保護者にも子育て支援必要ではないか 幼稚園、保育所(園)に行っていない保護者にも必要ではないか	学級の継続
H25	6/5開講式及び講演会(おこづかい教育出前教室) 140人、9/24 シレラ富良野工場施設見学 18人、11/30スポーツ交流会 34人、2/1親子レクリエーション 420人		参加者がいる限り、継続	学級の継続
H21	10/1 公民館 鑑賞者262人		親子で参加できる事業又は親が学習できる機会について、保健福祉課と連携し継続実施	鑑賞機会の継続
H22	9/9公民館 鑑賞者359人		今後も実行委員会で実施していただきたい	鑑賞機会の継続
H23	幼児の部 9/8公民館 鑑賞者289人 ※文化振興にも再掲		今後も実行委員会で実施していただきたい	鑑賞機会の継続
H24	幼児の部 9/6公民館「人形劇」319人			鑑賞機会の継続
H25	幼児の部 9/4劇団さっぽろ 公民館「音楽 森の音楽会」305人		鑑賞機会が他の親子との交流につながる	鑑賞機会の継続
H21	月1回 7か月相談時に実施(4~3月、7か月106人)		ブックスタート事業を通じ、絵本に興味を持つきっかけになっており、継続して実施を。活動する団体、サークルへのサポートも必要	事業の継続、団体・サークルへの活動支援検討
H22	月1回 7か月相談時に実施(4~3月、7か月100人)		本を通してのことばのリズム・親子関係など大切であり、内容検討して保健福祉部局と連携して実施を。ボランティア団体との調整も十分に	事業の継続、団体・サークルへの活動支援精査
H23	月1回 7か月相談時に実施(4~3月、7か月85人)		他の月齢時の健診の実施は検討できないのか	事業の継続、団体・サークルへの活動支援精査
H24	月1回 7か月相談時に実施(4~3月:7か月73人) ブックスタートガイドブック5月作成配布		こども読書推進計画の中で検証しながら、より良い事業として取り組んでほしい	事業の継続
H25	月1回 7か月相談時に実施(4~3月:7か月70人) ブックスタートガイドブック(新年度分)、2/7保健福祉課に配布 依頼済		事業継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
家庭教育	①家庭教育の学習機会・情報提供、相談体制の充実	①異なる世代との交流活動の促進 ②地域行事に関する情報提供と体験活動の充実	①地域の教育資源を生かし、自然体験や社会体験の学習機会の充実 ②子どもの活動拠点づくりの促進 ③地域ぐるみの安全体制づくりの充実	①遊びを通じたスポーツ活動の充実 ②幼稚園、保育所、各学校との連携による体力の向上 ③スポーツ活動への参加促進	①遊びを通じた文化活動の充実 ②幼稚園、保育所、各学校との連携による芸術鑑賞等の充実 ③文化活動への参加促進	1・2	町PTA連合会	社会教育関係団体
						1・2	町民講座	町民の学習機会の充実を図るため、公民館講座として、町民を対象に講演会又は講座を開設
						1・2	わくわく合宿	集団での共同生活の機会を与え、自信と責任を持った子どもの育成を図る

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	教育委員会と共催で教育講演会(11/26)を開催 加盟団体6団体 1,101人		教育委員会として町PTA連合会に求める役割、ねらいがPTA役員全体に浸透していない。(年度で役員交代、持ち回り制)社会教育関係団体として活動を支援	活動への継続支援
H22	11/24町内研修会を開催 75人 講演「ゴミから地球が見えてくる〜リサイクルのその先は?」講師(有)ひがしリサイクルサービス 代表取締役 東氏			活動への継続支援
H23	11/15かみん、教育講演会開催137人 講演「動物から学ぶ子育て」講師旭山動物園園長 坂東元氏			活動への継続支援
H24	11/28上富良野中学校校体育館、教育講演会「私たちのまなざしと子供のこころ」北海道教育大学札幌校准教授 平野直己氏 117人		役員に成果のある活動取り組みをするように、意見してほしい	事業の継続
H25	12/6上富良野西小学校多目的ホール、教育講演会「食育とアレルギーについて」北海道文教大学人間科学部健康栄養学校教授 板垣康治氏 104人			事業の継続
H21	関係機関・団体と連携し、各講演会の開催を企画する 11/26町PTA連合会との共催による教育講演会の開催		家庭教育にかかる、講演会等の必要性について検証 今後、具体的にどのような視点での講座を考えているのか、計画等あるのか	企業・団体も含め連携しながら、各種講座を開設し、学習機会の促進と学習の成果を地域活動につなげる
H22	※今年度開催無し			
H23	町PTA連合会共催による教育講演会を開催 11/15かみん、教育講演会137人		町民対象の講演会等を関係機関・団体と調整できる場合は、継続して実施	関係機関と調整
H24	町PTA連合会共催による教育講演会を開催 11/28上富良野中学校校体育館、教育講演会「私たちのまなざしと子供のこころ」北海道教育大学札幌校准教授 平野直己氏 117人		家庭教育に係る学習機会の拡充、意識の向上を図るため、学校、PTAと連携して実施してほしい	事業の継続
H25	町PTA連合会共催による教育講演会を開催 12/6上富良野西小学校多目的ホール、教育講演会「食育とアレルギーについて」北海道文教大学人間科学部健康栄養学校教授 板垣康治氏 104人			事業の継続
H21	6/17～20 3泊4日、公民館、13人 地域ボランティア支援5人 青少年国内交流事業による津市研修があるため、H21年度は2回目を実施しない		対象は小学4～6年生だが、家庭を離れ、食・住等の体験学習を実施しており、家庭家族の役割や大切さを学ぶことができ、家庭教育分野に位置づけはどうか	ジュニアリーダー養成の一環として継続
H22	1回目⇒6/23～26 3泊4日、公民館、参加者23人(1人乗権)パレット 1人、地域ボランティア支援4人 2回目⇒9/29～10/2 3泊4日、公民館、参加者22人 パレット4人、地域ボランティア支援4人			事業の継続。ジュニアリーダー養成の一環としての学習内容に
H23	1回目⇒7/13～15 2泊3日、公民館、参加者20人、パレット4人、地域ボランティア支援3人 2回目⇒10/5～10/7 2泊3日、公民館、参加者17人、パレット5人、地域ボランティア支援3人	保護者への学習機会も検討し、子どもの基本的な生活習慣への意識向上を図る	重複し複数回参加している児童もいるが、とても楽しみにしている より充実させた内容で実施	事業の継続。ジュニアリーダー養成の一環としての学習内容を含める
H24	6/12～14 24人、公民館、パレット1人、地域ボランティア支援3人 ※保護者…家庭教育講座		継続して実施してほしい	事業の継続
H25	7/2～4 21人、公民館 パレット4人、地域ボランティア支援3人、国立大雪青少年交流の家1人 ※保護者…家庭教育講座「家庭学習の習慣化を図るために」保護者13人、子ども会育成会1人		地域支援ボランティアの拡充	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進	①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成		1	公民館講座 ①イースター ②ハローウィン	町民の学習活動の場であり、その一つとして講座を実施 外国文化に触れ、青少年の交流活動として行っている
						1	マイプラン・マイスタディ講座	町民自ら学習講座を企画し、学習活動の場を広げていく
						1	発明くふう展 (子ほめ事業)	

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	①4/6イースター 24人、AETニコール ②10/25ハローウィン 23人、AETグレン		AET(英語指導助手)活動で、各学校で外国文化について学ぶ機会はないのか	学習機会の促進と学習の成果を地域活動につなげる
H22	①4/24イースター 42人、AETグレン ②10/23ハローウィン 52人、AETグレン			事業の継続
H23	①4/24イースター 56人、AETグレン ②10/23ハローウィン 33人、AETグレン			事業の継続
H24	①4/28イースター 公民館 11人 AETグレン、パレット2人 ②10/27ハローウィン 公民館 24人 AETグレン、パレット5人		児童館でもイースター、ハローウィン実施しているため、異国文化に触れる事業は、児童館で実施してもらい、教育委員会では、新たなものを検討してはどうか(日本文化に触れる事業等)	事業の継続
H25	①4/27イースター 公民館 16人 AETグレン、パレット4人 ②10/27ハローウィン 公民館 36人 AETブレンダ、パレット7人		外国文化学習の機会であり、交流活動継続	事業の継続
H21	①(おはなし探検隊)オツベルと象(宮澤賢治作)25回、小学生以上 2/14人体交響劇「オツベルと象」発表会		スポーツ少年団のように、文化少年団のような活動、取り組みができるの良い。青少年の文化活動の場が幅広くあれば良い	団体活動を支援
H22	※成人対象の講座開設のため、成人教育に表記			
H23	①おはなしたんけん隊「電気ってなに？」 11/20～1/29 計5回 小学生以上20人 ②居酒屋てっぺん 大嶋啓介さん講演会 2/14 高校生以下の部17:00～ 270人、一般の部 220人、公民館 ※成人対象の講座については、成人教育に表記	新規の方々にも活用してもらい、幅広く町民に学習機会を提供するように取り進める		事業の継続
H24	6/13、20絵本の読み聞かせ講座 2回 参加者28人 6/3～1/27おはなしたんけん隊 5回 参加者16人 11/25、12/2女性のためのパソコン講座 2回 参加者13人			事業の継続
H25	6/15～2/2おはなしたんけん隊 11/30～12/14パソコン講座 2回 参加者14人		予算拡充の検討をしてほしい	事業の継続
H21	上富良野町発明くふう展 23点 9/7～24展示、延べ142人 上川青少年発明くふう作品展、10/8～12に出展		青少年の豊かな発想を高めるためにも奨励していただきたい	青少年の科学する心を養うため、作品の募集だけでなく、科学技術に関する学習活動の場、幅広い体験学習の機会を
H22	上富良野町発明くふう展 26点 9/6～17展示、延べ150人 上川青少年発明くふう作品展、10/7～11 4点出展(入選)			事業の継続と促進
H23	上富良野町発明くふう作品展30点 9/6～15展示 10/6～10上川地方青少年発明くふう展 6点出展		毎年優秀な成績を納めており、各学校の協力を得て奨励していただきたい	事業の継続と促進
H24	上富良野町発明くふう作品展 54点 9/4～9/13の期間、全作品展示 10/4～10/8旭川市科学館サイバルにて展示10作品を出品、全道展に4点出展される(※全国に1点)		優秀な成績を収めて、青少年の豊かな発想、取組みに繋がっているため、継続して取り組んでいただきたい 旭川市に出展する作品数に制限がないのであれば、もっと出展してはどうか	事業の継続
H25	上富良野町発明くふう作品展 43点 9/6～9/12の期間 全作品展示 社会教育総合センターラウンジ 10/10～10/14旭川市科学館サイバルにて展示12作品を出展、全道展に5点出展(3点入選)		青少年の発想を高める事業として、継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進	①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成		1	学校地域支援本部事業 (平成20年度～新規国委託事業) (平成23年度～国庫補助事業)	
						1	学社融合事業	学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担をした上で、両者の要素を部分的に重ね合わせながら、取り組む事業を促進する
						1	少年の主張上川支庁地区大会	青少年の未来に向けての夢、社会を見つめて自分の考えなど、より良い考えを生み出し行動すること期待して実施 上富良野町発表会、11月3日、町総合文化祭で発表

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	町広報6/10号、地域ボランティア員募集(無償ボランティア)個人・団体61件登録 事業、参加日託児(2校)、5年生体力測定(1校)、そば打ち教室指導(1校)、茶道教室指導(1校)学校、PTA、地域ボランティア、ボランティアセンターを対象に、研修会を2/24実施		学社融合、図書館事業(読み聞かせ)との実施目的、取り組みの違いは利用状況はどうか、これからの登録者の活用も含め、有効な実施運営を	他の事業間との整合性について検討。学校ニーズと地域サポートはバランスを考慮
H22	上小…参観日託児、体力測定、水泳指導、花壇指導 西小…体力測定、参観日託児、PC委員会活動支援、そば打ち体験 東中小…茶道体験		国の委託事業から補助事業にH23変更されるが、事業への影響はあるのか	地域一体となり、学校サポート事業を継続
H23	上小…託児、体力測定、水泳指導 西小…託児、体力測定、そば打ち体験 東中小…水泳指導、七宝焼き体験 江幌小…水泳指導	文部科学省の委託事業から補助事業となる運営方法などは従来と同じ	今後、学社融合事業との整合性を図っていただきたい	学校サポート事業の継続
H24	4/14(西小、託児) 5/22~24(西小、体力テスト) 6/6(西小、天体観察) 4/15(上小、託児) 7/23(上小、体力テスト) 9/25(東中小、そば打ち体験) 12/18(特学、そば打ち体験)			事業の継続
H25	4/13(西小、託児)、5/14~16(西小、体力テスト)、12/17(西小、そば打ち) 4/14(上小、託児)、7/10(上小、体力テスト)		事業継続	事業の継続
H21	・各学校、講師謝金(10,000円以内) ・朝読書、読み聞かせ、絵画指導、体験活動など		町内のボランティア団体(読み聞かせ)を活用しているのか、どのような団体が学校と連携しているのか。学社なので、地元地域が学校と連携を取りながらの取り組みに	地域一体となり、学校をサポートし、地域で子どもを育てる事業として精査を
H22	・各学校、講師謝金(10,000円以内) ・朝読書、読み聞かせ、絵画指導、体験活動など			地域一体となり、学校サポート事業を継続
H23	・各学校、講師謝金(10,000円以内) ・朝読書、読み聞かせ、絵画指導、体験活動など		今後、学校支援本部事業との整合性を図っていただきたい	学校サポート事業の継続
H24	東中中(9/12、20、24、調理実習) 上小(9/26、稲作体験) 西小(5/25~10/23、田植え、稲刈り、脱穀、会食) 上中(2/19~21、箏) 江幌小(1/18~3/15の8回、卒業記念絵画制作)			事業の継続
H25	西小(5/27、9/18、9/30、12/20、稲作体験) 東中小(9/19、陶芸) 東中中(12/3、ギター指導) 上中(2/14、17、19、20、24、25、27、箏授業)		学校支援地域本部事業に統合する	事業の検討(継続)
H21	7/17上川合同庁舎 上中3年 林さん「私が今一番伝えたいこと」		今後も積極的に、町民への発表の啓発(周知)を実施していただきたい	事業の継続
H22	7/16上川合同庁舎で発表し優秀賞 11/3上富良野町文化祭で発表 東中中2年 小松大介さん「人との出会いと自分の夢」			事業の継続
H23	7/15上川合同庁舎 上中3年、佐々木友花さん「感謝する相手は」 ※11/3町文化祭においても発表 ※上中、東中中で1年ごとに発表者を推薦		青少年の健全育成のため、継続して実施を	事業の継続
H24	7/13上川合同庁舎 上中2年、村上由夏「ボランティアを考える」 ※11/3町文化祭でも発表		継続	事業の継続
H25	7/19上川総合振興局 東中中3年、小田康介「言葉という凶器」 ※11/3町文化祭で発表			事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進	①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成		1	子どもリーダー研修会	青少年のリーダーを養成する
						1	町民芸術劇場鑑賞(小学生の部)	町文化の発展と町民の芸術文化普及のために各関係機関が協調し、芸術文化の鑑賞機会を提供する
						1	子ども会育成協議会	青少年の健全育成を図るため、単位子ども会の活動以外に体験交流事業を実施 地域の育成者、ジュニアリーダーの養成を図り、青少年が心豊かに育まれる環境づくりに取り組む

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	8/4～6ジュニアリーダーコース、美瑛大雪青少年交流の家農園コース、2人(上中3年) 青少年国内交流事業にジュニアリーダー1人参加		継続的に支援していただきたい。毎年交流会に参加していただき、明るく元気なリーダーが育っていくと良い	子どもの健全な成長のため、体験などを通じて、リーダーの資質向上を図る
H22	①上富良野町リーダー養成研修 6/13 小学生5人 ②8/5～6北海道地域子ども会ジュニアリーダー研修(初級)、美瑛大雪青少年交流の家、2人(上小・西小) ③7/27～29ジュニアリーダーコース、北海道立青年の家 1人(高校1年生) ④市町村ジュニアリーダー合同研修交流会(大雪青少年交流の家)3/27～29 パレット3人		青少年のリーダー(パレット)も現在少数になっているので、養成していく事業を今後も取り組みし促進してほしい	様々な活動と支援により、リーダーとなる資質向上を図る
H23	①7/2～3上富良野町ジュニアリーダー養成研修会、大雪青少年交流の家、8人(小学4～6年) ②ジュニアリーダーコース、道立青年の家 2人(パレット中学1人、高校1人)		人材の養成を図る取り組みを促進してほしい	様々な活動と支援により、リーダーとなる資質向上を図る事業の促進
H24	①12/15～16上富良野町ジュニアリーダー養成研修会、大雪青少年交流の家、小学4～6年、24人 ※青少年国内交流事前研修と兼ねて実施(講師:上川教育局ほか) ②3/26～28市町村ジュニアリーダー合同研修交流会(北海道立青年の家 パレット中学生5人参加)	※国内交流(三重県)の事前研修を兼ねて	人材の育成を図る取り組みとして、事業の促進をしてほしい	事業の継続
H25	①ジュニアリーダーコース 9/21～23道立青年の家(パレット中学生2人) ②上川管内子ども会リーダー・シニアリーダー研修会 1/8～9 国立大雪青少年交流の家(パレット中学生2人) ③上富良野町ジュニアリーダー養成研修会 2/22～23 国立大雪青少年交流の家(小学生5人) ④市町村ジュニアリーダー合同研修交流会 3/21～23 道立青年の家(パレット中学生4人)		青少年のリーダー養成として事業継続	事業の継続
H21	小学 8/27「カッパのパッカとはるかの夢」681人、社会教育総合センターアリーナ、鑑賞料@100円		小学生・中学生に狂言鑑賞や体験できる取り組みを実施してはどうか中富良野や富良野でPTA主催による狂言等の鑑賞会が行われている上富良野でも狂言等の鑑賞会を行うとよいのではないか	実行委員会で検討していく。また、各学校にも周知していく
H22	小学 8/26「河辺バンド」709人、社会教育総合センターアリーナ、鑑賞料を@100円徴収			事業の継続
H23	小学の部 8/25社教センター 鑑賞者708人 鑑賞料1人@100円徴収 劇団トマト座によるミュージカル ※文化振興にも再掲		今後も実行委員会で実施していただきたい	事業の継続
H24	小学生の部 8/23社会教育総合センター「絵ばなしコンサート」625人 ※北海道巡回小劇場に申請せず、同様の契約にて実施			事業の継続
H25	小学生の部 8/23劇団め組 社会教育総合センター「児童劇あおいとり、ベニスの商人」623人 観賞料1人100円徴収			事業の継続
H21	31単位子ども会、1パレット(中学生) 子ども安全会@120		社会教育関係団体として活動を支援	単位子ども会の活動支援と子どもの健全育成を図る活動の支援を
H22	29単位子ども会546人、1パレット(中・高生4人)			子どもの健全育成を図る活動の支援を
H23	28単位子ども会 576人(パレット6人) 安全会登録@120		ジュニアリーダーの育成につながる活動を連携しながら取り組んでほしい	子どもの健全育成を図る活動の支援を
H24	24単位子ども会 452人(パレット5人)	育成者、指導者も含めた、人材の育成、確保		事業の継続
H25	28単位子ども会 594人(内ジュニアリーダー中学生10人) 10/19上川地区地域子ども会育成研究協議会開催 23人参加		子どもの健全育成を図る事業継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進	①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成	1	日本ボーイスカウト上富良野第1団	社会教育関係団体	
					1	子ども育成事業	(社会教育関係団体)子どもたちが心豊かにたくましく育つことを願い、体験活動、交流活動を実施 子ども会加入者だけでなく、地域で子どもを育てる目的で実施	
					1	わくわく合宿		

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
-	会員・指導員確保の見通しがたらず、休会を延長(平成20年度～休会)	活動再開時に今後の補助等について、別途協議		今後の活動について確認していく
H21	①5/31田植え体験 ②8/11～12野外体験(キャンプ)、清富多世代交流センター、小学生 ③7/26行灯行列、日の出公園 ④ラジオ体操推奨、夏休み期間 ⑤9/6ふれあい広場(こども広場)、社会教育総合センター ⑥9/19カムカムしちやいな祭、社会教育総合センター ⑦10/4稲刈り体験		様々な体験・交流が図られる場であり、事業の継続を望む特にお祭りは定着している機材備品等への予算の配慮が必要ではないか 子ども達の遊びが個人ごとになっている中、様々な体験交流を通じて継続していく必要がある	子どもの健全な成長のため、宿泊体験、アウトドア体験などを通じて、リーダーとなる資質向上を図るとともに、子どもの健全育成を図る活動を
H22	①5/29田植え体験 ②8/11～12野外体験(キャンプ)、清富多世代交流センター ※悪天のため中止 ③7月25日行灯行列、日の出公園 ④ラジオ体操推奨、夏休み期間 ⑤9/5ふれあい広場(こども広場)、社会教育総合センター ⑥9/11稲刈り体験 ⑦9/18カムカムしちやいな祭、社会教育総合センター ⑧12/26もちつき交流会			未来を担う人材育成として、事業の継続を
H23	5/29田植え体験 8/11～12野外体験 夏休み期間、ラジオ体操 9/4ふれあい広場(こども広場) 9/17カムカムしちやいな祭 9/24稲刈り体験 12/23もちつき交流会 3/24～26ジュニアリーダー合同交流研修		様々な事業を実施している定期的に役員会を開催しているが、事務局を教育委員会社会教育班スタッフが担っている	未来を担う人材育成として、事業の継続を
H24	5/26田植え体験 15人 7/22子ども行灯行列 262人 夏休み期間 ラジオ体操 598人 8/11～12野外体験キャンプ 9人 9/2ふれあい広場(こども広場) 述べ151人 9/17稲刈り体験 8人 9/22カムカムしちやいな祭 450人 12/22もちつき交流会162人 3/26～28ジュニアリーダー合同交流研修 パレット5人参加	※子ども行灯行列が、夏休み期間中でないため、育成者も含め、取り組み参加が難しい	野外体験キャンプに育成者の参加が難しいので、学校の先生に協力をお願いできないか	ふらの農業協同組合との連携により、早寝早起き朝ごはん運動の促進、地域活動の活性化を図る(※精米100kgの無償提供)
H25	7/26～8/19ラジオ体操 540人 7/28子ども行灯行列 225人 8/10～11野外体験キャンプ活動 21人 9/8ふれあい広場(こども広場) 203人 9/15カムカムしちやいな祭 550人 12/21もちつき交流会 151人			未来を担う人材育成として、事業の継続
	※家庭教育に再掲		※家庭教育に再掲	同左

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進	①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成		1	放課後子どもプラン事業 ①放課後クラブ	放課後の子どもたちの居場所づくり、体験学習、交流の場として、学校を活用して実施 留守家庭児童対策として、安心安全な活動を学校で実施
						1	放課後子どもプラン事業 ②放課後スクール	放課後の子どもたちの居場所づくり、体験学習、交流の場として、学校を活用して実施 地域のボランティアも協力支援してもらいながら、体験活動、交流活動を実施
						1	放課後子どもプラン事業 ③みんなで遊ぼう	放課後の子どもたちの居場所づくり、体験学習、交流の場として、学校を活用して実施

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	上小87人、西小16人 月～土、放課後～18:00まで 小学1～3年生		利用料について、保護者負担も視野に入れ、補助金とのバランスを考慮し事業を検討 今後も利用者が増えていくことが予測され、場所も狭いため、課題解決のための方策を検討	子どもたちの安心安全な居場所づくり、体験学習、交流活動の場
H22	上小86人、西小13人 月～土、放課後～18:00まで 小学1～3年生	登録費の見直し実施 6,000円⇒12,000円		より良い環境づくりを含め、事業の継続
H23	上小79人、西小15人 月～土、放課後～18:00まで 小学1～3年生		学校、児童館、発達支援センター、子どもセンターなど連携を図りながら、実施していただきたい	より良い環境づくりを含め、事業の継続
H24	上小80人、西小19人 月～土、放課後～18:00まで 小学1～3年生 登録12,000円	指導員の人材育成、確保	継続して、より良い居場所づくりに努めてほしい	事業の継続
H25	上小84人、西小15人 月～土、放課後～18:00まで 小学1～3年生 登録12,000円		必要事業として継続	事業の継続
H21	上小57人、西小75人 月～金、放課後～16:00まで 小学1～6年生		利用料について、保護者負担も視野に入れ、補助金とのバランスを考慮し事業を検討 帰宅時間帯の安全見守り団体との連携	子どもたちの安心安全な居場所づくり、体験学習、交流活動の場
H22	上小85人、西小76人 月～金、放課後～16:00まで 小学1～6年生	登録費の見直し実施 1,200円⇒1,200円そのまま		より良い環境づくりを含め、事業の継続
H23	上小49人、西小79人 月～金、放課後～16:00まで 小学1～6年生			より良い環境づくりを含め、事業の継続
H24	上小38人、西小73人 月～土、放課後～16:00まで 小学1～6年生 登録1,200円	指導員の人材育成、確保	継続して、より良い居場所づくりに努めてほしい	事業の継続
H25	上小58人、西小74人 月～土、放課後～16:00まで 小学1～6年生 登録1,200円		必要事業として継続	事業の継続
H21	江幌小17人 週1回、木曜日、放課後～16:00まで 東中小 実施希望無		保護者負担も視野に入れ、補助金とのバランスを考慮し事業を検討週1回ではあるが、学校と連携し放課後活動を継続	子どもたちの安心安全な居場所づくり、体験学習、交流活動の場
H22	江幌小17人 週1回、木曜日、放課後～16:00まで 東中小 実施希望無	登録費の見直し実施 200円⇒200円そのまま		より良い環境づくりを含め、事業の継続
H23	江幌小13人、週1回木曜日 東中小11人、週1回金曜日 放課後～16:00まで			より良い環境づくりを含め、事業の継続
H24	江幌小12人、週1回木曜日 東中小13人、週1回金曜日 放課後～16:00まで 登録200円	指導員の人材育成、確保	継続して、より良い居場所づくりに努めてほしい	事業の継続
H25	江幌小11人、週1回木曜日 東中小16人、週1回金曜日 放課後～16:00まで 登録200円		必要事業として継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進	①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成		1	青少年健全育成をすすめる会	地域の青少年関係団体が連携を図り、青少年の健全育成のために実施
						1	青少年国際・国内交流事業	友好(姉妹)都市を訪問し、生活・文化・教育・環境等を学習し見聞を広める
						1	青少年団体協議会	地域の活性化、新たな生活文化の創造と生涯学習の意識高揚に基づき、地域青年リーダーの養成を図る

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	小・中・高等学校、PTA、保育所、幼稚園、住民会、交番、生活安全推進協議会、民生児童委員、保護司会、社会教育関係団体など 夜間巡視活動、啓発(広報紙)活動、校外生活のみまりなど、各学校との連携		継続	地域一体となり、青少年の健全育成、環境づくりへの取り組みを
H22	青少年の健全育成のため、関係機関との連携(平成7年設立)			事業の継続
H23	青少年の健全育成のため、関係機関との連携(平成7年設立)			事業の継続
H24	青少年の健全育成のため、関係機関との連携(平成7年設立) ※幹事長には、生徒指導推進協議会会長が就任			事業の継続
H25	青少年の健全育成のため、関係機関との連携(平成7年設立) ※幹事長には、生徒指導推進協議会会長が就任			事業の継続
H21	3年毎に、姉妹都市の三重県津市を訪問 H22.1/11~14(4日間)研修参加者募集 今後説明会開催し、事前研修及び津市研修、事後研修に38人参加 (※事前研修の歴史学習に、郷土をさぐる会から協力支援)		町の歴史や異文化を体験することで、青少年の視野を広げ、人材育成の視点で事業を継続	事業の継続
H22	3年毎に、姉妹都市 カナダ国カムローズ市及び三重県津市を訪問 8/2~10(9日間)事前研修及びカムローズ市研修、事後研修に中・高校生11人参加	H24年度 国内交流事業 H25年度 国際交流事業 派遣にかかる60%を補助(財源は基金を活用)	個々の差もあると思うが、研修の成果はあったのだろうか事業内容を検討して成果がある内容を(参加対象経費等を検討)	より成果のある取り組みを(事前研修も含む)
H23	事業計画は無い		次年度にむけて準備・検討していただきたい	
H24	1/8~11引率含め30人、三重県津市ほか 実行委員会にて協議(7/4、9/18、11/7、12/26、2/6) 12/26結団式、1/8出発式、2/6解団式			事業の継続
H25	7/26~8/3(9日間)事前研修及びカムローズ市研修、事後研修を実施 中学生・高校生11人参加 7/19結団式 7/26出発式 8/30解団式			事業の継続
H21	12/19第38回北海道青年祭実行委員会発足式		社会教育関係団体として継続	活動の継続支援
H22	第38回北海道青年祭開催 日程、8/7~8 会場、保健福祉総合センター 参加者、82人			活動の継続支援
H23	会員数 25人			活動の継続支援
H24	会員数 31人 ※創立50周年事業 12/16 プラザ富山で開催 55人参加			事業の継続
H25	会員数 28人		リーダー養成を図る事業継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
青少年教育	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実	①異なる世代及び関係団体との交流、国内外交流活動への参加促進 ②ボランティア活動や地域行事に関する情報提供と体験活動の促進		①スポーツ活動参加の促進 ②体育関連施設の活用と実践活動の充実 ③地域及び仲間づくりとスポーツサークルの育成	①芸術・文化活動参加の促進 ②伝統文化等の学習と伝承・保存活動の促進 ③地域や仲間づくりと文化サークルの育成	1	成人式	新たな社会人として自覚を促し、自身で生きようとする新成人を祝福する
						1	青少年健全育成事業	地域の青少年関係団体や各学校と連携を取り、青少年の健全育成とより良い環境づくりを目的に事業を実施
						1	文化庁奨励事業(国委託事業)	青少年の文化体験・鑑賞等にかかる事業の推進
						1	ウィンターサーカス(シーニックバイウェイ北海道への協力事業)	青少年の雪の体験活動

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	1/10かみん 13:30～、記念コンサート(町民芸術劇場)実施、成人者116人、来賓者37人、保護者84人		成人者が参加したくなるような式の内容を検討町外在住者が、出席できるよう配慮記念品の全体写真の顔が見えづらかったので工夫を	事業の継続
H22	1/9かみん 13:30～、記念コンサート⇒安政太鼓を実施、成人者127人中86人出席、来賓者40人、保護者68人	記念品の写真について見直し		事業の継続
H23	1/8かみん、13:30～式典、14:00～安政太鼓による記念コンサート、14:35～記念撮影 成人者対象者135人中 91人出席、来賓者39人、保護者85人			事業の継続
H24	1/13かみん、13:30～、記念品(集合写真、6切りサイズ)記念公演(東中清流獅子舞、安政太鼓) 成人者対象132人、出席者97人、来賓34人、保護者80人			事業の継続
H25	1/12かみん、式典13:30～記念品…集合写真、記念公演(東中清流獅子舞、安政太鼓)14:00～ 成人者対象147人 出席者103人、来賓36人、家族等100人			事業の継続
H21	8/25なかよしサミット、武道館、小中高生34人、テーマ「交通安全」 イラスト付標語 総計450点 入選者に記念品、カレンダー作成		青少年の討論の場づくり、意識高揚のためにも事業継続	地域と連携を図り、事業を継続
H22	8/25なかよしサミット、武道館、小中高生 35人 テーマ「いのち」 イラスト付標語 総計 328点、入選者に記念品、入選作品カレンダー作成 道民家庭の日 絵画コンクール小学校の部 佳作 西塚大悟(上西小4年) 9/25、2/25機関紙「ほのぼの」の発刊			地域と連携を図り、事業を継続
H23	夏休み期間、夜間巡視活動 イラスト付標語「いのち」 8/29なかよしサミット 校外生活のきまりの発行 9/25、2/25機関紙「ほのぼの」発行 道民家庭の日絵画コンクール 優良賞 鈴木 絵(上西小6年)		今後も関係機関と連携し継続していただきたい	地域と連携を図り、事業を継続
H24	7/26～8/17夜間巡視活動 述べ56人 8/29なかよしサミット 34人 イラスト付標語等作品募集 272点 9/25、2/25「ほのぼの」機関紙全戸配布 校外生活のきまり発行(年2回) 道民家庭の日絵画コンクール入賞 鈴木 絵(上中1年)			イラスト付標語作品の啓発活動への活用(※上富良野町環境展への展示ほか)
H25	7/26～8/19夜間巡視活動 述べ61人 8/29なかよしサミット 小中高生37人 イラスト付標語等作品募集 151点 10/10、2/25「ほのぼの」機関紙全戸配布 校外生活のきまり発行(年2回)			事業継続
H22	①6/12～1/30「伝統子ども教室」公民館・社教センター、2/12全体発表(賢治童話の世界)公民館 発表者45人、一般70人、主催 ものがたり文化の会 ②12/16「子どものための優れた舞台芸術体験事業 狂言(講師2人)」江幌小 児童17人、教職員8人、保護者・地域住民20人 述べ45人	国が推進する事業を受託(H22年度まで)		
H24	2/20「次代を担う子どもの文化芸術体験事業(派遣事業) 狂言(講師3人)」上富良野小5・6年 児童160人			
H25	12/19「次代を担う子どもの文化芸術体験事業(派遣事業) 狂言(講師1人)」上富良野西小6年 児童27人			
H22	2/12「雪とアートで遊ぼう」 合計30人		本事業が、雪合戦・雪まつりとの日程と重なっていたが、いずれにも参加したい方がいたのではないかと	主催する実行委員会で検証済み
H23	2/11「雪とアートで遊ぼう」参加児童数3人、札幌市47人、帯広市10人、講師スタッフ9人	上富良野町の児童等の参加が少なかった		主催する実行委員会で検証していく
H24	1/9「雪のワークショップ」公民館、参加児童24人		冬における「雪」の学習、体験学習の場となっている	事業の継続
H25	1/14「雪のワークショップ」公民館、参加児童24人		体験事業として継続	事業継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
成人教育(女性教育含む)	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実 ②子育てする親への学習機会・情報の提供・相談体制の充実 ③子育てネットワークの促進	①関係団体・機関、企業等と連携し、学習機会の整備・充実 ②地域活動への参画の促進	①健康や体力の維持増進にかかるスポーツ教室・講習会参加の促進 ②地域・職場等のスポーツサークルの育成 ③生涯スポーツ活動の普及・促進	①芸術・文化に関する教室・講習会参加の促進 ②文化芸術等サークルの育成 ③優れた芸術・文化活動の普及・促進	2	女性学級	学級生が自ら役割を決め、学習の計画等を実施学習外活動として、文化祭に廃油手作り石鹸作成・配布といしずえ大学との合同作品展を企画運営している	
						2	上川支庁管内女性大会	女性団体会員の資質向上を図る
						2	女性連絡協議会	社会教育関係団体

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	4月～2月まで月1回の学習実施 定員(50人)を超える応募有		定員を超えた場合の対応(抽選)について検討を新規の方を優先させてはどうか	要綱一部改正し、H22年度募集
H22	募集要項を一部改正。4月～2月まで月1回の学習実施 42人受講	定員に満たない場合の再募集はするが、途中加入はなし	多くの対象者が受講できるように継続実施⇒申込期間中に定員に満たない場合は、再募集期間を設けるなど募集に工夫を	事業の取り組みについて見直しながら継続
H23	4月～2月まで月1回学習実施 47人受講			事業の継続
H24	4/18開講、40人受講		世代間交流の場となっている受講者数が数年40人台をキープしているが、受講者数確保(減)対策として単年度目標と複数年の目標を定めての活動実施を検討提案する	事業の継続
H25	4/19開講、20人受講	会員の減少	高齢化等により会員の減少が生じているが少数精鋭により実施	事業の継続
H21	美深町 3人参加(女性連絡協議会)		女性連絡協議会活動の中で研修の位置づけがされており、今後も支援していくことが望ましい	
H22	8/20名寄市 3人参加(女性連絡協議会)		H23年度当麻町開催予定継続実施	活動への継続支援
H23	8/25当麻町 3人参加(女性連絡協議会)		H24年度比布町開催予定継続実施	活動への継続支援
H24	8/24比布町 3人参加(女性連絡協議会)「協働する地域社会を目指して」		H25年度美深町開催予定継続実施	活動への継続支援
H25	8/31美深町 6人参加(女性連絡協議会)「自然にやさしいひとづくり」	会員の資質向上のため研修参加者を多く募ったことによる参加者増	H26年度名寄市開催予定	活動への継続支援
H21	1団体休会となり、7団体ではあるが、町づくりにかかる各委員への選出及び活動支援を実施 親睦交流会及び研修会の実施 会報を2回発行		女性が加盟する団体の役員相互の連携を図る団体であり、女性リーダーを育成するために、今後も団体育成を継続していくことが望ましい	活動への継続支援
H22	7団体 900人 町づくりにかかる各委員への選出及び活動支援を実施 親睦交流会及び研修会の開催 会報を2回発行		女性リーダーを育成するために、今後も団体育成を継続していくことが望ましい	活動への継続支援
H23	6団体 868人 町づくりにかかる各委員への選出及び活動支援を実施 親睦交流会及び研修会の実施 会報を年2回発行		女性リーダーを育成するために、今後も団体育成を継続していくことが望ましい	活動への継続支援
H24	6団体 868人 町づくりにかかる各委員への選出及び活動支援を実施 親睦交流会及び研修会の実施 会報を年2回発行	構成団体減	高齢化等による構成団体減に伴う、新規(未加入)団体加盟推進が懸念される女性連協活動を広報で周知し、構成団体長が中心となり未加入団体・新規加入者募集の促進提案する	活動への継続支援
H25	6団体 586人 町づくりにかかる各委員への選出及び活動支援を実施 親睦交流会及び研修会の実施 会報を年2回発行			活動への継続支援

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
成人教育(女性教育含む)	①次代の親となる世代への学習機会・情報提供の充実 ②子育てする親への学習機会・情報の提供・相談体制の充実 ③子育てネットワークの促進	①関係団体・機関、企業等と連携し、学習機会の整備・充実 ②地域活動への参画の促進	①健康や体力の維持増進にかかるスポーツ教室・講習会参加の促進 ②地域・職場等のスポーツサークルの育成 ③生涯スポーツ活動の普及・促進	①芸術・文化に関する教室・講習会参加の促進 ②文化芸術等サークルの育成 ③優れた芸術・文化活動の普及・促進	2	マイプラン・マイスタディ講座	町民の学習活動の場として講座を開設	
						2	公民館友の会	公民館活動を支援(文化連盟会員等で構成) ※ボランティア団体
高齢者教育	①子育て経験者による相談・ボランティア支援	①健康で生きがいのある学習機会の提供 ②豊かな体験を生かすことのできる地域活動・ボランティア活動への参画の促進	①健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実 ②地域等のスポーツサークルの育成	①健康で生きがいのある芸術活動の充実 ②地域等の文化サークルの育成	2	いしずえ大学	「若く老いよう」を目標に、大学生が自ら役割を決め、学習の計画等を実施クラブ活動を実施	

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	マイブラン・マイスタディ講座(女性のためのパソコン講座) 計4回 67人参加		成人対象の講座は、民間等の講座を優先し重複しないこと町民自ら企画運営するマイブラン・マイスタディ講座を主軸とし、支援施策を検討してはどうか	講座の継続維持
H22	①(女性のためのデジカメ講座)11/27~12/18 4回 延べ56人		町民が自主的に学習できる講座を支援してほしい	講座の継続維持
H23	①7/22実践バラ講座、21人 ②11/20~12/4女性のパソコン教室、37人 ③11/20~1/29おはなしたんけん隊、28人 ④2/14居酒屋てっぺん 高校生以下270人、一般 220人	新規の方々にも活用してもらい、幅広く町民に学習機会を提供するように取り進める	引き続き、町民が自主的に学習できる講座を支援してほしい	講座の継続維持
H24	6/13、20絵本の読み聞かせ講座 28人 6/3~1/27おはなしたんけん隊 16人 11/25、12/2女性のパソコン教室 13人	要綱での講師謝礼金限度額(2万円)に満たない事業費助成	事業費(講師謝礼金)の配当予算内(上限額助成)での対応を要検討上高で対応可能な事業実施申請の際は、協力要請するなど協議を進め対応し、他申請事業の充実が図れるような対応を検討(PC教室)	講座の継続維持
H25	6/15~2/2おはなしたんけん隊 21人 11/30~12/14パソコン講座 3回 参加者 14人			講座の継続維持
H21	自主運営により活動 廃品回収、フリーマーケット収益の一部を図書館用図書費に寄付		今後も自主的な活動を推進していただきたい	団体との情報交換を行う
H22	自主運営により活動 廃品回収、フリーマーケット収益の一部を図書館用図書費に寄付 会員40人 三浦綾子文学館巡回展の受付支援		今後も自主的な活動の推進	継続して、団体と情報交換を行う
H23	自主運営により活動 廃品回収、フリーマーケット収益の一部を図書館用図書費に寄付 会員37人		今後も自主的な活動の推進	継続して、団体と情報交換を行う
H24	公民館事業の推進、協力等を目的に自主運営により活動 廃品回収、フリーマーケット収益の一部を図書館用図書費に寄付 会員36人		事務局提案により事務の簡素・合理化を図り、今後は文化振興領域のボランティア団体等の育成義業での検証・評価を行う	継続して、団体の情報交換を行う
H25	公民館事業の推進、協力等を目的に自主運営により活動 廃品回収、フリーマーケットを実施し、収益の一部を図書館用図書費に寄付 会員34人			継続して、団体の情報交換を行う
H21	学習は年間計画をたて実施 60才以上151人、月2回金曜日に各種講演・クラブ活動など実施		入学年齢要件を見直したことから、生涯学習年齢を延伸することができた今後も継続実施していくことを期待する	学習活動の継続
H22	学習は年間計画をたて実施 60才以上139人、月2回金曜日に各種講演・クラブ活動など実施	定員に満たない場合の再募集は⇒年度中途の加入は認めない	継続してPRしてほしい	事業の継続
H23	新入学15人、137人 月2回金曜日に学習、クラブ活動の実施 9/9高齢者学びのつどい(富良野文化会館)への参加(合唱クラブ) 中富良野銀嶺との交流実施		今後も継続実施していく	事業の維持
H24	学生132人 6/8ボランティア活動 9/7高齢者学びのつどいに民舞クラブ10人(東神楽町)		今後も継続実施していく	事業の維持
H25	学生117人 月2回学習、クラブ活動の実施 9/13高齢者学びの集いに歌謡クラブ7人参加(比布町)	新入学生の減少	減少傾向への対策が必要	事業の維持

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
高齢者教育	①子育て経験者による相談・ボランティア支援	①健康で生きがいのある学習機会の提供 ②豊かな体験を生かすことのできる地域活動・ボランティア活動への参画の促進	①健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実 ②地域等のスポーツサークルの育成	①健康で生きがいのある芸術活動の充実 ②地域等の文化サークルの育成		2	道民カレッジ連携講座	北海道生涯学習協会が主催講座等を登録し講座を公開することで、生涯学習の機会充実を図る
						2	いしずえ大学自治会	社会教育関係団体

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	前期3回 229人。後期3回 231人 合計6回 460人参加		町民の参加状況について⇒登録者が年6回の継続学習することで、今後の学習機会の充実につながっている町外からも参加がある	開かれた学習活動の継続
H22	前期3回 230人。後期3回 237人 合計6回 467人参加		継続してPRしてほしい	事業の継続
H23	前期3回 313人。後期3回 353人 合計6回 666人参加		学習機会の充実につながっている継続してPRしてほしい	事業の継続
H24	前期3回(5/25 76人、7/6 83人、8/3 80人) 239人 ※7/12北海道公開講座 12人 後期3回(10/12 94人、11/9 86人、12/7 90人) 270人			事業の継続
H25	前期3回(5/24 100人、7/12 93人、8/9 94人) 287人 ※北海道大学公開講座 11人(7/18) 後期3回(10/11 101人、11/8 91人、12/6 96人) 288人		継続してPRしてほしい	事業の継続
H21	ボランティア活動の実施 学生活動の推進と親睦交流		高齢者の活動が、活発に継続されることで、地域での役割を担うなど、リーダー養成に繋がっている	活動への継続支援
H22	ボランティア活動の実施 学生活動の推進と親睦交流		自治活動の継続を	事業の継続
H23	6/10ボランティア活動(環境美化、清拭縫い) ラベンダーハイツ ※H24.6開校39周年に向けた準備		自治活動の継続を	事業の継続
H24	6/15 40周年記念式典174人※記念誌の発行 9/23いしづえ書道クラブ30周年記念式典 2/8～22いしづえ書道クラブ作品展(ラウンジ)		自治活動の継続を	事業の継続
H25	6/14ボランティア活動(環境美化、清拭縫い) 2/7～21いしづえ大学書道クラブ作品展(ラウンジ)		自治活動の継続を	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実							
						2	総合文化祭	町文化の発展と町民の芸術文化普及のための祭典
						2	町民芸術劇場	町文化の発展と町民の芸術文化普及のために各関係機関が協調し、芸術文化の鑑賞機会を提供する
						2	自主企画事業	町民自ら企画し、芸術鑑賞の機会を充実する

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	実行委員会を組織し、10/31～11/3 4日間開催 延べ3,090人		町の文化事業の一環として、町民が芸術鑑賞できる機会として大きな役割を果たしている	協賛事業者と連携し、事業の継続
H22	実行委員会を組織し、10/30～11/3 5日間開催 延べ4,667人		会場準備から各事業運営の対応に対し、好評を伺っている文化連盟も準備・後片付けを支援し、今後も継続していただきたい	事業の継続
H23	実行委員会を組織し、10/29～11/3及び11/5 7日間開催 延べ4,378人 H24年度は、11/2～4の3日間日程で開催予定	期間が長くなると、生花等の保存が困難、実行委員会にて日程協議	日頃の町民文化活動の発表の場ともなっており、今後も継続	事業の継続
H24	実行委員会を組織し、10/28、11/2～4に3日間開催 10/28公演「箱の中身」172人、総合文化祭 延べ2,465人		次年度50回の節目実施回数を迎え、50回記念奨励事業を実施することで、更なる文化振興の場となることを期待している	事業の継続
H25	実行委員会を組織し、11/1、11/2～4の3日間開催 11/1公演「嫁にこないかあ!田舎で暮らそう、村コン大作戦!」276人、総合文化祭 延べ2,733人 総合文化祭第50回記念奨励事業 10件、1,542名参加	出展者の減少(菊等)	記念奨励事業の実施により文化振興が深まったプログラムの組立の工夫が必要	事業の継続
H21	10/1幼児「お箏とギターの演奏会」262人、公民館、鑑賞料@100円 8/27小学「カッパのパッカとはるかの夢」681人、社会教育総合センター、鑑賞料@100円		幼児と小学校の部のみの実施となっているが、芸術鑑賞の機会は継続していくことが重要	H22年度から、成人対象の鑑賞は、青少年事業に移行
H22	9/9 幼児「こども人形劇」262人、公民館、鑑賞料@100 8/26小学「河辺バンド」709人、社会教育総合センター、鑑賞料@100		芸術鑑賞に触れる機会は、小さいころから重要である	事業の継続
H23	9/8幼児「劇団風の子」289人、公民館、鑑賞料@100 8/25小学「劇団トマト座」708人、社会教育総合センター、鑑賞料@100		芸術鑑賞に触れる機会は、重要であり継続	事業の継続
H24	9/6幼児「人形劇団クラルテ」人形劇319人、公民館 8/23小学「スノー・ポール」音楽625人、社会教育総合センター 鑑賞料@100円(3歳以上)		芸術鑑賞に触れる機会は、重要であり継続	事業の継続
H25	8/23小学生の部 劇団め組 社会教育総合センター「児童劇 あおいとり、ベニスの商人」623人 9/4幼児の部 劇団さっぽろ 公民館「音楽 森の音楽会」305人		芸術鑑賞に触れる機会は、重要であり継続	事業の継続
H21	6/26「井上堯之トーク&ライブ」190人、保健福祉総合センター多目的ホール 9/20「白いうた青いうたミニフェスティバルin上富良野」198人、公民館大ホール		成人対象の内容もあるが、近年小学生対象とした事業も企画され、町民主体の企画事業として奨励していくことで検討すべき	町民主体の事業の継続
H22	9/23「木管五重奏HIME」103人、かみん 鑑賞料 前売 一般800円、小中高 500円 7/11「白いうた青いうたミニフェスティバルin上富良野」279人、西小体育館 入場料 大人500円(18歳以上)		町民主体の企画事業として奨励していく	事業の継続
H23	7/2「バリトンとピアノのタベ かみん」168人参加 10/10第4回白いうた青いうたフェスティバルin上富良野、公民館 261人参加 11/2東中ふれあいコンサート 東中中学校 180人参加 3/24町民福祉コンサート「子連れコンサート」社教センター参加15人、鑑賞者35人 計50人	新規の方々にも活用してもらい、幅広く町民に学習機会を提供するように取り進める	町民主体の企画事業として奨励していく	事業の継続
H24	6/23、3/24大正、昭和、平成のロマン 延べ250人 6/24白いうた青いうたフェスティバル 203人 9/7～9北海道人形劇フェスティバル 公民館、かみん等 延べ900人参加 11/14弦楽四重奏～秋の夕べ～ 249人	次年度以降、セントラルプラザ会場使用の対象事業使用料を免除とし、事業推進する	町民主体の企画事業として奨励していく	事業の継続
H25	7/15白いうた青いうたフェスティバル 245人 11/15東中ふれあいコンサート 135人		町民主体の企画事業として奨励していく	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化				
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的	
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実						2	公民館講座 ①英会話教室 ②天体観測会	町民の学習機会の提供
							2	文化連盟	社会教育関係団体
							2	表彰 (文化賞・文化奨励賞)	町民の文化・芸術活動の奨励

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	①英会話教室 6/3～7/1初級 延べ61人 9/24～10/22中級 延べ33人 11/24～12/22初級 延べ49人 2/25～3/25中級 延べ37人		講座等を企画する関係機関等と重複しないよう調整し、行政が直接開設しなければならない企画のみに限定し、マイプラン・マイスタディ講座を奨励する	計画的な講座開設を
H22	①英会話教室 初級(5回)3回 延べ102人、中級(5回)1回(1回中止)28人 ②天体観測会6回(1回中止)62人 ③天体講演会8/12、22人		講師と協議し、計画してほしい	計画的な講座開設を
H23	①英会話教室 5/12～6/9初級中止 8/25～9/22(5回)中級 延べ30人 11/24～12/22(5回)初級 延べ22人 2/16～3/15(5回)中級 延べ26人 ②天体観望(5回)延べ61人 5/11(20人)、8/5(9人)、10/7(13人)、12/5(12人)、12/22(7人)中止4回…6/9、7/8、9/12、11/7 ③北海道大学公開講座 7/14・21の2回実施。(延べ7人参加)	・町民への学習機会の提供としての講座の在り方 ・公民館主事との連携した取組み	北海道大学公開講座は、開講周知を工夫し、参加者増に努めること参加の募集に工夫が必要 天体観望会は講師と協議し計画し、継続	計画的な講座開設を
H24	①天体観望会(4/27、5/13、5/29、6/21、7/6、8/12、9/28、10/23、11/22、12/14、※3/21)10回、延べ165人 ②英会話教室(初級、中級) 初級5/23～6/27 延べ26人名、11/21～12/19 延べ39人 中級8/30～10/4中止 2/13～3/13 延べ31人 ③北海道大学公開講座(7/12)		講師と協議し計画し、継続	計画的な講座開設を
H25	①天体観望会(4/18 14人、5/17 20人、6/17 13人、7/16 11人、8/5 22人、9/13 13人、10/11 10人、11/12 20人、12/10 20人) ②英会話教室(2/12～3/12)5回 延べ67人 ③北海道大学公開講座(7/18) 11人		計画的に実施	計画的な講座開設を
H21	42団体 423人		社会教育関係団体として継続	活動への継続支援
H22	42団体 428人		各加盟団体の活動の充実	活動への継続支援
H23	44団体 451人		各加盟団体の活動の充実	活動への継続支援
H24	39団体 394人		各加盟団体の活動の充実	活動への継続支援
H25	38団体 389人 12/8文化連盟創立50周年記念式典 166人		加盟団体増のために公民館講座開設を検討	活動への継続支援
H21	11/3文化の日の町表彰式で授与 文化賞 1人、文化奨励賞 1団体		文化振興のため実施文化功労賞等の検討	文化活動者を表彰する規定等の見直し
H22	11/3文化の日の町表彰式で授与 文化賞 該当無、文化功労賞 2人、文化奨励賞 1団体・1個人		文化功労賞設立により、永に渡り活動してきた方が受賞することができた	表彰の継続
H23	11/3文化の日の町表彰式で授与 文化賞 該当無、文化功労賞 2人、文化奨励賞 1団体・2個人		引き続き、文化・芸術活動してきた方への表彰を行っていただきたい	表彰の継続
H24	11/3文化の日の町表彰式で授与 文化賞 1団体・1個人、文化功労賞 2人、文化奨励賞 1個人		引き続き、文化・芸術活動してきた方への表彰を行っていただきたい	表彰の継続
H25	11/3文化の日の町表彰式で授与 文化賞 該当無、文化功労賞 2名、文化奨励賞 1団体・7個人		町民の励みとなる町賞である	表彰の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実					2	北海道舞台塾ふらの事業	町民の文化・芸術鑑賞の機会充実
						2	富良野広域事業(上川管内道民芸術祭・富良野地区文化団体交流会)	富良野広域における文化団体会員相互の交流機会の充実
						2	小さな美術館	個人やサークルなどの町民の小規模な生涯学習のきっかけに導くための働きかけや支援を推進する

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	11/2保健福祉総合センターかみん開催 167人。今年度から鑑賞料(大人500円、高校生以下100円)		文化芸術鑑賞として、演劇を鑑賞する唯一の機会であり、多くの町民に鑑賞していただきたい	事業の継続
H22	10/30保健福祉総合センターかみん開催 214人。鑑賞料(大人500円、高校生以下100円)	アンケートで、鑑賞内容・鑑賞料について確認	演劇を鑑賞する唯一の機会であり、今後も多くの町民に鑑賞していただきたい	実行委員会と協議し、事業の継続
H23	11/5保健福祉総合センターかみん 202人、「ら抜きの殺意」鑑賞料(大人500円、高校生以下100円)		生の演劇鑑賞の機会であり、多くの町民に鑑賞してもらいたい演目周知を早めることにより、参加者増につながる	事業の継続
H24	10/28保健福祉総合センターかみん「箱の中身」172人観賞料(大人500円、高校生以下100円)			事業の継続
H25	11/1保健福祉総合センターかみん「嫁にこないかあ！田舎で暮らそう、村コン大作戦！」276人観賞料(大人500円、高校生以下100円)	関係機関との連携が必要		事業の継続
H21	主催⇒北海道文化団体協議会 主管⇒富良野地区広域教育圏振興協議会と開催地(10/4南富良野町で開催)		文化振興のため、富良野圏域の文化団体会員相互が研修・交流することで、今後の活動に繋がっている	事業の継続
H22	主催⇒北海道文化団体協議会 主管⇒富良野地区広域教育圏振興協議会と開催(9/12上富良野町公民館で開催 224人参加)		平成23年度 中富良野町開催予定	事業の継続
H23	11/13中富良野町で開催 上富良野町から43人参加		平成24年度 富良野市開催予定	事業の継続
H24	11/25富良野市で開催 上富良野町から52人参加		富良野圏域の文化団体会員相互が研修・交流することで、今後の活動に繋がっている	事業の継続
H25	11/10南富良野町で開催 上富良野町から35人参加		研修、交流することで今後の活動に繋がる	事業の継続
H21	美ふじ会・美瑛パレット合同作品展開催(9/25～10/5 鑑賞者数100人)11/10～15 故 松野成夫氏の絵画展を開催		社会教育総合センターラウンジを開放することで、文化芸術鑑賞の機会充実に繋がっている公民館等他の社会教育施設は対象となっていないが、占有による開放は困難	事業の継続
H22	俳句・短歌合同作品展開催 7/17～24 92人		他の利用に影響がない範囲で、鑑賞の機会を充実	事業の継続
H23	9/27文化連盟代表者会議で事業周知 12/26～1/12東中中「書初め展」	多くの町民等への事業周知方法を検討		事業の継続
H24	9/18～21いしずえ大学書道クラブ「思い出展」 10/1～6上富良野美ふじ会・美瑛パレット合同作品展開催 11/6～11第53回北海道書道展特選作品紹介(文化連盟) 1/15～22木皮画展			事業の継続
H25	9/26～10/10「ブルキナファソ野球」パネル展INかみふらの 11/17～12/1菅井茂樹と読みきかせ会ムーミンの仲間たち		鑑賞機会の充実	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化				
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的	
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実						2	図書館図書蔵書管理・貸出等	住民の生涯学習の拠点とし、読書普及・啓発を推進する
							2	図書館読書普及活動	住民の生涯学習の拠点とし、読書普及・啓発を推進する
							2	子ども読書推進計画 図書館読書普及活動	住民の生涯学習の拠点とし、読書普及・啓発を推進する

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	今年の6月1日より、図書館の蔵書している図書について、インターネットと図書館内で検索できるようになった。今年度末までに、町内の各学校の図書室に蔵書している図書について、電算化し、町内の各学校と図書館の図書データの共有化を図る		データの共有化は利用者の拡大につながり、且つ公平化が保たれるので、今後期待したい⇒学校間での図書貸出について、学校の運営事項のため、各学校と検討・協議	事業を推進し、図書の貸出を充実
H22	H21年度の学校図書の電算化に伴い、図書館との共有化を図る。(H22.4より運用) また、学校図書の購入を図書館を通じて行うことにより、図書の装備(バーコード・ブックマーク・分類シール)がされた状態で納品でき、貸出しまでの準備期間の短縮を図った	実際の業務について、分かりづらいが、業務改善と利用サービスの向上を目的としている	図書館蔵書は町ホームページから検索学校図書は学校間で検索今後、学校間の相互貸借等にむけて、整備願いたい	整備による利用促進の効果について検証
H23	図書データの活用に向け、学校図書等の相互貸借を協議する 「上富良野図書館及び学校図書室相互貸借取扱要領」を制定し、新年度から運用開始	小中学校間での貸出ができるよう進める	図書の有効活用を図るよう取り進めてほしい	図書の有効活用を図る
H24	児童書の充実(購入冊数増)、本年度1,343冊購入(寄附購入含) 図書館及び学校図書室相互貸借運用開始 2件15冊 巡回移動図書の実施(新規:上小、上小放課後クラブ)	より読書普及推進する上で、図書館及び学校図書室相互貸借の活用をしてほしいが、学校側での運用実績が少ない	専属の学校図書担当職員等の配置が望ましいが、学社が連携するとともに担当者会議で協議する等、できることから取り組むこと	継続して読書普及推進を図る
H25	児童書の充実(購入冊数増)、本年度1,084冊購入(寄附購入含) 9月末に学校図書情報(蔵書状況)データ転送システムを構築(各小中学校)			継続して読書普及推進を図る
H21	町内の保育所・幼稚園や小学校へ読書支援を行っている 10月予定していた図書館まつりはインフルエンザにより中止 新年度再度調整し、町内全ての小学校で実施できるよう進めていく		継続普及活動の内容について、詳細に報告願いたい	事業の継続
H22	朝読書で読み聞かせボランティア団体が実施。 (上小57回 1,613人・西小16回 400人・江幌小9回 51人) 保育所・幼稚園、読書ボランティア「ムーミンの会」及び図書館職員が実施。(59回 2,573人) 図書館まつり(10/16～17 318人)	H22～23年度子ども読書普及活動計画策定 未実施の東中小については、実施に向け調整を行っている	各学校及び幼稚園・保育園(所)等、ボランティア団体と充分協議の上、継続実施	計画策定において検証を継続
H23	図書館まつり10/15～10/16開催、604人 子ども読書推進計画策定(H24～H25) 朝読書で読み聞かせのボランティア団体が実施。 (上小68回 2,697人・西小23回 550人・江幌小9回 39人)	計画見直しにあたって、上富良野高校と調整する	より多くの人が来館する事業内容を企画し、実施	事業の継続
H24	子ども読書推進計画に基づく行動計画により、各種事業を実施 読み聞かせ事業(2ボランティア団体による):小学校4校 72回・134人、幼稚園・保育所:59回・109人 図書館まつり 10/13開催、述べ340人参加 道立図書館事業(学校サポートボックス):江幌小、東中小、西小に計395冊の借用図書 読書感想文・感想画コンクール:感想文124点、感想画248点の応募 子ども読書推進研修会1/30 30人		読書普及活動を広く周知すること	事業の継続
H25	子ども読書推進計画に基づく行動計画により、各種事業を実施 読み聞かせ事業(2ボランティア団体による):小学校4校 73回・127人、幼稚園・保育所:65回・157人参加 図書館まつり 10/12開催、述べ280人参加 読書感想文・感想画コンクール:感想文192点、感想画127点の応募 第2次子ども読書推進計画策定(25.11.19)、推進計画に基づく行動計画策定(26.2.5)		読書普及活動を広く周知すること	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化				
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的	
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実						2	視聴覚教育	住民の生涯学習における視聴覚教育を推進する
							2	ボランティア団体等の育成	住民の生涯学習を推進するため、ボランティア活動を参画する個人・団体等を育成する

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	図書館と富良野沿線の視聴覚ライブラリーの貸出し。また、2か月に1回図書館で映画会を開催、6回実施し、224人。視聴覚ライブラリーの貸出:3,308本		映画会は、1回開催で何本上映しているのか対象年齢、参加者数等も報告願いたい 開催にあたり、他の行事と重ならないように配慮	開催日等他の事業と重複しないよう調整し開催する
H22	奇数月の第1土曜日に映画会を実施(5月48人、7月47人、9月43人 11月54人、1月30人、3月35人) 富良野地区ライブラリーの貸出:2,548本		映画会の鑑賞内容は、充分検討の上計画・実施	事業の継続
H23	奇数月の第1土曜日に映画会を実施 5/7、28人 7/2、29人 9/3、35人 11/5、9人 1/7、15人 3/3、6人 富良野地区ライブラリー貸出:2,018本		親子対象の上映内容検討し、参加者増につながるように検討	事業の継続
H24	奇数月の第1土曜日に映画会を実施 参加者:5/12 28人、7/7 24人、9/1 26人、11/10 20人、1/12 19人、3/2 9人 富良野地区ライブラリー貸出:1,816本	いずれも参加者の約半数以上が放課後ボランティア関係者	小数参加者の中で、視聴覚教育推進の一環としての映画会実施を検討し、視聴覚教材貸出に重点を置いての視聴覚推進を図るよう検討すること	映画会実施を見直し、視聴覚教材貸出推進に重点を置いての取り組み実施を要検討
H25	前年度奇数月の第1土曜日に映画会を中止 富良野地区ライブラリー貸出:1,900本			事業の継続へ
H21	読書支援に、読み聞かせ会「ムーミン」と「ものがたり文化の会」 ブックスタート支援に、読み聞かせ会「ムーミン」が行っている 上富良野町に関する新聞記事スクラップに、「よつばの会」が行っている		育成支援の継続 各ボランティア団体の活動が継続できるよう、支援施策を検討 各団体の活動を、町民が参加する行事等で紹介するなど、広報活動を充実	団体活動への支援を
H22	読書支援を、読み聞かせ会「ムーミン」と「ものがたり文化の会」で行う ブックスタート事業(7カ月児健診)に、読み聞かせ会「ムーミン」が行う 上富良野町に関する新聞記事スクラップに、「よつばの会」が行う	謝金について、学社融合事業と読書普及事業で支出していたが「読書普及事業」へ一元化し、支払い方法を見直す予定	ボランティア団体と充分協議の上実施	団体活動への継続支援を
H23	9/22上川教育研修センターにて、ふれあい読書推進アドバイザー研修(4人参加)	福祉ボランティア以外にも、地域活動の促進を図るため、学校支援も含めボランティア活動の醸成	関係団体に周知し、参加を促すこと	団体活動への継続支援を
H24	読書支援:2団体 新聞切抜:1団体 団体活動の支援協力をを行う。また、研修会等の案内周知と各種事業等への協力要請を行う			団体活動への継続支援
H25	読み聞かせ支援:2団体 新聞切抜:1団体 団体活動の支援協力をを行う。研修会等の案内周知と各種事業等への協力要請を行う			団体活動への継続支援

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実						2 郷土館運営	上富良野町の歴史にかかる資料の保存、展示を行う
							2 開拓記念館運営	十勝岳爆発にかかる資料の展示

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	10/30からの文化祭において、5日間、特別展示(昭和の暮らし展) 昭和59年から実施している、かみふらの10大ニュースを小冊子にまとめる (S59～H20年までの25年間)		展示スペースの確保が課題また、展示品での体験学習をすることも対応可能な場合は検討 郷土館の利用状況を詳細に報告を 展示資料の更新は？→収蔵庫を整理し、収蔵物の確認後、更新を検討する 資料の収集については、個人から情報提供をいただき、状況に応じ収集	展示収蔵品整理を
H22	①5/20～5/30三浦綾子文学館巡回展 429人 ②7/24～8/10外来生物展 908人 ③10/31～11/3文化祭に、なつかしのレコード展 900人 ④郷土館収蔵物データ化事業(緊急雇用創出事業)を10/31まで実施 ⑤郷土館開館(4/1～10/31)150日間 399人 ⑥かみふらの10大ニュース 1,695票	資料データ作業の継続	町民に見ていただけるよう、学習資料となるよう整備を	未整備の資料整理の継続
H23	4/1～10/31 416人 10/29～11/3文化祭に、かみふらの回顧展 1,191人 かみふらの10大ニュース 1,300票 郷土館収蔵物整理 収蔵点数25,624点	入館者減 地下に雨水が入り、革製品収蔵物にカビ寄贈者、文化財保護員などと協議し、収蔵に耐えられないものや重複している資料を整理	郷土資料を適切に管理	資料整理の継続
H24	郷土館収蔵物整理 地下収蔵物を主に512点を廃棄(収蔵資料数25,553点)、HP開設(H24.10下旬～) 4/1～10/31開館 ※25.2.28現在(開館日数(臨時含) 152日 入館者数417人) 11/2～11/4文化祭に、特別展(かみふらの指定文化財、史跡・石碑展)実施 延べ1,232人 2012年かみふらの10大ニュース応募数 1,290票	郷土館地下室の湿気を強制換気にて対応 新年度に排水整備を予定		引き続き、資料・施設の維持管理に努めること
H25	6/21排水溝整備工事完了(1,617千円) 9/11屋根・外壁改修工事完了(10,794千円) 日曜開館を実施(日曜開館支援ボランティア14人) 4/1～3/31開館(開館日数(臨時含) 176日 入館者数498人) 11/2～11/4文化祭に、特別展(ふるさと学び舎展)実施 延べ1,366人 2013年かみふらの10大ニュース応募数 1,230票			引き続き、資料・施設の維持管理に努めること
H21	展示物の一部を更新 (展示されていない品物を展示)		個人所有の収集から借受若しくは寄贈を求めることも要検討 地域住民会に管理委託し、庭の手入れ等、今後も地域支援の継続を郷土館と連携した特別展示の実施を	今後も特別展示等に工夫を
H22	5/1～10/31開館(住民会へ管理委託) (開館日数 93日 入館者数678人)		来館者への対応	開館の持続
H23	5/1～10/31開館(住民会へ管理委託) (開館日数 91日 入館者数499人) ※休館日も、事前連絡で対応可	入館者減 震災の影響で7・8月の観光客減	引き続き、適切な施設管理と開館	開館の持続
H24	6/20屋根塗装工事完了(819千円) 5/1～10/31開館(住民会へ管理委託) ※25.2.28現在(開館日数 88日 入館者数927人)			適切な施設管理に努めること
H25	5/1～10/31開館(住民会へ管理委託) 開館日数 89日 入館者数546人)			開館の持続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
文化振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのある文化・芸術活動の充実					2	郷土をさぐる会	社会教育関係団体
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実					3	スポーツ推進委員活動	住民のスポーツ活動への支援
						3	表彰 (スポーツ賞、スポーツ奨励賞、スポーツ功労賞)	住民のスポーツ活動の奨励、表彰
						3	主催事業 (B&G水泳技能認定会)	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	郷土をさぐる誌の27号を発刊		団体活動の支援	活動への継続支援
H22	北海道文化功労賞を受賞 郷土をさぐる誌の28号の発刊	郷土誌作成費用に対する補助見直し	団体活動の支援	活動への継続支援
H23	郷土をさぐる誌の29号の発刊	会員の高齢化	団体活動の支援	活動への継続支援
H24	郷土誌等発行補助事業実施 郷土誌発刊にかかる町外研修支援(バス運行) 郷土をさぐる誌の30号の発刊準備業務支援		団体活動の支援	活動への継続支援
H25	郷土誌等発行補助事業実施 かみふらの115年歴史表(400千円) 郷土探訪研修会支援(郷土誌発刊にかかる町外研修支援(バス運行)) 郷土をさぐる誌の31号の発刊準備業務支援			活動への継続支援
H21	会議6回実施 スポーツ事業を5事業実施		各種スポーツ団体への指導者としての派遣(単発又は継続)の検討	委員活動の継続
H22	会議7回実施 富良野地区広域教育圏振興協議会主催の親子元気アップスクールに2人支援		各種スポーツ事業を行っていく また、ニュースポーツ普及の検討を行っていく	委員活動の継続
H23	任命15人 会議7回(3/27含む)、富良野地区広域教育圏振興協議会主催の親子元気アップスクールに2人支援	法が改正され、スポーツ推進委員に変更(H24年4月)	各種スポーツ事業を行っていく ニュースポーツ普及の検討を行う	委員活動の継続
H24	会議6回実施 富良野地区広域教育圏振興協議会主催の親子元気アップスクールに9人支援		各種スポーツ事業を行っていく ニュースポーツ普及の検討を行う	委員活動の継続
H25	任命15人 会議6回実施		各種スポーツ事業を行っていく ニュースポーツ普及の検討を行う	委員活動の継続
H21	スポーツ奨励賞18件、スポーツ功労賞3件の表彰を行った		表彰審査の決定にあたり審査基準を見直しの上、慎重な審議を行う。また、スポーツに親しむ方が高齢になっており、功労賞を受賞できるよう見直しを行う	審査基準見直し実施
H22	スポーツ奨励賞 8団体、15個人		H23年度より、表彰基準の見直しを行う	
H23	スポーツ賞 1個人、スポーツ奨励賞 5団体、9個人、スポーツ功労賞 該当無		引き続き、スポーツ活動・振興に寄与された方の表彰を行っていたきたい	
H24	スポーツ功労賞 2個人、スポーツ奨励賞 4団体、16個人		引き続き、スポーツ活動・振興に寄与された方の表彰を行っていたきたい	
H25	スポーツ功労賞 4個人、スポーツ奨励賞 6団体、11個人		引き続き、スポーツ活動・振興に寄与された方の表彰を行っていたきたい	事業の継続
H21	5回実施 166人		開催時期に配慮し、継続実施	事業の継続
H22	5回実施 189人		水泳少年団の1・2年生の入団により参加者が増えている今後も継続	事業の継続
H23	5回実施 162人		今後も継続実施していく	事業の継続
H24	1級～10級の認定審査を行う 合格者は名前を掲示 5回実施 200人		今後も継続実施していく	事業の継続
H25	1級～10級の認定審査を行う 合格者は名前を掲示 5回実施 159人		広報により参加者の拡大を図りながら、今後も継続実施していく	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化				
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的	
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実						3	主催事業 (児童水泳記録会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	主催事業 (子ども水泳教室)	住民のスポーツ活動の推進
							3	主催事業 (親子水泳教室)	住民のスポーツ活動の推進
							3	後援事業 (ゲートボール教室、初心者パークゴルフ教室、バドミントン教室)	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	26人	参加参加者は減ってきているが、平成22年度も実施していく 周知方法、開催時期などを関係団体と検討必要	夏季期間のスポーツであり、継続実施	事業の継続
H22	9/20開催 参加者35人		昨年度より参加者が増えており、夏季期間のスポーツ事業として今後も継続していく	事業の継続
H23	9/11開催 参加者14人		開催時期、広報等の周知方法を検討し活動を継続	事業の継続
H24	各種目(泳法) 学年別で記録会を実施 9/9参加者14人		今後も継続実施していく	事業の継続
H25	各種目(泳法) 学年別で記録会を実施 8/31参加者21人		各小学校に広報活動を実施し参加者の募集に繋げながら、今後も継続実施していく	事業の継続
H21	155人参加		児童の初心者水泳教室として今後も実施	事業の継続
H22	7回実施 延べ62人		水泳少年団に1・2年生が入団しているため、参加者は減少している初心者の水泳教室として今後も継続	事業の継続
H23	6/25～8/6 16名参加、7回実施 述べ80人		児童の水慣れ・初心者水泳教室として今後も実施	事業の継続
H24	6/19～7/31 11名参加、7回実施、述べ72人、対象小学1年生		児童の水慣れ・初心者水泳教室として今後も実施	事業の継続
H25	6/17～8/5 12名参加、7回実施、述べ65人、対象小学1年生		児童の水慣れ・初心者水泳教室として今後も実施	事業の継続
H21	100人 親子で参加する水泳教室として、今後も実施をしていく		親子で参加できるスポーツ教室は大変意義があり、積極的な開催を	事業の継続
H22	5回実施、述べ76組、152人		親と子のスポーツ教室として意義があり、今後も継続	事業の継続
H23	6/25～7/30親子14組参加、6回実施 述べ62組124人参加		親と子のスポーツ教室として意義があり、今後も継続	事業の継続
H24	6/22～7/27親子15組参加 6回実施 述べ68組136人参加		親と子のスポーツ教室として意義があり、今後も継続	事業の継続
H25	6/28～7/26親子16組参加 5回実施(6回実施予定であったが、6/21悪天候により中止) 述べ60組120人参加		親と子のスポーツ教室として意義があり、今後も継続	事業の継続
H21	ゲートボール教室 31人、インドアゴルフ教室 39人、フロアカーリング教室 74人		スポーツに親しむ機会の少ない方を対象に積極的に取り組む必要がある	事業の継続
H22	ゲートボール教室 24人、テニス教室 60人、フロアカーリング教室83人、インドアゴルフ教室41人		スポーツクラブとの区分け(スポーツクラブはニュースポーツを実施し、体育協会等各団体はスポーツ教室を実施)	事業の継続
H23	ゲートボール教室 19人、少林寺教室 20人、テニス教室 述べ96人、インドアゴルフ教室 43人 銃剣道講習会 33人		事業の継続	事業の継続
H24	ゲートボール教室 40人、テニス教室 述べ171人、インドアゴルフ教室 52人、パークゴルフ教室 20人、フロアカーリング教室 82人、銃剣道講習会 62人、少林寺教室 10人		競技人口の拡大を図るためにも事業の継続	事業の継続
H25	ゲートボール教室 述べ97人、テニス教室 述べ63人、インドアゴルフ教室 述べ117人、パークゴルフ教室 述べ21人、フロアカーリング教室 59人		競技人口の拡大を図るためにも事業の継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実						3 町民スポーツ大会 (アクアキッズフェス)	住民のスポーツ活動の推進
							3 町民スポーツ大会 (世代間ゲートボール大会)	住民のスポーツ活動の推進
							3 町民スポーツ大会 (住民会対抗ソフトボール大会)	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	27人参加	参加者が毎年減少傾向だが、水と親しむスポーツ事業として今後も実施を	周知方法、開催時期、内容について検討が必要ゲームだけでなく、競技等も検討してはどうか	平成22年度事業について継続を検討していく
H22	25人参加		H22年度から水泳競技も取り入れて実施時期的に少年団大会(他のスポーツ)などが重複し参加者が減少している時期、内容など検討し唯一の水中スポーツとして継続を	事業の継続
H23	7/18開催 18人参加		開催時期(海の日から夏休み中等)の変更、ゲーム内容を検討しながら継続	事業の継続
H24	7/29開催 アクアキッズフェスに変更して実施、31人参加		事業の継続	事業の継続
H25	7/27開催 小学生の部22名、幼児の部11組22人参加		遊び感覚で水に親しむことは子供にとって興味があくことと思う事業の継続	事業の継続
H21	8/10 9チーム 58人参加	小学生の教室を同時に開催し、参加者が多かった次年度以降も同様に実施するよう関係機関と協議していく	世代間の交流が図られ、今後も継続	事業の継続
H22	8/10 9チーム 51人参加		町内の愛好者の世代間交流が図られ、今後も継続	事業の継続
H23	8/10 10チーム、51人参加		町内の愛好者の世代間交流が図られ、今後も継続	事業の継続
H24	放課後クラブの子ども達にボランティア指導し、交流参加も図る 8/10 8チーム、43人参加		町内の愛好者の世代間交流を図るため、今後も継続	事業の継続
H25	放課後クラブの子ども達にボランティア指導し、交流参加も図る 8/10 7チーム、33人参加		町内の愛好者の世代間交流を図るため、今後も継続世代間交流は必要と思われるので、地域交流が盛んになるか状況を見ながら継続	事業の継続
H21	8住民会 14チーム 185人参加 参加住民会対抗として開催しているスポーツ事業。スポーツを通じて住民間の親睦・交流を深める大会として今後も実施を計画していく		住民会活動の一環として、スポーツ交流により健康増進と地域交流が盛んになり今後も継続	事業の継続
H22	9住民会 16チーム 218人参加 参加住民会対抗として開催しているスポーツ事業		住民会活動、スポーツを通じての交流の場として、健康増進、地域交流が盛んになり、今後も継続とするが、各住民会のスポーツ推進委員や各種スポーツ愛好者などが積極的に参加者を募るなど努力が必要	事業の継続
H23	6/26 10住民会 13チーム 182人参加		今年度、幼稚園の運動会と重なったため次年度は日程の調整が必要	事業の継続
H24	6/24 11住民会 13チーム 182人参加 男子10チーム、混成3チーム 富原、島津、上西小、上小の4会場		住民会活動の一環として、スポーツ交流により健康増進と地域交流が盛んになるよう、今後も継続	事業の継続
H25	6/30 13住民会 16チーム 212人参加 男子12チーム、混成4チーム 富原、島津、上西小、上小の4会場		住民会活動の一環として、スポーツ交流により健康増進と地域交流が盛んになるよう、今後も継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化				
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的	
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実						3	町民スポーツ大会 (住民会対抗パークゴルフ大会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	町民スポーツ大会 (ソフトミニバレー大会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	町民スポーツ大会 (町民歩こう会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	町民スポーツ大会 (町民玉入れ大会)	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	16住民会 48チーム 216人参加 ※本年度参加者が減少したのは、富良野圏内の行事と重複したため。住民会対抗として開催しているスポーツ事業。スポーツを通じて住民間の親睦・交流を深める大会として今後も実施を計画していく		年配者の健康維持とスポーツとして定着し、愛好者も多く大変意義がある	事業の継続
H22	15住民会 43チーム 190人参加 参加住民会対抗として開催しているスポーツ事業		年々参加者が減少してきており、地域での参加者の募集や大会競技の見直しなど検討が必要	事業の継続
H23	5/29 16住民会 43チーム 194人参加		事業の継続	事業の継続
H24	5/27 15住民会 39チーム 179人参加 パークゴルフ場		事業の継続	事業の継続
H25	5/27 18住民会 40チーム 183人参加 パークゴルフ場		ここ数年参加人数も安定している事業の継続現在活発なスポーツとして推奨する	事業の継続
H21	18住民会 51チーム 263人参加 住民会対抗として開催しているスポーツ事業。スポーツを通じて住民間の親睦・交流を深める大会として今後も実施を計画していく		住民会活動の一環として、スポーツ交流により健康増進と地域交流が盛んになり今後も継続	事業の継続
H22	17住民会 43チーム 230人参加		年々参加者が減少してきており、地域での参加者の募集や大会競技の見直しなど検討が必要	
H23	1/22開催 19住民会 47チーム 247人参加		住民活動の一環として、スポーツ交流により健康増進、地域交流が図られている今後も継続	事業の継続
H24	1/27開催 17住民会 44チーム 237人参加		活動の盛んな時に新たな取組みをしている事を評価	事業の継続
H25	1/26開催 20住民会 46チーム 237人参加		新たな取組みをしいる事を評価推移を見る	事業の継続
H21	29人参加		住民の健康増進とスポーツ活動として、今後も継続	事業の継続
H22	19人参加		住民の健康増進とスポーツ活動として、今後も継続	事業の継続
H23	町内13.5kmコース、10/10、30人参加		途中天候が悪くなった場合のコースの考慮が必要今後も継続	事業の継続
H24	10/8十勝岳周辺約10kmコース、41人参加		ゴールで食事したのが良い、今後も継続	事業の継続
H25	10/14十勝岳周辺約10kmコース、23人参加		天候に左右されるが特色ある取組として今後も継続現在のコース等検討しながら、参加者の満足のいく企画を継続希望	事業の継続
H21	29チーム 217人参加 上富良野体育指導委員会の事業として、開催している	近年同じ団体が多いため、募集方法などの工夫が必要がある(住民会、会社のかたも参加できる周知方法の検討)	冬期間の屋内施設のスポーツ競技として継続	事業の継続
H22	34チーム 242人参加		年々参加者が増えており、今後も継続していく	事業の継続
H23	12/4 19チーム 153人参加		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続
H24	12/2開催 17チーム 120人参加		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続
H25	12/8開催 21チーム 162人参加		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実					3	町民スポーツ大会 (住民会インドアゴルフ大会)	住民のスポーツ活動の推進
						3	町民スポーツ大会 (住民会フロアカーリング大会)	住民のスポーツ活動の推進
						3	町民スポーツ大会 (雪合戦大会)	住民のスポーツ活動の推進
						3	町民スポーツ大会 (町民かんじきツアー)	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	18チーム 81人参加		冬期間のスポーツ競技として継続	
H22	14住民会 17チーム 85人参加		冬期間のスポーツ競技として継続	事業の継続
H23	12/18開催 14住民会 17チーム 80人参加		冬期間のスポーツ振興、愛好者の拡大を目的に開催したが、参加者の顔ぶれが変わらず廃止を検討	事業の廃止
H24	廃止			
H21	16住民会 31チーム 147人参加		屋内施設のスポーツ競技として継続	
H22	17住民会 32チーム 141人参加		継続	事業の継続
H23	11/27 15住民会 34チーム 154人参加		継続	事業の継続
H24	11/25開催 17住民会 36チーム 164人参加		事業の継続	事業の継続
H25	11/24開催 17住民会 37チーム 170人参加		事業の継続	事業の継続
H21	26チーム 217人参加 冬のスポーツ事業として、体育指導委員会が共催して開催している	近年同じ団体が多く、募集などの工夫が必要また、平成19年度までは雪まつりと共催したが、日の出公園の場所が無いため懸案事項となる	冬期間の屋外スポーツ競技として継続	事業の継続
H22	2/12開催(雪祭り事業と同一開催) 22チーム 199人参加		H22年度については、混成の内容変更を行い、雪まつり事業にも参加できるようタイムスケジュールを工夫した冬期間の屋外スポーツ事業として継続	事業の継続
H23	2/5開催(雪まつり事業と同一開催) 19チーム 155人参加		雪まつりと同日開催していたが、一部事業の時間帯が雪まつりと重なり参加者が分かれてしまうことから別日程での検討も協議していく	事業の継続
H24	2/3開催(雪まつり事業と同一開催) 16チーム 135人参加		室内で実施する選択もして工夫しながら、事業の継続	事業の継続
H25	2/2開催(雪まつり事業と同一開催) 16チーム 138人参加		状況により会場を室内に変更するなど参加者への配慮や工夫をしながら、事業の継続	事業の継続
H21	8人参加 冬の自然と登山を体験するスポーツ事業として、体育指導委員会と共催で開催している		冬期間のスポーツ体験として継続	事業の継続
H22	15人参加		地域の自然を生かしたスポーツ事業として、今後も継続	事業の継続
H23	3/20(十勝岳三段山) 天候不順のため中止		地域の自然を生かしたスポーツ事業として、今後も継続	事業の継続
H24	3/23開催(十勝岳三段山) 5人参加		地域の自然を生かしたスポーツ事業として、今後も継続	事業の継続
H25	3/22開催(十勝岳三段山) 11人参加		地元十勝岳を活用したスポーツ事業として、今後も継続	事業の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化				
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的	
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実						3	町民スポーツ大会 (長なわとび等大会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	共催・後援 (スポーツフェスタ)	住民のスポーツ活動の推進
							3	共催・後援 (クロスカントリースキー大会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	共催・後援 (北・北海道銃剣道大会)	住民のスポーツ活動の推進
							3	ツール・ド・北海道	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	11チーム 100人 参加例年、参加している団体が重複していることから、大会の開催を中止で検討している		中止にするのではなく、開催方法、募集案内の方法を検討し、継続したほうがよい	募集方法等を検討の上、事業の継続
H22	11チーム、95人参加		町民の軽スポーツの普及として今後も継続	
H23	2/26開催 7チーム 61人参加		参加者(特に子供)の増減に関わらず事業の継続を他の行事とぶつからないような時期的な配慮を	事業の継続
H24	2/24開催予定だったが申込チーム数が1チームのため中止		町民の冬の季節の軽スポーツ普及として、今後も継続	事業の継続
H25	2/23開催予定だったが申込チーム数無しのため中止		他の行事とぶつからないような日程の配慮をし、継続	事業の継続
H21	道北圏広域スポーツセンター協議会主催 富良野市 …パークゴルフ競技 中富良野町 …フットサル競技 南富良野町 …ラフティング競技 占冠村 …ウォーキング 上富良野町 …フロアカーリング競技	道北圏広域スポーツセンター協議会が主催となり、平成19年度から実施本年度も実施をしているが、来年度以降は協議会にて継続するか協議	市町村間での交流が図られるため、継続開催を希望	継続の方向で協議
H22	道北圏広域スポーツセンター協議会主催 富良野市 …パークゴルフ 9/25 49人 中富良野町 …フットサル 2/19 11人 南富良野町 …ラフティング 9/12 0人 占冠村 …ウォーキング 9/26 0人 上富良野町 …フロアカーリング 10/24 45人		富良野圏域で実施するスポーツ大会として継続の方向で協議していく	
H23	道北圏広域スポーツセンター協議会主催 富良野市 …パークゴルフ 9/17 2人 中富良野町 …フットサル 2/18 6人 南富良野町 …ラフティング 9/18 0人 占冠村 …ウォーキング 10/2 0人 上富良野町 …フロアカーリング 10/23 43人			
H24	富良野圏域の交流も図りながら、各市町村で種目を検討し実施する。 富良野市 …9/15パークゴルフ、14人 中富良野町…2/16フットサル、24人 南富良野町…9/9ラフティング、0人 占冠村 …9/30ミニバレーボール、12人 上富良野町…10/28フロアカーリング、42人		事業の継続	
H25	富良野圏域の交流も図りながら、各市町村で種目を検討し実施する。 富良野市 …9/21パークゴルフ、2人 中富良野町…2/15フットサル、11人 南富良野町…9/8ラフティング、4人 占冠村 …12/8ミニバレーボール ※参加チーム数が少ないため中止 上富良野町…10/27フロアカーリング、70人		上富良野で実施のフロアカーリングは、比較的新しいスポーツで活発に活動しており、富良野圏域の交流を図りながらの活動を希望し事業の継続	事業の継続
H21	平成20～21年度 雪不足のため中止、冬のスポーツ事業として、町が共催しておこなっている事業だが、本町からの参加者が少なくなっている		本町のクロスカントリースキー普及のために必要また、冬のスポーツの場の確保が必要	冬のスポーツの場の確保が必要
H22	H22年度中止	H23年度以降は大会を計画しないことで進めたい	H23年度以降の大会については計画が見込めないため、今後計画から除外する	
H24	上富良野町・旭川市・名寄市・留萌市・遠軽町の5箇所を持ち回りで5年に一度開催 社教センター 3/1～2開催 327人参加			
H21	3年に一度開催 9/12 30人従事(役場管理職20人、体協10人)			
H24	3年に一度開催 9/16 60人従事(役場管理職24人、体協17人、スポーツ少年団1人、女性協10人、女性スポーツ協議会8人)			

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実						3 さわやかラジオ体操 (社会教育総合センター、泉栄防災センター)	住民の健康・スポーツ活動の推進
							3 指導者養成 (雪合戦3級審判講習会)	住民のスポーツ活動の推進にかかる指導者の育成
							3 派遣事業 (管内及び道スポーツ推進委員研修)	スポーツ推進委員の研修の充実

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	4/27～10/31述べ 12,330人参加 社教センター、泉栄防災センター前で実施		自ら参集し継続することで、健康増進が図られている	自主活動の継続推奨
H22	4/26～10/31述べ 12,115人参加 社教センター、泉栄防災センター前で実施		自ら参集し継続することで、健康増進が図られている	自主活動の継続推奨
H23	4/25～10/31述べ 11,849人参加 社教センター、泉栄防災センター前で実施		自ら参集し継続することで、健康増進が図られている	自主活動の継続推奨
H24	4/25～10/31社教センター前 述べ6,734人、泉栄防災センター前 述べ3,685人 6/19～10/15住吉会館前 述べ3,011人 述べ合計13,430人		自ら参集し継続することで、健康増進が図られている	自主活動の継続推奨
H25	5/1～10/31社教センター前 述べ6,561人、泉栄防災センター前 述べ3,259人 5/15～9/28住吉会館前 述べ3,767人 述べ合計13,587人		自ら参集し継続することで、健康増進が図られている	自主活動の継続推奨
H21	※2年ごとに開催 (H20に実施 次回はH22に実施)		競技審判員として養成は必要	競技推奨と指導者養成は一体とし継続
H22	受講生 7人		今後も2年ごとに実施していく	競技推奨と指導者養成は一体とし継続
H23	※2年ごとに開催 (H22に実施 次回はH24に実施)			
H24	受講生 8人			競技推奨と指導者養成は一体とし継続
H25	※2年ごとに開催 (H24に実施。次回はH26に実施)		今後も2年ごとに実施していく	事業の継続
H21	上川管内研修会 2人参加	毎年開催され、体育指導委員の研修として参加しているが、平日に開催されることから、参加者が少ない	開催を土・日にするなど、開催日時に配慮	派遣養成の継続
H22	①9/10管内研修(当麻) 2人、事務局、1人 ②10/28～29道内研修(網走) 3人、事務局、1人 ③南部女性委員会(上富良野町) 4人		開催地の職務として実施している都合上、平日開催はやむを得ないことではあるが、今後も体育指導員の派遣を継続していく	派遣養成の継続
H23	①8/27管内研修(名寄) 1人、事務局1人 ②10/27～28道内研修(登別) 1人、事務局1人 ③7/16南部女性委員会(中富良野町) 1人、事務局1人		開催地の職務として実施している都合上、平日開催はやむを得ないことではあるが、今後も体育指導員の派遣を継続していく	派遣養成の継続
H24	①8/25管内研修(占冠) 2人、事務局3人 ②10/25～26道内研修(稚内) 1人、事務局1人 ③7/16管内女性研修(旭川市) 1人、事務局1人		開催地の職務として実施している都合上、平日開催はやむを得ないことではあるが、今後もスポーツ推進委員の派遣を継続していく	派遣養成の継続
H25	①7/20管内女性委員会南部ブロック研修会(占冠村) 事務局2人 ②9/6管内研修(美瑛町) 事務局2人 ③10/29～30道内研修(千歳市) 事務局1人		開催地の職務として実施している都合上、平日開催はやむを得ないことではあるが、今後もスポーツ推進委員の派遣を継続していく	派遣養成の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実						3 派遣事業 (スポーツ大会選手派遣、指導者育成派遣)	住民のスポーツ活動の推進
							3 体育協会	社会教育関係団体
							3 スポーツ少年団	社会教育関係団体
							3 女性スポーツ協議会	社会教育関係団体

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	町内のスポーツ少年団、中高生の全道大会、全国大会出場時の事業として実施している 平成20年度 66人(8件) 平成21年度 62人		今後も事業を継続して欲しい (高校が本事業を知らなかったため、周知していただきたい) 指導者育成のために講習費だけでなく、旅費等も支給してはどうか(過去には支給していた)	事業の継続
H22	指導者派遣養成 パークゴルフ協会 2人 スポーツ大会選手派遣 38人(31件)	H23年度から選手派遣事業は廃止となり、教育長交際費から激励金として支出予定	指導者養成については、各スポーツ団体で活用されるよう周知する必要がある	
H23	スポーツ大会選手派遣激励金 団体3件、個人19人	平成23年度よりスポーツ大会選手派遣事業から教育長交際費スポーツ大会選手派遣激励金に		事業の継続
H24	スポーツ大会選手派遣激励金 団体4件、個人42人	平成25年度より教育長交際費スポーツ大会選手派遣激励金から報奨金へ		事業の継続
H25	スポーツ大会選手派遣報奨金 団体3件(全道3件)、個人36件(全国7件・全道29件)(実31人)			事業の継続
H21	加盟20団体 2,084人 620千円補助	加盟団体や人数は減少しており、自主活動促進のために支援を	スポーツ愛好者に「組織にしがたれたくない」という意識もあり、体育協会加盟のメリット(施設利用減免等)を検討する必要がある	活動への継続支援
H22	加盟19団体 1,999人		加盟団体や人数が年々減少している補助金についても運営補助から事業補助へ検討	活動への継続支援
H23	加盟19団体 1,750人			
H24	加盟19団体 1,730人		公金を補助しているため収支決算状況を求めながら継続支援	活動への継続支援
H25	加盟20団体 1,728人		公金を補助しているため収支決算状況を求めながら継続支援	活動への継続支援
H21	加盟13団体 250人 1,100千円 スポーツ少年団の活動支援として今後も支援を継続していく		社会教育関係団として継続	活動への継続支援
H22	加盟13団体 300人		ジュニア期のスポーツ活動の場として、スポーツを通じて青少年の心と体を育む組織として継続支援	活動への継続支援
H23	加盟11団体 341人			活動への継続支援
H24	加盟12団体 266人		公金を補助しているため収支決算状況を求めながら継続支援	活動への継続支援
H25	加盟12団体 348人		公金を補助しているため収支決算状況を求めながら継続支援	活動への継続支援
H21	平成20・21年度 加盟4団体 55人 上富良野町の女性スポーツ団体として活動支援を継続していく		加盟団体・人数も減少しているが、年配者の健康増進、親子(母親と子)でスポーツを楽しむ等今後普及拡大の必要がある	活動への継続支援
H22	加盟4団体 55人(4/15 総会、12/18 ミニバレー交流大会、1/27・2/3 エアロビクス教室)		女性のスポーツ普及のため、スポーツ団体としての活動を支援	活動への継続支援
H23	加盟5団体 55人		女性のスポーツ普及のため、スポーツ団体としての活動を支援	活動への継続支援
H24	加盟5団体 55人		公金を補助しているため収支決算状況を求めながら継続支援	活動への継続支援
H25	加盟5団体 56人		公金を補助しているため収支決算状況を求めながら継続支援	活動への継続支援

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
スポーツ振興	家庭・生活・地域において、健康で生きがいのあるスポーツ活動の充実					3	総合型地域スポーツクラブ	住民のスポーツ活動の推進
						3	学校開放事業(町内小・中学校)	住民のスポーツ活動の推進
社会教育基盤整備	生涯学習社会の実現をめざし、学習環境づくりの推進(社会教育関係団体・社会教育関係施設)					共通	社会教育委員活動	社会教育法に基づき設置
						共通	富良野地区広域教育圏振興協議会(人づくり事業)	富良野地区広域教育圏振興協議会事業(社会教育主事等による研究事業)

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	平成19～20年度 設立準備委員会 平成21年度 4月設立 会員26人		運動する機会の少ない方が参加されるような、積極的な啓蒙活動を	自主活動の推奨
H22	会員21人	体育協会等加盟団体との役割の違い⇒ ニュースポーツを企画実施	誰もが親しめるスポーツ教室等の開催とし、住民のためのスポーツ活動を促進するため、今後も支援継続	
H23	会員22人			自主活動の継続推奨
H24	自主運営、受益者負担 会員22人			自主活動の継続推奨
H25	自主運営、受益者負担 会員22人			自主活動の継続推奨
H21	上小 2,854人 西小 1,252人 東中小 343人 江幌小 208人 上中 3,456人、東中中 618人 総計8,731人		今後も住民のスポーツ活動等を促進するために事業を継続していく	事業の継続
H22	上小 3,115人、西小 240人、東中小 332人、江幌小 222人、上中 2,932人、東中中 694人 総計7,535人		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続
H23	上小 2,786人、西小 120人、東中小 182人、江幌小 208人、上中 1,603人 東中中 518人 総計5,417人		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続
H24	上小 1,879人、西小 25人、東中小 152人、江幌小 282人、上中 1,144人 東中中 639人 総計4,121人		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続
H25	上小 1,728人、西小 150人、東中小 99人、江幌小 260人、上中 1,187人 東中中 676人 総計4,100人		住民のスポーツ活動を促進するため、今後も事業を継続	事業の継続
H21	定例会議(4・7・9・11・3月5回開催)、上川管内社会教育委員兼公運審委員研修会参加、2/15教育推進会議開催		社会教育委員が事務事業評価を進めるにあたり、学習する機会を設けてはどうか	委員活動の継続
H22	定例会議(5～3月まで6回開催)、上川管内社会教育委員兼公運審委員研修会9/7～8 7人出席、委員自主研修として、2/15教育推進会議5人出席		次年度も定期的な会議の開催と委員の研修の実施	委員活動の継続
H23	定例会議(5～3月まで開催)、8/24上川管内社会教育委員講座3人出席、上川管内社会教育委員兼公運審委員研修会10/19～20 4人出席			
H24	定例会議 5回開催 ※第8次社会中期計画の策定(H24～25)			
H25	定例会議(5～3月まで10回開催)、第8次社会中期計画の策定、8/28上川管内社会教育委員基礎講座2人出席、10/17～18第35回全国公民館研究集会inふらの(兼上川管内社会教育委員兼公運審委員研修会)11人出席		次年度も定期的な会議の開催と委員の研修の実施	委員活動の継続
H21	【研究テーマ『変革の時代における社会教育行政の役割』～地域の教育力向上のための方策】※子どもの体力向上 11/7(日)「親子元気アップスクール」富良野小体育館 93人			
H22	【研究テーマ『変革の時代における社会教育行政の役割』～地域の教育力向上のための方策】※子どもの体力向上 11/21「親子元気アップスクール」上富良野町社会教育総合センター187人(参加者159人、講師2人、従事スタッフ26人)	※富良野地区広域教育圏振興協議会で検証・評価		
H23	【研究テーマ『新しい公共』の担い手を育む社会行政の在り方～住民の社会参画促進のための社会教育施策の展開について】※子どもの体力向上 11/20「親子元気アップスクール」中富良野町総合スポーツセンター、133人(上富参加 50人)、体育指導委員3人支援			
H24	【研究テーマ『新しい公共』の担い手を育む社会行政の在り方～住民の社会参画促進のための社会教育施策の展開について】※子どもの体力向上 11/18上富良野町社会教育総合センター 「親子元気アップスクール」事業、スポーツ推進委員の支援 子ども123人、大人46人、託児10人、スタッフ46人 ※上富良野参加、大人16人、子ども83人、託児4人			
H25	【研究テーマ『新しい公共』の担い手を育む社会行政の在り方～住民の社会参画促進のための社会教育施策の展開について】※青年の社会参画(青年を対象とした集まる場の設定) 9/29ボルダリング&草木染め 15人 占冠村 10/5紅葉ラフティング 19人 南富良野町 10/13西岳登山 13人 富良野市 12/7スポーツ交流会 41人 上富良野町 2/8わかさぎ釣り 21名 南富良野町			

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
社会教育基盤整備	生涯学習社会の実現をめざし、学習環境づくりの推進(社会教育関係団体・社会教育関係施設)					共通	社会教育関係団体補助	社会教育関係団体の育成
						共通	学習情報の提供	住民に学習情報を提供
						共通	公民館本館	住民の学習・スポーツ活動の推進
						共通	公民館分館・活動	地域住民の学習・スポーツ活動を分館を拠点とし推進する

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	11団体(内1団体休会)に活動等補助、既・新規団体活動の状況把握と規定の見直し		毎年同額の補助ではなく、年毎に重点配分等を検討	H22年度～現状把握・分析し今後の補助を検討
H22	11団体(内1団体休会)に活動等補助		各団体と協議し、補助要綱等を検討	
H23	11団体(内1団体休会)に活動等補助			
H24	11団体(内1団体休会)に活動等補助 ※いしずえ大学開校40周年、青少年団体協議会設立50周年			
H25	11団体(内1団体休会)に活動等補助 ※文化連盟創立50周年			
H21	町広報(10日・25日)に掲載、HP生涯学習情報、防災無線、ポスター・チラシの掲示や対象者へ配布		住民周知は継続	広報誌、防災無線、HP等による情報提供の継続
H22	町広報(10日・25日)に掲載、HP生涯学習情報、防災無線、ポスター・チラシの掲示や対象者へ配布		住民周知の継続	
H23	町広報(10日・25日)に掲載、HP生涯学習情報、防災無線、ポスター・チラシの掲示や対象者へ配布			
H24	町広報誌、ホームページ、防災行政無線、チラシ、ポスターなど ※社教センターラウンジに各団体の活動報告、大会報告掲示板を設置			
H25	町広報誌、ホームページ、防災行政無線、チラシ、ポスターなど ※社教センターラウンジに各団体の活動報告、大会報告掲示板を設置			広報誌、防災無線、HP等による情報提供の継続
H21	26,266人 (H20年度 30,882人) 7月に大ホールの放送機器を更新		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	7月～10月 公民館の暖房設備を更新(個別暖房方式に変更) 29,184人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	26,851人 H23.6 公民館大ホール机更新(50台)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H24	25,290人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	25,191人			
H21	11,853人 (H20年度 調査無) 11分館の施設管理、活動補助。年2回分館長・主事会議を開催し、活動及び施設管理運営について協議 ※平成21年9月 日新体育館解体 ※平成21年11月 公民館本館・9分館 地デジ対応テレビ設置 ※平成21年12月 里仁分館改築		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	11分館の施設管理、活動補助。年2回分館長・主事会議を開催し、活動及び施設管理運営について協議 9,667人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	11分館の施設管理、活動補助。年2回分館長・主事会議を開催し、活動及び施設管理運営について協議 6分館トイレ等改修整備(H22交付金) ※平成23年7月里仁体育館解体 11,809人			維持・管理の継続
H24	11分館の施設管理、活動補助。年2回分館長・分館主事会議を開催し、分館活動及び施設管理運営について協議 14,112人			
H25	11分館の施設管理、活動補助。年2回分館長・分館主事会議を開催し、分館活動及び施設管理運営について協議 11,282人			

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
社会教育基盤整備	生涯学習社会の実現をめざし、学習環境づくりの推進(社会教育関係団体・社会教育関係施設)					共通	セントラルプラザ(2階学習等共用施設)	住民の学習活動の推進
						共通	コミュニティ広場	住民の学習・スポーツ活動の推進
						共通	東中多世代交流センターあつまるーむ(元東中保育所)	住民の学習活動の推進
						共通	清富多世代交流センター(元 清富小学校)	住民の学習・スポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	5,844人（H20年度 7,711人） 施設管理は商工会に委託 所管は産業振興課		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	施設管理は商工会に委託 所管は産業振興課 6,680人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	施設管理は商工会に委託 所管は産業振興課 6,029人			維持・管理の継続
H24	施設管理は商工会に委託 所管は産業振興課 6,284人			
H25	施設管理は商工会に委託 所管は産業振興課 5,110人			
H21	維持管理は住民会に委託		コミュニティ広場の利用について、詳細に報告願いたい屋外施設利用のため、実績は把握していない	維持・管理の継続
H22	維持管理は住民会に委託 日東は直営		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	維持管理は住民会に委託 日東のみ直営管理 ※東中コミュニティ広場トイレ便槽破損により、平成24年度予算により、改修工事			維持・管理の継続
H24	東中コミュニティ広場トイレ改修 4/27～6/13			
H25	維持管理は住民会に委託 日東のみ直営管理			
H21	2,157人（H20年度 2,030人） 施設管理は住民会に委託		多世代交流センターとの利用について、詳細に報告願いたい主に東中住民会等で利用	維持・管理の継続
H22	施設管理は住民会に委託 東中 1,493人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	施設管理は住民会に委託 利用者1,993人	地域での利用が主社会教育施設として有効活用の検討		維持・管理の継続
H24	施設管理は住民会に委託 利用者2,835人			
H25	施設管理は住民会に委託 利用者1,804人			
H21	清富 1,757人（H20年度 1,161人） 施設管理は住民会に委託		利用について、詳細に報告願いたい	維持・管理を、今後の方向性について検討
H22	施設管理は住民会に委託 清富分館床腐食のため、施設の一部を活動拠点として利用している 清富 2,222人	今後施設の活用について、検討・協議	住民が利用しやすい施設設備を	H23年度中に活用計画を策定し、有効利用できるような努めていく
H23	施設管理は住民会に委託 清富分館床腐食のため、施設の一部を分館活動の拠点として利用 (2,395人)	施設の活用について、今後も継続協議		
H24	※災害復旧による、グランドフェンス工事実施 3,856名			
H25	1,661人			

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
社会教育基盤整備	生涯学習社会の実現をめざし、学習環境づくりの推進(社会教育関係団体・社会教育関係施設)					共通	社会教育総合センター	住民の学習・スポーツ活動の推進
						共通	武道館	住民のスポーツ活動の推進
						共通	富原運動公園(野球場・テニスコートを含む)	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	アリーナ 51,193人 (H20年度 46,723人) コミセン 16,252人 (H20年度 15,772人)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい アリーナでの飲食について認められていないが、式典・祝賀会又は災害時の避難所等を想定した場合、必要ではないか	維持・管理の継続
H22	アリーナ 53,658人 コミセン 11,846人	祝賀会等飲食を伴う場合は、町内に会場があることから、慎重な協議が必要但し災害時には、緊急対応となる		維持・管理の継続
H23	69,874人(アリーナ・コミセン合算)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H24	※国旗掲揚台の修理 74,929人(アリーナ、コミセン合算) 裏グラウンド 述べ908人利用(8月からの集計)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	裏グラウンド 述べ3,714人利用 77,164人(アリーナ、コミセン合算) 「健康づくり推進のまち」宣言に伴う無料開放による利用者(2/9~15)461人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H21	11,181人 (H20年度 12,767人)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	12,286人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	12,838人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H24	14,074人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	13,454人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H21	運動公園 1,699人(H20 1,498人) 野球場 629人(H20 689人) テニスコート 3,301人(H20 3,222人)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	運動公園 0人(※芝養生のため今年度利用中止) 野球場 1,190人 テニスコート 3,814人	運動公園の利用は、H23年8月オープンにむけて整備	運動公園整備(野球場)の緊急性について⇒整備後30年経過し、盛土・芝の養生、スコアボードの劣化のため団体間の利用調整に課題はないか⇒利用時間等調整している	維持・管理の継続
H23	運動公園 627人 野球場 1,832人 テニスコート 2,786人			維持・管理の継続
H24	運動公園 述べ1,894人利用 野球場 述べ2,324人利用 テニスコート 述べ3,254人利用		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	運動公園 述べ2,220人利用 野球場 述べ1,959人利用 テニスコート 述べ3,719人利用		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続

④ 第7次社会教育中期計画の検証

領域	家庭	生活	地域	スポーツ	文化			
項目	親子の絆を深め、健やかな子育てを目指す家庭教育の推進	生涯学習の充実を図り、学習成果を幅広く発揮し、生きがいを育む人(ひと)づくりの推進	地域社会が一体となり、社会参加を目指す地域づくりの推進	地域の自然環境などを生かした、豊かな心とたくましい体を育むスポーツ活動の推進	豊かな情操と創造意欲を育む文化・芸術活動の推進	部会	事業名	目的
社会教育基盤整備	生涯学習社会の実現をめざし、学習環境づくりの推進(社会教育関係団体・社会教育関係施設)					共通	島津球場	住民のスポーツ活動の推進
						共通	B&G海洋センター	住民のスポーツ活動の推進
						共通	日の出スキー場	住民のスポーツ活動の推進
						共通	パークゴルフ場	住民のスポーツ活動の推進

年次	実施状況及び成果	課題	委員から質疑・意見	検証・評価
H21	1,368人 (H20年度 1,456人)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	1,587人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	1,603人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H24	述べ1,644人利用		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	防球ネット設置 述べ1,437人利用		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H21	11,099人 (H20年度 12,896人)		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H22	13,723人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H23	11,628人 期間5/26～9/30		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H24	13,180人 期間5/26～9/30		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	11,447人 期間5/26～9/30		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H21	65,163人 (H20年度 50,540人)		スーパーハウス等の設置は検討できないか利用人数に対して、休憩場所が狭くないか駐車場に課題はないか	利用実態を把握し、検証する
H22	暖冬による開設期間短縮により、リフト利用券を見直し(シーズン券、一日券、半日券) 82,161人		利用しやすい環境整備を検討していく	
H23	12/24オープン～3/11 93,831人			
H24	12/22オープン～3/10 85,980人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H25	12/21オープン～3/9 80,173人		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の継続
H21	30,543人 (H20年度 32,222人) ※平成18年度から指定管理者により運営 ※平成21～23年度の3カ年、指定管理者による運営		今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の持続
H22	28,572人 3コース 27Hを整備 ※平成18年度から指定管理者により運営 ※平成21～23年度の3カ年、指定管理者による運営	近隣コースが36Hのため要望有回数券利用の見直し	協会公認の有無⇒現在公認済プレーへの支障の有無⇒支障はない回数券利用について⇒指定管理者と協議し利用しやすい環境を整備	
H23	27,629人 期間4/29～11/3、拡張期間4/16～11/13 ※平成18年度から指定管理者により運営 ※平成21～23年度の3カ年、指定管理者による運営 ※平成24年度から、5ヶ年による指定管理者で運営			維持・管理の持続
H24	26,304人 利用期間4/29～11/3 ※拡張期間4/25～11/11まで			維持・管理の持続
H25	管理棟・大型東屋・東小屋塗装 24,274人 利用期間4/29～11/3 ※拡張期間4/21～11/10まで		大型東屋の塗装については、パークゴルフ協会・指定管理者のCST・教育委員会の三者で行っており、今後も町民が利用しやすい環境の維持・管理に努められたい	維持・管理の持続

⑤ 指定文化財、文化財保護委員会委員名簿

指定文化財

名 称	東中尋常高等小学校御真影奉置所
種 別	有形文化財
員 数	1 棟
指定年月日	昭和48年6月15日
所 在 地	上富良野町東8線北18号 八幡神社境内
所有者氏名	東 中 住 民 会
<p><内 容></p> <p>1 構造・形式・面積・高さ 構造：木造（総水松材） 形式：不明 面積：2.78 m² 高さ：3.09m</p> <p>2 建築年代または時代：大正4年10月</p> <p>3 創建および沿革 本建築物は、大正天皇の即位に際し、東中尋常高等小学校校庭に造営、大正12年当該小学校の火災により、現東中小学校校庭に移設、昭和16年10月に、紀元2600年記念事業で同窓会は、木造奉安殿を寄贈したことにより本建築物は倍本熊野神社本殿となり、昭和39年2月熊野神社と八幡神社との神体合祀により、神社としての使命を終え、現在八幡神社境内に保存されている。</p>	



名 称	憩いの楡
種 別	史 跡
員 数	5 m ²
指定年月日	昭和55年2月26日
所 在 地	上富良野町西3線北29号
所有者氏名	上 富 良 野 町
<p><内 容></p> <p>明治30年4月、未開の地であった富良野原野に初めて三重県から上富良野草分地区に団体移住し、開拓の鋤をおろした。その時に田中常次郎一行8名の先発隊が1本の楡の木の下で一夜を過ごしたことを記念して「憩いの楡」と刻まれた石碑を建て、当時をしのんでいる。</p>	



名 称	富原地区地神及び山の神	
種 別	史 跡	
員 数	2 体	
指定年月日	昭和55年12月9日	
所 在 地	上富良野町東7線北24号	
所有者氏名	富 原 住 民 会	
<内 容> 上富良野高校郷土史研究会は、この「地神及び山の神」は、以前旭川永山農場内にあり、ここから、現在の富原地区へ移住した四国出身者により創祀されたものと研究報告した。 この報告を受け、調査した結果、これらが富良野地方で最も古い史跡であるとの結論が得られ、町指定文化財として永く保存することとした。		

文化財保護委員会委員名簿

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

	氏 名	所 属	選出区分	備 考
1	小岩 正敏	上富良野高等学校長	1号	～平成25年3月
	長谷 弘之	上富良野高等学校長	1号	平成25年4月～
2	大寺 基	校長会	1号	～平成25年3月
	古川 慎一	校長会	1号	平成25年4月～
3	須賀美都江	校長会	1号	
4	安西 英雄	社会教育委員	2号	
5	大西 邑子	社会教育委員	2号	
6	三原 康敬	文化団体	3号	
7	三好 稔	学識経験	4号	
8	羽賀美代子	学識経験	4号	
9	田中 正人	学識経験	4号	
10	北川 啓子	学識経験	4号	

⑥ 社会教育施設一覧

施設名	建設・設置年	概要	利用期間
社会教育総合センター(緑町分館)	昭和62年	アリーナ、コミュニティ施設	通年 年末年始休館
社会教育総合センター広場	昭和62年	ラグビー・サッカー・パークゴルフ(9ホール)	5月～10月
上富良野町図書館ふれんど	平成17年	閲覧室、読み聞かせ室	月曜日・祝日・年末年始休館
上富良野町郷土館	昭和53年	旧上富良野村役場庁舎 1階 249.6㎡ 2階 223.27㎡	日・月曜日・祝日、11月～3月休館 ※平成25年度から日曜日臨時開館 平成26年度から祝日も臨時開館
上富良野町開拓記念館	平成9年	吉田貞次郎邸を移築 150.88㎡	① 5・6・9・10月(土・日のみ開館) ② 7月～8月(火～日開館)
上富良野町公民館	昭和46年	多目的ホール、会議室 調理室、和室	通年 年末年始休館
上富良野町公民館清富分館	昭和51年	研修室、調理室、図書室	通年 ※平成20年度から閉館
上富良野町公民館日新分館	昭和54年	集会室、調理室	通年
上富良野町公民館草分館(防災センター)	平成2年	集会室、研修室、会議室、 調理室	通年
上富良野町公民館里仁分館	平成21年	集会室、和室、調理室	通年
上富良野町公民館江幌分館	昭和50年	集会室、調理室、研修室	通年
上富良野町公民館江花分館	平成15年	和室・集会室、調理室	通年
上富良野町公民館日の出分館(日東会館)	昭和57年	休憩室、保育・学習室、 研修室、調理室	通年
上富良野町公民館島津分館(公民館)	昭和46年	多目的ホール、会議室、 調理室、和室	通年
上富良野町公民館旭野分館	昭和55年	集会室、調理室、図書室	通年
上富良野町公民館富原分館	平成5年	集会室、調理室、和室、 会議室	通年
上富良野町公民館東中分館(東中会館)	昭和51年	休憩室、保育・学習室、 研修室、調理室、図書室	通年
東中多世代交流センター(旧 東中保育所)	平成18年 開館(平成12年建設)	集会室A・B	通年
清富多世代交流センター(旧 清富小学校)	平成19年 開館(平成6年建設)	学習室A～E、多目的ホール、 大集会室、小集会室、講堂、屋外運動場	通年

施設名	建設年	概要	利用期間
東中コミュニティ広場	平成 4 年	パークゴルフ (18 ホール)、 ゲートボール (4 面)	5 月～10 月
富原コミュニティ広場	平成 5 年	ゲートボール	5 月～10 月
草分コミュニティ広場	平成 4 年	パークゴルフ (18 ホール)	5 月～10 月
江花コミュニティ広場	昭和 5 6 年	パークゴルフ	5 月～10 月
江幌静修コミュニティ広場	平成 1 3 年	ゲートボール	5 月～10 月
日東コミュニティ広場	平成 6 年	ゲートボール (1 面)	5 月～10 月
武道館	平成 6 年	剣道場、柔道場、弓道場	通年 年末年始休館
B&G 海洋センター	平成 2 年	一般用 6 コース 25m 幼児用 10m×6m 温水設備有	5 月下旬～9 月
運動公園野球場	昭和 5 2 年	面積 9,000 m ² 両翼 91m×センター 113m	5 月～10 月
// テニスコート	昭和 5 2 年	クレーコート 3 面 全天候型 3 面 (夜間照明設備 5 面)	5 月～10 月
// 多目的広場	平成 6 年	面積 13,510 m ² サッカー場、ちびっこ広場、 健康広場	5 月～10 月
// ジョギングコース	平成 6 年	1 周 1,046m (夜間照明設備付)	5 月～10 月
ゲートボール場	平成 1 4 年	面積 4,100 m ² (75m×55 m) ゲートボール場 5 面	5 月～10 月
島津球場	昭和 5 1 年	両翼 70m×センター77m (夜間照明設備 6 基 24 灯)	5 月～10 月
パークゴルフ場【指定管理】	平成 1 3 ～1 4 年	3 コース、27 ホール、パー99 (全長 1,472m) 国際パークゴルフ協会認定 コース	4 月～11 月
日の出スキー場【指定管理】	昭和 6 0 年	面積 11.78 h a 最大斜度 28 度・平均 12 度 標高差 43m シュブリティ 1 基 200m (夜間照明付 11 灯)	12 月～3 月
学校開放体育館	昭和 5 2 年	上小、西小、上中、東中小、 ※江幌小は平成 26 年度まで 開放	通年 平日 18 時 30 分 ～21 時まで

⑦ 社会教育関係団体、社会教育関係機関

社会教育関係団体

団体名	設立年	趣旨・目的	活動内容	平成25年度 団体 (会員数)
子ども会育成協議会	昭和42年	町の将来を担う少年の健全な育成と指導に関する事業を推進し、子ども会活動活性化の促進に援助する。	夏休みラジオ体操、提灯行列、子どもまつり、未組織地区の組織化指導	28団体 (594名)
青少年団体協議会	昭和37年	地域の活性化、新たな生活文化の創造と生涯学習の意識高揚に基づく、地域青年リーダー養成の促進と援助を図る。	ボランティア活動、交流活動・各種行事等への参加及び支援	(28名)
父母と先生の会連合会 (町P連)	昭和35年	家庭、学校、地域社会の連携を図り、健全な青少年育成への取組みを進めるとともに、地域の連帯感推進に援助する	各種研修会への参加、教育情報の収集と提供、各単位PTAの連携と活動の推進	5団体 (854名)
女性連絡協議会	平成元年	女性団体の連携と、地域活動にかかる女性活動、生涯学習体制づくり促進への援助を図る。	各種研修会への参加と報告、機関紙の発行、各加盟団体との連携	6団体 (586名)
いしずえ大学自治会	昭和58年	高齢化のすすむ社会の中で、生き甲斐ある人生設計のため生涯学習の場として、大学生自らが行う学習活動を援助する。	奉仕作業、ボランティア活動等	(117名)
文化連盟	昭和38年	芸術、文化関係の生涯学習活動の促進と地域づくり、仲間づくりを支援する。	芸術祭、文化祭、道民芸術祭への参加及び各種行事への参加 公民館活動への協力	38団体 (389名)
公民館友の会	昭和55年	生涯学習活動の各種指導者として、各方面での生涯学習活動を支援する。(※文化連盟会員等が加盟)	公民館活動への協力 文化祭への参加・ボランティア活動	(34名)
郷土をさぐる会	昭和55年	郷土の文化、歴史の保存と記録整理活動及び指導者養成を支援する。	かみふらの「郷土をさぐる」編集発行・郷土にかかる調査研究	(200名 協賛者含む)
読み聞かせ「ムーミンの会」	平成19年	幼児期から本に接する機会を与え読み聞かせを通じて、ふれあいの場づくりと図書館利用推進を図る。	町内幼稚園、保育所(園)、小学校での読み聞かせ活動	12名
ものがたり文化の会	平成19年	小学生から高校生の豊かな創造力をはぐくむため、宮沢賢治作品を通して表現力等を高める。	小学生から高齢者への読書活動	9名
よつばの会	平成6年	上富良野町に関する新聞記事切り抜きを行い、郷土資料保存する。	上富良野町に関する新聞記事の切り抜き	5名
体育協会	昭和41年	町内スポーツ団体を総括し、スポーツの振興とスポーツ精神の普及を図り、町民の健康づくりと明るいまちづくりに寄与する。	加盟団体への支援、講演会・講習会の開催、普及推進事業など	20団体 (1,728名)

スポーツ少年団	昭和50年	少年のスポーツを促進し、活動を活発にするため、各少年団の育成指導を図る。	加盟少年団の支援、交流事業の開催、指導者等の養成	12団体 (348名)
女性スポーツ協議会	昭和53年	女性スポーツ団体相互の交流や親睦、研修等を実施することにより女性スポーツ活動の発展と推進を図る。	加盟団体相互の連携、研修会への参加等	5団体 (56名)

社会教育関係機関 (事務局:教育振興課)

団体名	設立年	趣旨・目的	活動内容	平成25年度 (役員・構成)
放課後子どもプラン事業運営協議会	平成19年	放課後等における児童の安全安心な居場所として、地域住民参画を得ながら学習体験活動を実施。	放課後クラブ、放課後スクールの運営	教頭会 他11名
地域教育力向上推進実行委員会	平成19年	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動	学校支援本部事業の実施	教頭会 他11名
青少年健全育成をすすめる会	平成7年	青少年育成関係機関、団体との情報交換及び連携を密にし青少年の健全育成と非行防止、さらに町民全体の意識高揚を支援するため、実行委員会を組織し運営。	関係機関との連携強化、環境活動、啓発活動、巡回補導活動	生徒指導連絡協議会 会長他7名(75団体)
青少年国内交流実行委員会	平成20年	友好都市の青少年との交流を通じて見聞を広め、国際性を育むため、実行委員会を組織し運営。	町内在住の小学4～6年生を対象に、三重県津市等を訪問し児童との交流と歴史について学習。	校長会 他6名
青少年国際交流実行委員会	平成15年	友好都市の青少年との交流を通じて見聞を広め、国際性を育むため、実行委員会を組織し運営。	町内在住の中学生・高校生を対象に、カナダカムローズ市ホームステイ等による交流。	校長会 他6名
町民芸術劇場実行委員会	平成2年	町民の芸術鑑賞の機会を提供するため、実行委員会を組織し運営。	演劇、音楽等の鑑賞(幼児・小学校、成人式等)	校長会・教頭会・各小学校、保育所(園)・幼稚園 10名
文化祭実行委員会	昭和38年	文化・芸術振興のため、実行委員会を組織し運営。	作品展示・芸能発表・演劇鑑賞・文化体験等を文化の日を中心に各種事業を実施。	町長 他18名
町民ふれあいスポーツ大会実行委員会	平成14年	町民のスポーツ文化の推進と発展を図るため、実行委員会を組織し運営。	スポーツ大会、教室、講演会等の開催	教育長 他8名

《第5章 資 料》

1 町の人口数、学校数・学級数・児童生徒数の現況

(1)町人口の現況と今後の推移予測

(現況人口 H25年10月末現在、予測人口 H21年第5次総合計画)

年 度	平成20年度	平成25年度	平成30年度
現況人口	12,204人	11,526人	
予測人口		11,954人	11,508人
65才以上		3,181人	3,911人

(2)学校数・学級数・児童生徒数の25年度現況

(H25年10月末現在)

()内は特別支援学級数で内数

小学校	4校	上富良野小学校	19学級 (6)	458名
		上富良野西小学校	10学級 (4)	141名
		東中小学校	5学級 (2)	16名
		江幌小学校	4学級 (1)	11名
中学校	2校	上富良野中学校	14学級 (4)	316名
		東中中学校	1学級	5名
計	6校		53学級 (17)	947名

(3)児童生徒(5～14才)の数の現況と今後の推移予測

(現況人口 H25年10月末現在、予測人口 H21年第5次総合計画)

年 度	平成20年度	平成25年度	平成30年度
現況人数	1,020人	1,065人	
予測人数		936人	852人

2 第5次総合計画町民アンケート結果 (教育関連項目)

町民アンケートの概要

◎本計画の見直しに当たり、基礎資料とすることを目的として、平成25年6月にアンケート調査を実施

- ◆ 調査対象 上富良野町に居住する20歳以上の町民 1,000人
- ◆ 抽出方法 平成25年4月末時点における20歳以上の町民を無作為抽出
- ◆ 回答率 41.9%(有効回答数 419人)

H25.7	アンケート送付数	1,000	回答者数	419	回答率	41.9%
H19.9	アンケート送付数	1,300	回答者数	650	回答率	50.3%

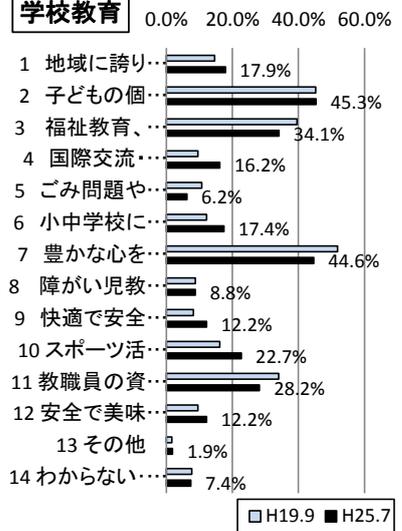
(1) 学校教育について、今後、どのようなことに重点を置いたらよいと思いますか。

学校教育

太字=トップ3

項目	H19	H25	前回は ±5P以上
1 地域に誇りを持つ個性的な教育の推進	14.6%	17.9%	
2 子どもの個性を伸ばすとともに、共同性を育てる教育の推進	45.2%	45.3%	
3 福祉教育、人命・人権尊重教育の推進(ボランティア活動、いじめ不登校問題など)	39.5%	34.1%	↓
4 国際交流・協力など、国際的な視野を養う教育の推進	9.5%	16.2%	↑
5 ごみ問題や環境保全など、環境・景観教育の推進	10.8%	6.2%	
6 小中学校におけるパソコン学習の充実や情報化への対応の推進	12.2%	17.4%	↑
7 豊かな心を育てる道徳教育の充実	51.8%	44.6%	↓
8 障がい児教育など、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	8.8%	8.8%	
9 快適で安全な教育施設の整備充実	8.2%	12.2%	
10 スポーツ活動や部活動の推進	16.2%	22.7%	↑
11 教職員の資質の向上と時代にふさわしい活力ある学校経営の推進	34.0%	28.2%	↓
12 安全で美味しい学校給食の提供と食育の推進	9.5%	12.2%	
13 その他	1.7%	1.9%	
14 わからない・不明	7.7%	7.4%	

学校教育



■子どもの個性を伸ばすとともに、共同性を育てる教育の推進など、確かな学力と豊かな心を育む学習環境づくりに関する施策への関心が高い。

「子どもの個性を伸ばすとともに、共同性を育てる教育の推進」が最も高く、次いで「豊かな心を育てる道徳教育の充実」、「福祉教育、人命・人権尊重教育の推進(ボランティア活動、いじめ不登校問題など)」のニーズが高くなっています。これはH19アンケートとおおむね同様の結果となっています。

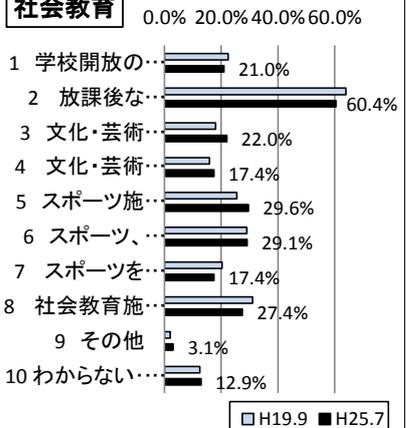
(2) 社会教育について、今後、どのようなことに重点を置いたらよいと思いますか。

社会教育

太字=トップ3

項目	H19	H25	前回は ±5P以上
1 学校開放の推進(町内会等の行事における教室等の開放)	22.5%	21.0%	
2 放課後など、子どもが安全に活動できる場の確保(放課後子どもプラン、放課後クラブ)	64.0%	60.4%	
3 文化・芸術活動における発表の場の整備・充実	18.0%	22.0%	
4 文化・芸術活動における事業運営費の経費支援強化(自主企画事業の充実)	15.8%	17.4%	
5 スポーツ施設の整備・充実(屋外施設の照明設置など)	25.5%	29.6%	
6 スポーツ、文化、サークル等のリーダー育成や指導者養成	29.1%	29.1%	
7 スポーツをより深く理解するための機会の提供(スポーツ教室の開催、審判講習会の開催)	20.3%	17.4%	
8 社会教育施設の充実(図書館、開拓記念館、郷土館、公民館の展示内容等の充実)	31.1%	27.4%	
9 その他	2.0%	3.1%	
10 わからない・不明	12.5%	12.9%	

社会教育



■放課後など、子どもが安全に活動できる場の確保(放課後子どもプラン、放課後クラブ)など、子どもの安全な居場所づくり、スポーツなどを通じた健康で心豊かな人づくりに関する施策への関心が高い。

「放課後など、子どもが安全に活動できる場の確保(放課後子どもプラン、放課後クラブ)」が最も高く、次いで「スポーツ施設の整備・充実(屋外施設の照明設置など)」、「スポーツ、文化、サークル等のリーダー育成や指導者養成」のニーズが高くなっています。これはH19アンケートとおおむね同様の結果となっています。

3 用語の説明

「知識基盤社会」

- ◎ 新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会であることを意味しています。

【第1章4 教育を取り巻く状況】

「不易な価値観」

- ◎ 教育において、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値のあるものとする見方や考え方を言います。

【第1章4 教育を取り巻く状況】

「全国学力・学習状況調査」

- ◎ 次の目的で平成19年度から小学校6年生と中学校3年生を対象に実施しています。

- 1 義務教育の機会均等とその水準の維持向上から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善を図る。
- 2 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 3 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【第1章4 教育を取り巻く状況、第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「確かな学力」

- ◎ 知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題をみつけ、自ら学び主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を意味します。

【第1章4 教育を取り巻く状況、第3章1 学校教育基本方針、2 学校教育推進目標、3 学校教育における基本施策の重点】

「豊かな心」

- ◎ 豊かな人間性ともいえるもので、自らを律し、他と協調しながら、他人を思いやる心や感動する心などを意味します。

【第1章4 教育を取り巻く状況、第2章 教育目標、第3章1 学校教育基本2 学校教育推進目標、3 学校教育における基本施策の重点、第4章1 社会教育基本方針】

「健やかな体」

- ◎ 健康的な生活を意識・実践し、健康な体をつくることと、運動やスポーツ活動などを通してつくられた強靱な体力や高い運動能力をもつ体を意味します。

【第1章4 教育を取り巻く状況、第2章 教育目標】

「生きる力」

- ◎ 「豊かな心」、「健康でたくましい体」、「確かな学力」という三つの力を付け、積極的に課題を解決し、未来を切り拓いていく力を意味します。

【第2章 教育目標】

「知 性」

- ◎ 知識、理性（理論的などらえ）、知恵・分別（人としてのわきま）などをまとめたものとして説明されています。前述の「確かな学力」につながるものです。

【第2章 教育目標】

「良 さ」

- ◎ 個々人が持っている個性（特性）や能力を意味します。

【第2章 教育目標】

「感 性」

- ◎ 五感（視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚）を通して価値あるものに気づく感覚で、美しいものに感動したり味わったり、人や自然への思いやりや優しい心、チャレンジする心などを意味します。

【第2章 教育目標】

「たくましい体」

- ◎ 好ましい生活習慣をもとに、外での遊びやスポーツ活動などを通して、体力・運動能力を高めた体を意味します。

【第2章 教育目標、第3章1 学校教育基本方針】

「開かれた学校」

- ◎ 学校の教育活動内容を保護者や地域の人々に知らせ、意見などを聞くとともに、側面からの協力を得ながら保護者・地域・学校の三者が連携を深めて教育にあたることをめざした言い方です。

【第3章 学校教育基本方針】

「人間力」

- ◎ 人材育成の基本的ビジョンとして多方面で提唱されている用語で、「知力・実践力・気力・体力・コミュニケーション能力」の5つの構成要素を総合した言葉です。これをもって、職場などの活性化や豊かな社会実現に貢献することを期待されている人間像です。

【第3章1 学校教育基本方針】

「勤労観」

- ◎ 働くことよさや大切さを理解するとともに、社会奉仕の喜びを知り公共のために役立つとする考え方や見方をもつことです。

【第3章2 学校教育推進目標】

「キャリア教育」

- ◎ 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしく生き方を促す教育のことを意味します。

【第3章2 学校教育推進目標】

「食育」

- ◎ 様々な経験を通じて「食育」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、豊かで健全な食生活を実践することができる人間を育てることを意味します。

【第3章2 学校教育推進目標】

「確かな学力の育成プラン」

- ◎ 学力の向上に向けては、授業力や指導力を高めるための校内研究の重要さはもとより、日々の授業が大切な検証・研修の場であると考えます。従って「研究・研修に基づく実践」と「日常的な指導支援」が並行・融合しながら教育活動を進めることが必要であると考えています。その上で、以下の内容を踏まえて作成を行います。

- ①実施期間 ②児童生徒の実態 ③目標 ④改善の具体方策
⑤実施計画 ⑥評価方法 ⑦組織体制

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「個に応じた指導」

- ◎ すべての児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、一人一人に応じたきめ細やかな指導をすることを意味します。（指導方法として、個別指導、グループ指導、繰り返し指導、少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング等）

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「標準学力検査」

- ◎ 全国的に使われ標準化された検査問題で、「問題のねらい」や「誤りやすい点・指導上の留意点」が掲載され、その後の指導に役立てることができるようになっていました。また、全国的に使われているため、正確な学力測定と、その後の学力向上のための指導の策定において最適な検査です。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「外国語教育」

- ◎ 外国語を習得させることを目的とした教育の総称です。現在は、中学校は外国語として英語を学んでおり、小学校では「外国語に親しむこと」を目的として外国語活動を行っています。（小学校5・6年生年間35時間、中学校週4時間）

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「総合的な学習の時間」

- ◎ 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることをねらいとする学習の時間です。

横断的・総合的な学習の意味

△ 横断的な学習各教科・道徳・特別活動の枠を残しながら、特定のテーマに関する学習内容・活動を関連づけて編成する学習を言います。

△ 総合的な学習各教科・道徳・特別活動の枠を取り去って、特定のテーマに関する新たな学習内容・活動を編成する学習を言います。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「特別活動」

- ◎ 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養います。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「全国体力運動能力、運動習慣調査」

- ◎ 調査の目的は、
 - 1 児童生徒の体力が低下している状況にかんがみ、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
 - 2 各学校が各児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てることをめざしています。（調査対象は、小学校5年生・中学校2年生）

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「開かれ信頼される学校」

- ◎ 児童生徒のより良い育成を目指す学校教育を進めるうえで、学校が地域住民の信頼に応え、保護者や地域社会が連携協力することで、子どもたちの健やかな「育ち」の促進が図られます。また、学校を開かれたものとするためには、説明責任を明らかにすることをめざしていくことです。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「外部評価」

- ◎ 学校での教育活動の内容に対し、学校の外部の方々（保護者・地域・PTA・学校評議員等）からご意見を広く聞く評価の進め方を意味します。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「学校評議員」

- ◎ 地域に開かれた学校を一層推進するため、地域の有識者から校長が推薦し、教育委員会が委嘱する委員で、学校参観などを行い、校長の求めに応じて学校運営についての意見を述べてもらいます。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「学校関係者評価委員」

- ◎ 学校が、自己評価（教職員が行う評価）や外部アンケートから自校の課題を明確にし、その解決の方策をたてたものを客観的に検討する委員です。現保護者を含め、その学校の内容を知る外部の者で構成します。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「特色ある教育活動」

- ◎ 学校を囲む地域も取り入れ、子どもの思いを大切にしながら、「確かな学力の育成をめざし、教職員や地域が手を携え合い、語り合い、創意工夫する教育活動」であることを意味します。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「魅力ある学校づくり」

- ◎ 児童生徒たちが楽しく学習し、保護者や地域住民が信頼を寄せる学校をつくることを意味します。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「教育課程」

- ◎ 学校教育の目的や目標を達成するため、児童生徒の心身の発達に応じ、教育の内容を授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画のことです。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「授業力」

- ◎ 教師として必要な力で、教材理解・把握力、児童生徒理解力、授業設計力、指導技術・演技・評価力、使命感や情熱など教育の専門家としての確かな指導力量、総合的な力を意味します。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「メンタルヘルス」

- ◎ 「こころの健康」で、単に病気でないということだけでなく、より健康な状態、最良の状態を意味します。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「特別支援教育」

◎ 従来の「特殊教育」の対象の障がいだけでなく、ADHD、LD等を含めて、障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、または克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うことを意味します。

ADHD 「注意欠陥・多動性障がい」と表され、知的には問題はないが、じっとしてられない、注意力散漫で失敗することが多くなる、衝動的な言動がしばしばあるなどの障がいです。

L D 「学習障がい」と表され、生活面に支障はないが、ある特定部分の学習が困難とされる障がい（読み書きは通常にできるが、計算ができないなど）です。

【第3章3 学校教育における基本施策の重点】

「生涯各期」

◎ 幼少期・青年期・成人期・壮年期など生涯をいくつかの時期に分けた見方で、それぞれの期における思いや考え方、立ち場などの違いをいいます。

【第4章1 社会教育基本方針】

「放課後プラン」

◎ 放課後スクールと放課後クラブに分かれて取り組み、放課後の空き教室などを活用し、指導員がついた中で子ども達の遊び場など提供しているものです。

放課後クラブは、16時以降、留守家庭児童の預かり事業として、18時まで行われています。

【第4章4 社会教育の現状と課題について】

4 教育振興基本計画の作成に係った関係機関及び関係者

□上富良野町校長会

若林弘士	上富良野小学校長	校長会会長
須賀美都江	東中中学校長	校長会副会長
佐々木 克	上富良野中学校長	校長会事務局長
佐々木 雅宏	上富良野西小学校長	
古川 慎一	東中小学校長	
黒田 広幸	江幌小学校長	

□上富良野町社会教育委員

本田邦光	委員長		
稲毛保夫	副委員長		
若林弘士	委員	須藤セツ子	委員
佐々木 克	委員	本田友彦	委員
長谷弘之	委員	渡辺雄介	委員
仲島義博	委員	大西邑子	委員
瀬川道一	委員	小田島久尚	委員
安西英雄	委員	佐々木麗子	委員
福本利則	委員		

□上富良野町教育振興課

野崎孝信	教育振興課長	鈴木真弓	社会教育班主幹
及川光一	学校教育班主幹	川久保 明	社会教育班主査
大谷隆樹	学校建設担当主幹	高橋慎也	社会教育班主査
渡邊寿恵	学校教育班主査	飯村友香	社会教育班主任
中島美佐子	学校教育班主査	小野正人	社会教育班主任
新井 晶	学校教育班主査	田中悠翔	社会教育班主事
佐藤博光	学校教育アドバイザー	小田島亮悟	社会教育班主事

上富良野町教育振興基本計画（改訂版）

発行日 平成26年3月

発行者 上富良野町教育委員会